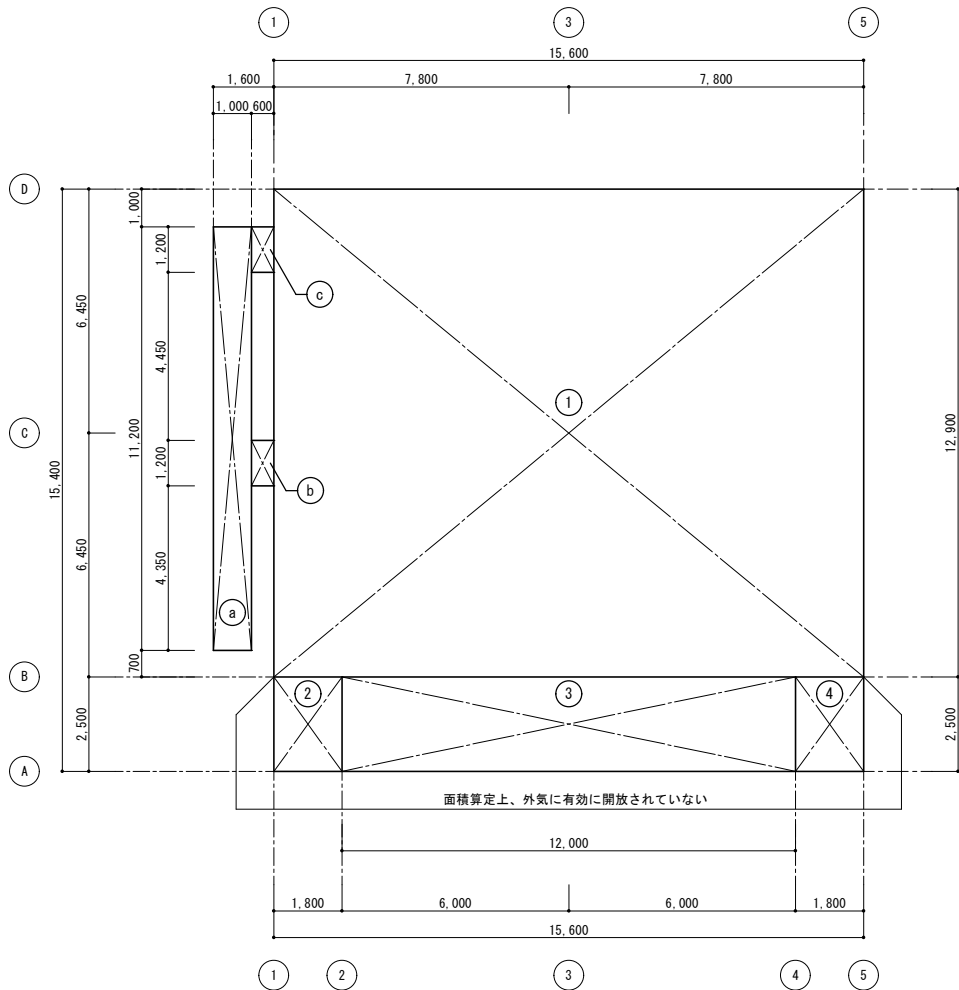


# 幕張駅北口自転車駐輪場新築工事

図面リスト			図面リスト		
図面番号	図面名称	縮 尺	図面番号	図面名称	縮 尺
A－００	表紙・図面リスト	-			
A－０１	設計概要書	-	S－０１	構造設計標準仕様	-
A－０２	建物求積図・面積表・平均地盤面算定図・算定表	1/100	S－０２	鉄筋コンクリート構造 配筋標準図(1)	-
A－０３	案内図・敷地求積図	1/100	S－０３	鉄筋コンクリート構造 配筋標準図(2)	-
A－０４	配置図	1/60	S－０４	鉄骨構造標準図(1)	-
A－０５	各階平面図	1/100	S－０５	鉄骨構造標準図(2)	-
A－０６	立面図	1/100	S－０６	QLデッキ合成スラブ 設計・施工標準	-
A－０７	断面図	1/100	S－０７	スーパーEデッキ 設計・施工標準仕様書	-
A－０８	矩計図	1/50	S－０８	ポーリング柱状図	-
A－０９	スロープ断面詳細図	1/50	S－０９	SSコラム工法特記仕様書	-
A－１０	階段詳細図	1/50	S－１０	地盤改良杭・基礎・1階伏図	1/100
A－１１	雑詳細図	図示	S－１１	2・R階伏図	1/100
A－１２	ラック平面図	1/100	S－１２	軸組図（１）	1/100
A－１３	駐輪ラック詳細図	1/30	S－１３	軸組図（２）	1/100
A－１４	外構図平面図	1/60	S－１４	基礎リスト	1/30
A－１５	外構詳細図	1/10・20	S－１５	基礎梁リスト	1/30
A－１６	消防法規チェック図	1/100	S－１６	鉄骨リスト(1)	1/20
			S－１７	鉄骨リスト(2)	1/20
仮設－０１	仮設計画図(参考)	1/60・150	S－１８	鉄骨架構詳細図(1)	1/15
			S－１９	鉄骨架構詳細図(2)	1/15

工事名称						仕上げ・設備													
工事名称		幕張駅北口自転車駐輪場新築工事				用 途		仕上げ・仕様・設備											
建設地		千葉市花見川区千葉都市計画事業東幕張土地区画整理事業 54街区11画地 [底地]千葉市花見川区幕張町6丁目99-1,-2,-3,-4,-6,-11,-14,-15,-16,-17, 100-4の各一部 幕張町6丁目99-13の全部				柱・梁		●溶融亜鉛めっき A種 ○合成樹脂調合ペイント											
主要用途		自転車駐輪場（原付125CC以下）				車室・車路（各階床、屋根）		○コンクリート金コテ仕上げ（膨張材混入） ●コンクリート刷毛引き仕上げ				合成スラブデッキ床版 t=1.2, Z12 コンクリート山上100 CDメッシュ CD6-@100 シングル							
工事種別		新築工事				斜路付階段 （屋根：H12建告1365号第1ー）		斜路、階段踏面：●コンクリート金コテ仕上げ 手摺：●縦格子 溶融亜鉛めっき											
敷地状況						補強筋		●梁上補強筋（外周梁を除く）：D10-@200、 ●柱廻り菱形補強筋（屋上階を除く）：D13											
敷地面積 都市計画		敷地面積： 337.37㎡ ●区域内（●市街化区域 ○市街化調整区域） ○区域外		建ぺい率 容積率		指定： 80% *%（○防火地域適用 ○角地適用） 指定： 400% *%（○前面道路規制 ○特定道路適用）		1階床		○コンクリート金コテ仕上げ（膨張材混入） ●コンクリート刷毛引き仕上げ ○アスファルト舗装 ○コンクリート金コテ仕上げカッター目地入り）									
用途地域		○第 種低層住居専用地域 ○第1種中高層住居専用地域 ○第1種住居地域 ○準住居地域 ○近隣商業地域 ●商業地域 ○準工業地域 ○工業地域 ○工業専用地域 ○無指定		関係法令による その他の区域等		注記：建ぺい率の制限の算定は法53条2項による 容積率の制限の算定は法52条4項による		1階床下（デッドスペース）		○砕石敷 t=50 ○砂利敷 t=50 ○アスファルト舗装 t=50 ●コンクリート刷毛引き仕上げ ○コンクリート金コテ仕上げ（カッター目地入り）									
防火指定		○防火地域 ●準防火地域 ○法22条区域内 ○無指定						1階立上り		●コンクリート打放し ○吹付タイル									
道 路		道路幅員 北側： *.*m 東側： *.*m 南側： *.*m 西側： *.*m		備 考		・「独立した自走式自動車車庫の取扱いについて」を適用		床防水		○なし ●R階（○ウレタン系塗膜防水 ●ケイ酸質系塗布防水（浸透性無機系防水材料））									
構造・規模						天 井		●デッキプレート（亜鉛めっき：Z12）現し											
形 式						自転車駐輪場		手 摺		●カラー鋼板 t=0.8（JIS G3322）落し込み工法 ●縦格子 溶融亜鉛めっき ●メッシュフェンス（侵入防止用） ●メッシュフェンス門扉									
認定種別		●事務連絡		高 さ		階		階 高		備 考		防火壁		●カラー鋼板 t=0.8（JIS G3322）落し込み工法 FL+1, 550					
構造種別		重量鉄骨造2階建（長辺・短辺方向共、ラーメン架構）				2		3.10 m				屋外階段 （屋根：H12建告1365号第1ー）		●鋼製手摺 溶融亜鉛めっき （段板：●踊場・踏面コンクリート刷毛引き仕上、 段鼻：●ノンスリップ（SUS）					
構造形式		地盤支持（○ベタ ○布 ●独立） その他（ ）				1		3.10 m				表示板等		○車室区画ライン引き ○コーナーガード （ライン引きーコンクリート部：トラフィックペイント（黄）・アスファルト部：路面標示用塗料（3種溶着：黄）） ○カーブミラー					
主要構造部		不燃材料										雨水排水溝蓋		●グレーチング（溶融亜鉛めっき）ボルト固定					
階 数		（ B 0 ）（ F 2 ）2層3段										ルーフトレイン		●鉄鉄製（○φ50 ●φ75 ○φ100 ○φ125 ○φ150 ○φ200）					
スロープ（斜路）		緩勾配 ○有 ●無				最高高さ		7.950 m				堅 樋		●VP管（○φ50 ●φ75 ○φ100 ○φ125 ○φ150 ○φ200）					
						最高軒高		6.400 m		※平均地盤面からの高さを示す		電気設備（別途工事）		○電力引込設備 ●幹線動力設備 ●電灯コンセント設備 ○電話配線設備 ○放送設備 ○自動火災報知設備 ●照明設備（●屋内：LED反射笠付 ●屋上：ポール灯（LED） ○屋外：水銀灯 ） ●監視・放送設備（監視カメラ：EVかご内）					
面 積						消火設備		○第3種移動式粉末消火設備 ●消火器 ○連結送水管設備（放水口：○R階のみ ○3階以上の各階）											
各階床面積		階		申請部分		申請部分		建ぺい率・容積率		その他		自転車ラック 水平上下限定式 垂直上段ラック ※一般社団法人自転車駐車場工業会認定品で強度区分Ⅳであること							
		2		240.24㎡		延べ面積		493.12㎡		146.17 ≤ 400%									
		1		252.88㎡		建築面積		252.88㎡		74.96 ≤ 80%									
		合計		493.12㎡															
収容台数						部材耐火リスト													
駐輪台数		階		W400X L2000		合計		部位		仕様		区分		備考					
		R		258台		258台		屋根		コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）		不燃材料		H12建告1400号一、十（H12建告1365号第1ー）					
		2		211台		211台		柱		一般構造用圧延鋼材 SS400 一般構造用角形鋼管 STKR400 鉄骨構造用冷間ロール成形角形鋼管 BCR295		不燃材料 不燃材料 不燃材料		H12建告1400号八 H12建告1400号八 H12建告1400号八					
		1		230台		230台		床		コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）		不燃材料		H12建告1400号一、十					
		合計		699台		699台		梁		建築構造用圧延鋼材（SN材） 一般構造用圧延鋼材（SS材）		不燃材料 不燃材料		H12年建告1400号八 H12年建告1400号八					
						手摺		カラー鋼板				不燃材料		H12建告1400号十					
						屋外階段		鉄骨 溶融亜鉛めっき（鋼製手摺共）				不燃材料		H12建告1400号八					
						斜路付階段		鉄骨 溶融亜鉛めっき（鋼製手摺共）				不燃材料		H12建告1400号八					
						※建築材料に石綿を添加しない。 ※石綿をあらかじめ添加した建築材料を使用しない。													
備 考																			
						・給水設備なし													



建物求積図 S=1/100

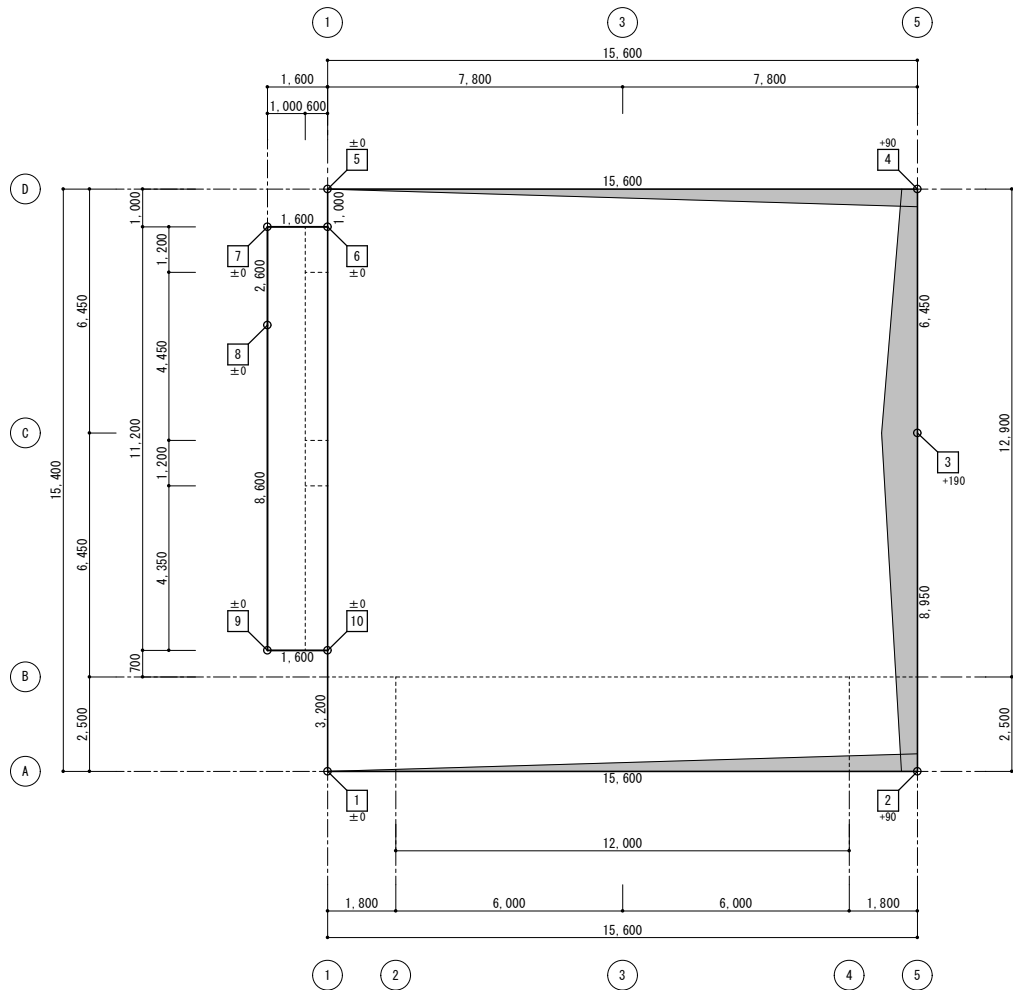
建築面積			
記号	横 (m)	縦 (m)	面積 (㎡)
①	15.600	12.900	201.2400
②	1.800	2.500	4.5000
③	12.000	2.500	30.0000
④	1.800	2.500	4.5000
a	1.000	11.200	11.2000
b	0.600	1.200	0.7200
c	0.600	1.200	0.7200
			252.8800
合計			252.88 ㎡

1階床面積			
記号	横 (m)	縦 (m)	面積 (㎡)
①	15.600	12.900	201.2400
②	1.800	2.500	4.5000
③	12.000	2.500	30.0000
④	1.800	2.500	4.5000
a	1.000	11.200	11.2000
b	0.600	1.200	0.7200
c	0.600	1.200	0.7200
			252.8800
合計			252.88 ㎡

2階床面積			
記号	横 (m)	縦 (m)	面積 (㎡)
①	15.600	12.900	201.2400
②	1.800	2.500	4.5000
③	12.000	2.500	30.0000
④	1.800	2.500	4.5000
合計			240.24 ㎡

延べ面積			
1階床面積 + 2階床面積			
252.88	+	240.24	= 493.12 ㎡

※ 屋外階段下部に原付置場(1250C以下)があるため、全体を屋内的用途に供する部分として、床面積に算入。



平均地盤面算定図 S=1/100

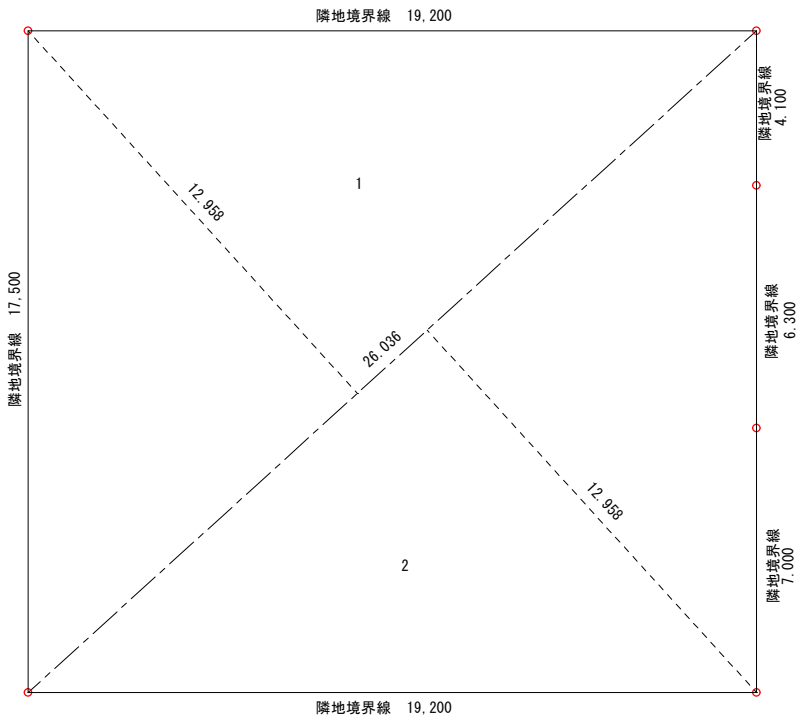
凡 例	
1FL±0からのレベルを示す	
・設計GL±0=1FL±0 (KBM+260)	

特記事項  
・平均地盤の算定は 設計GL±0=1FL±0を 基準高として算出する。  
・建築外周部において、設計GLからのレベルが ±0 ~ +190の為 平均GLは最も不利側の±0として、平均GL=設計GL±0= 1FL±0とする。



申請地  
千葉市花見川区千葉都市計画事業東幕張土地区画整理事業 54街区11画地  
[底地]千葉市花見川区幕張町六丁目99-1, -2, -3, -4, -6, -11, -14, -15, -16, 17, 100-4の各一部  
幕張町六丁目99-13の全部

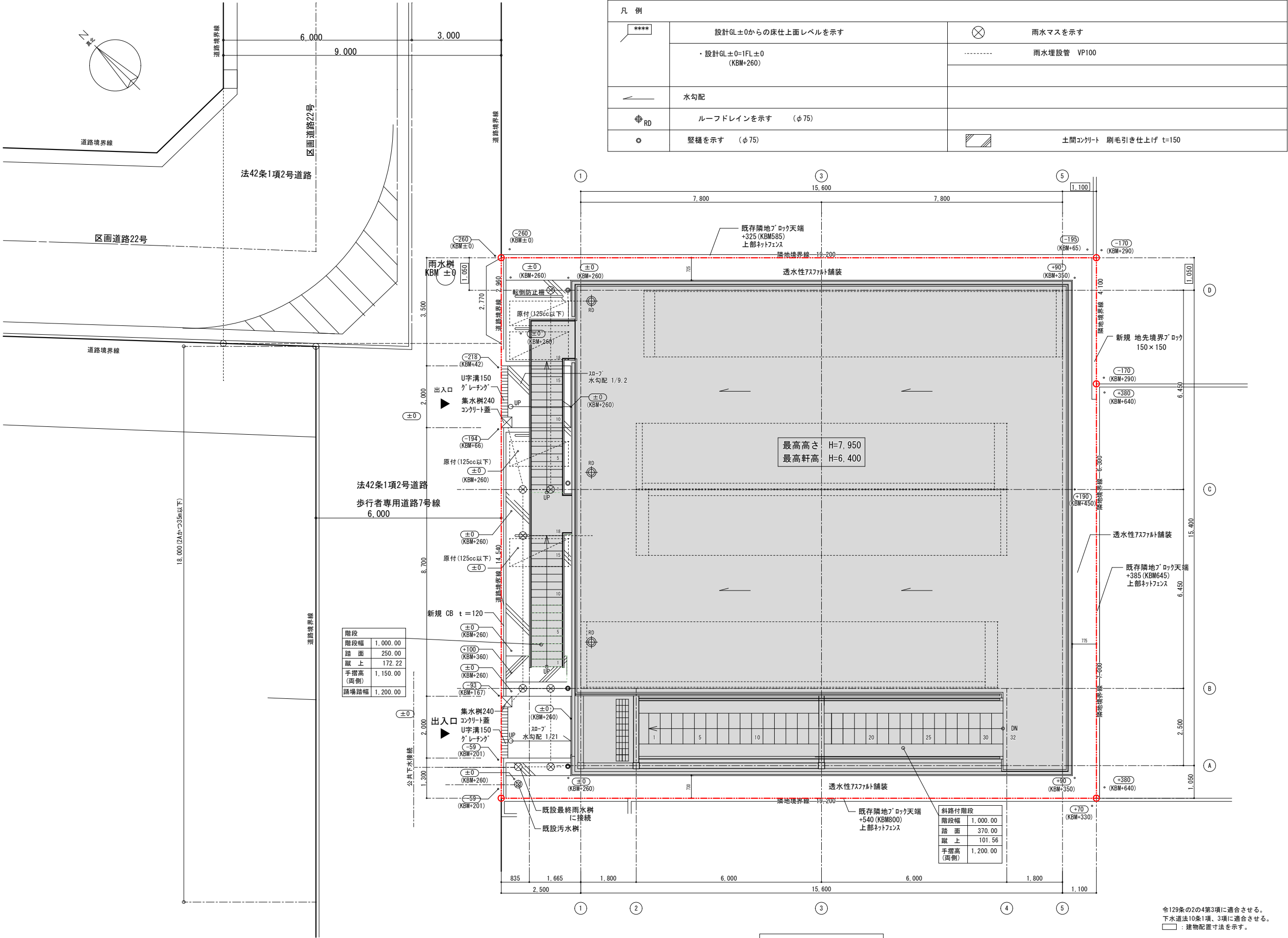
案 内 図

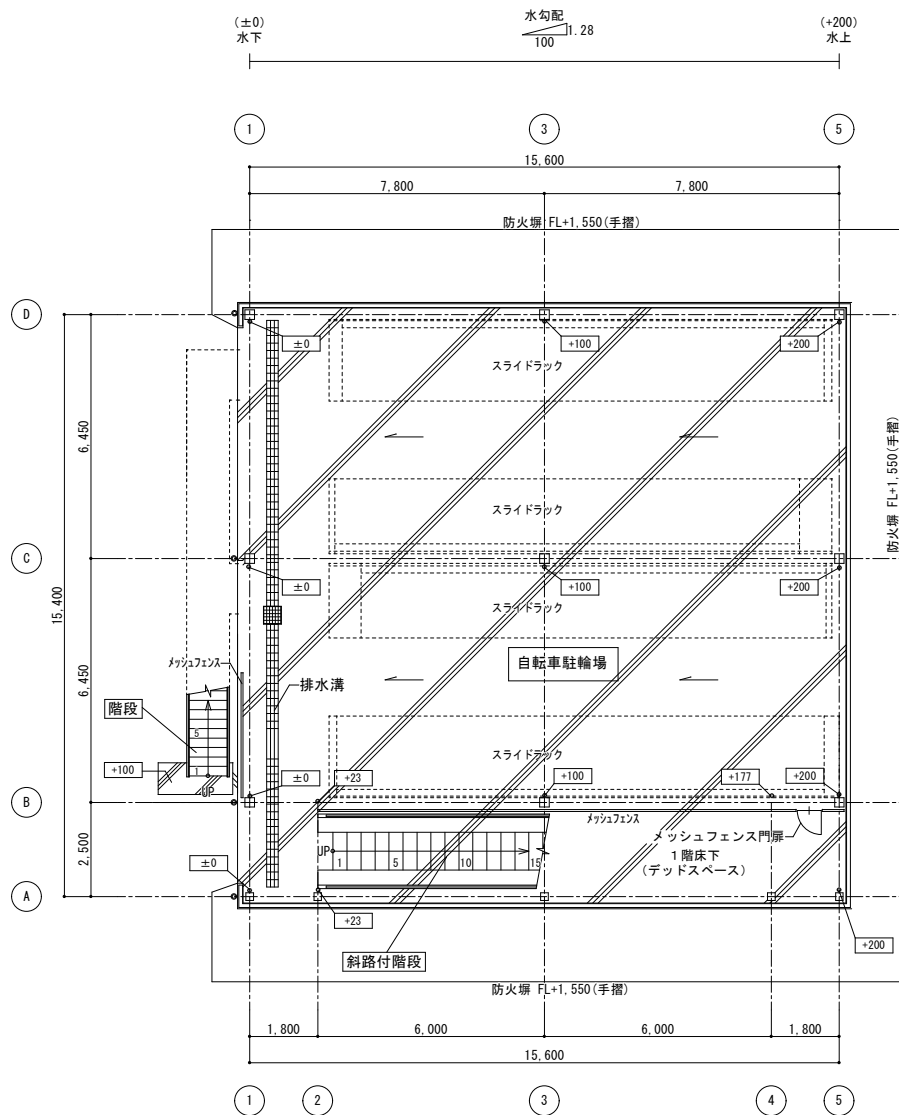
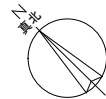


敷地求積図 S=1:100

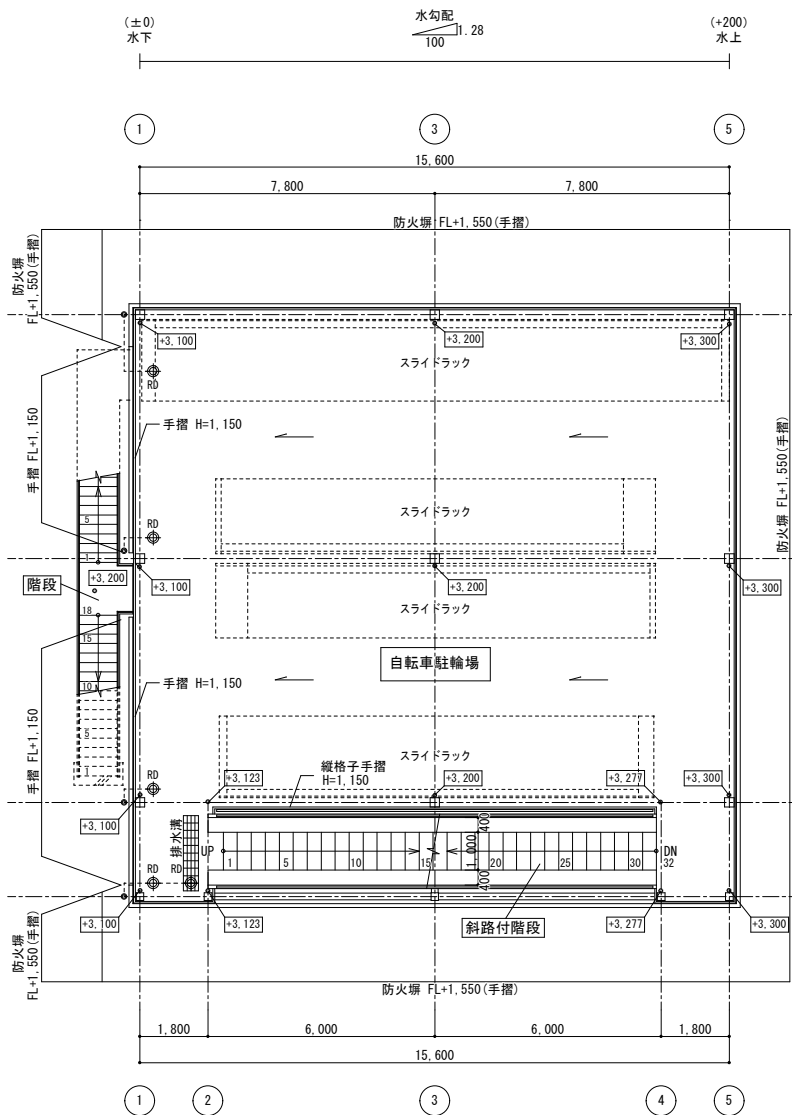
記号	底辺	高さ	倍面積 m <sup>2</sup>
1	26.036	12.958	337.374
2	26.036	12.958	337.374
倍面積 m <sup>2</sup>			674.748
面積 m <sup>2</sup>			337.374



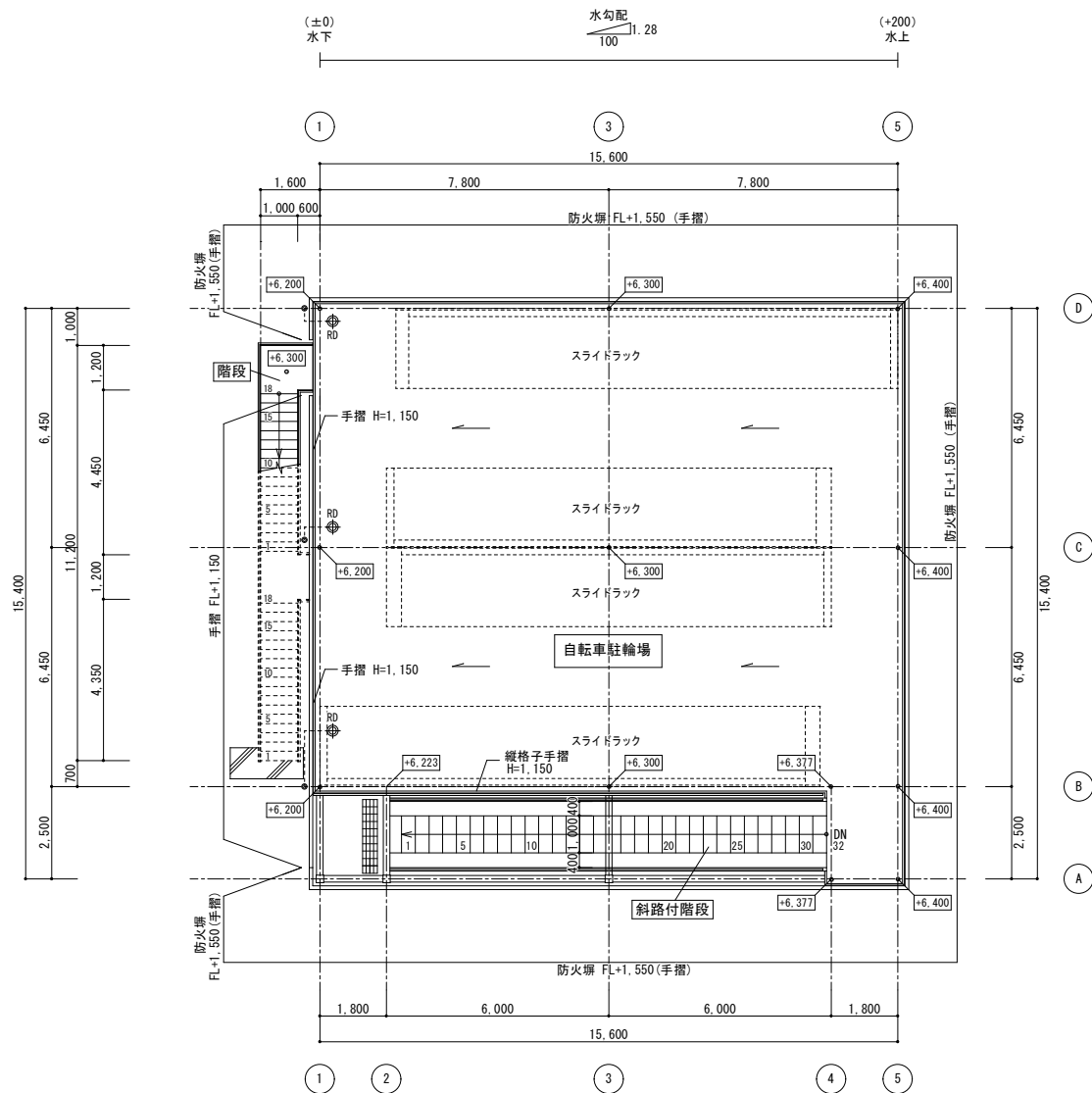




1 階 平面図 S=1/100



2 階 平面図 S=1/100



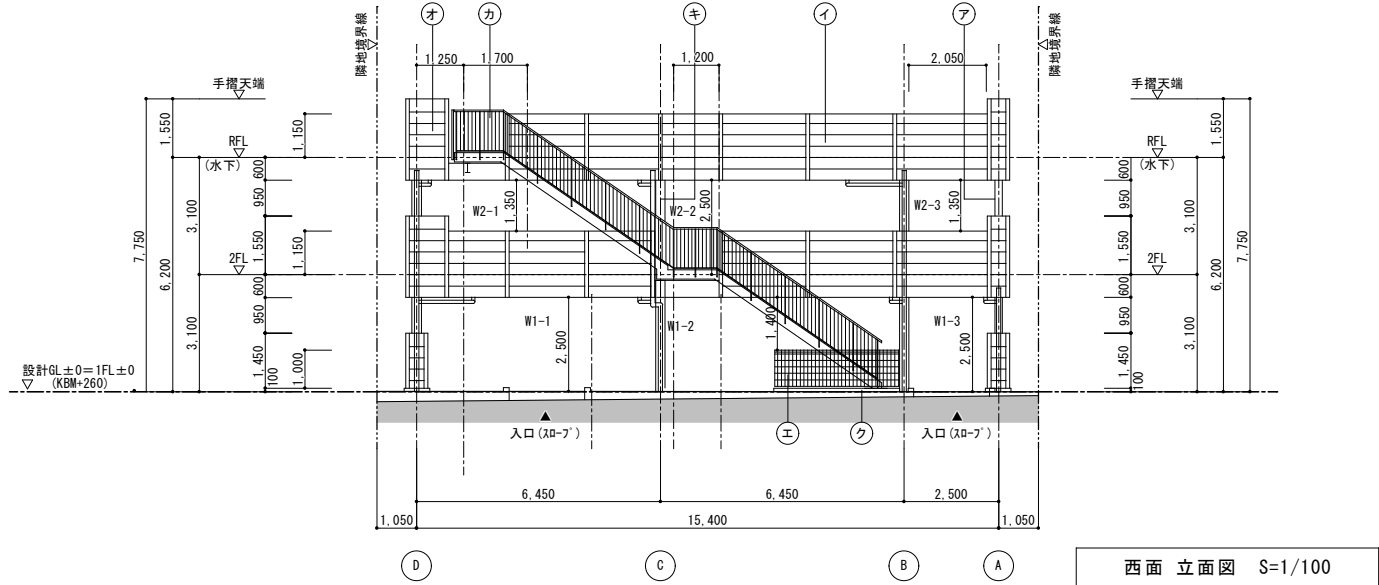
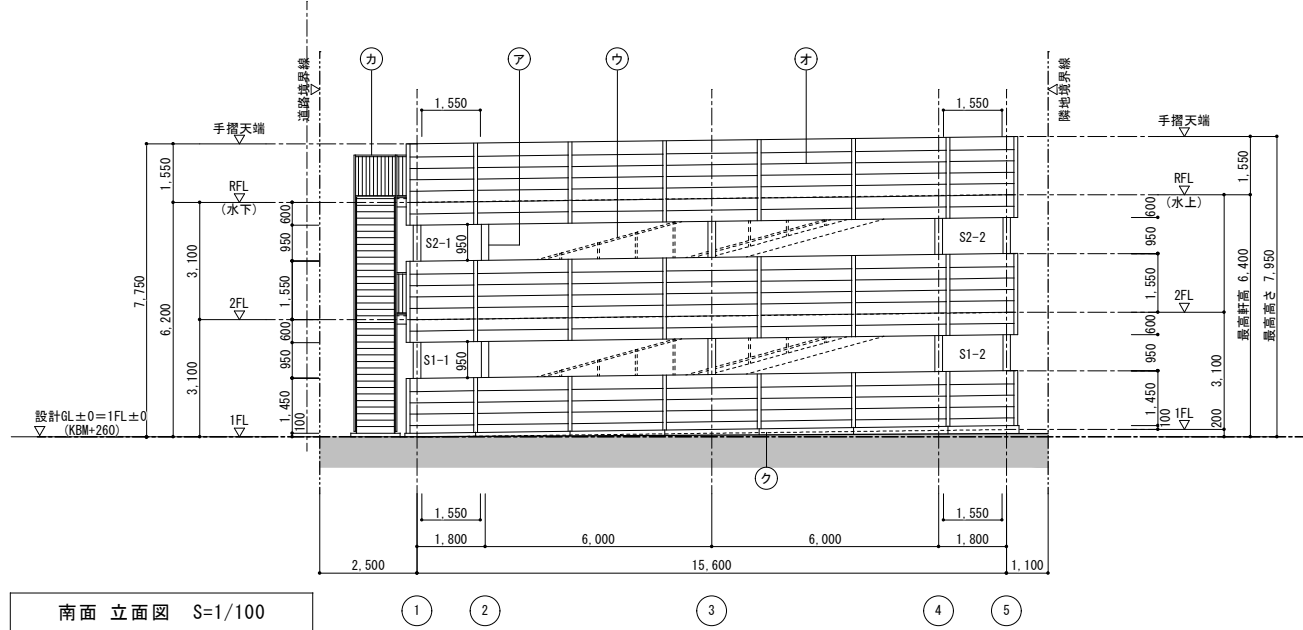
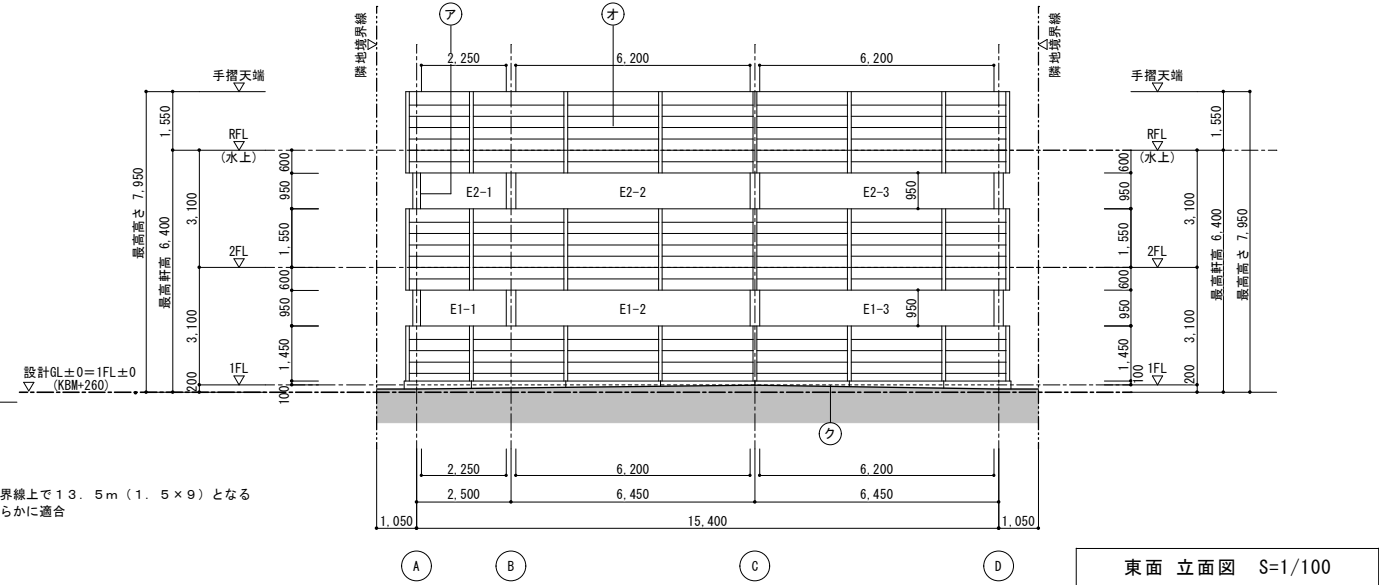
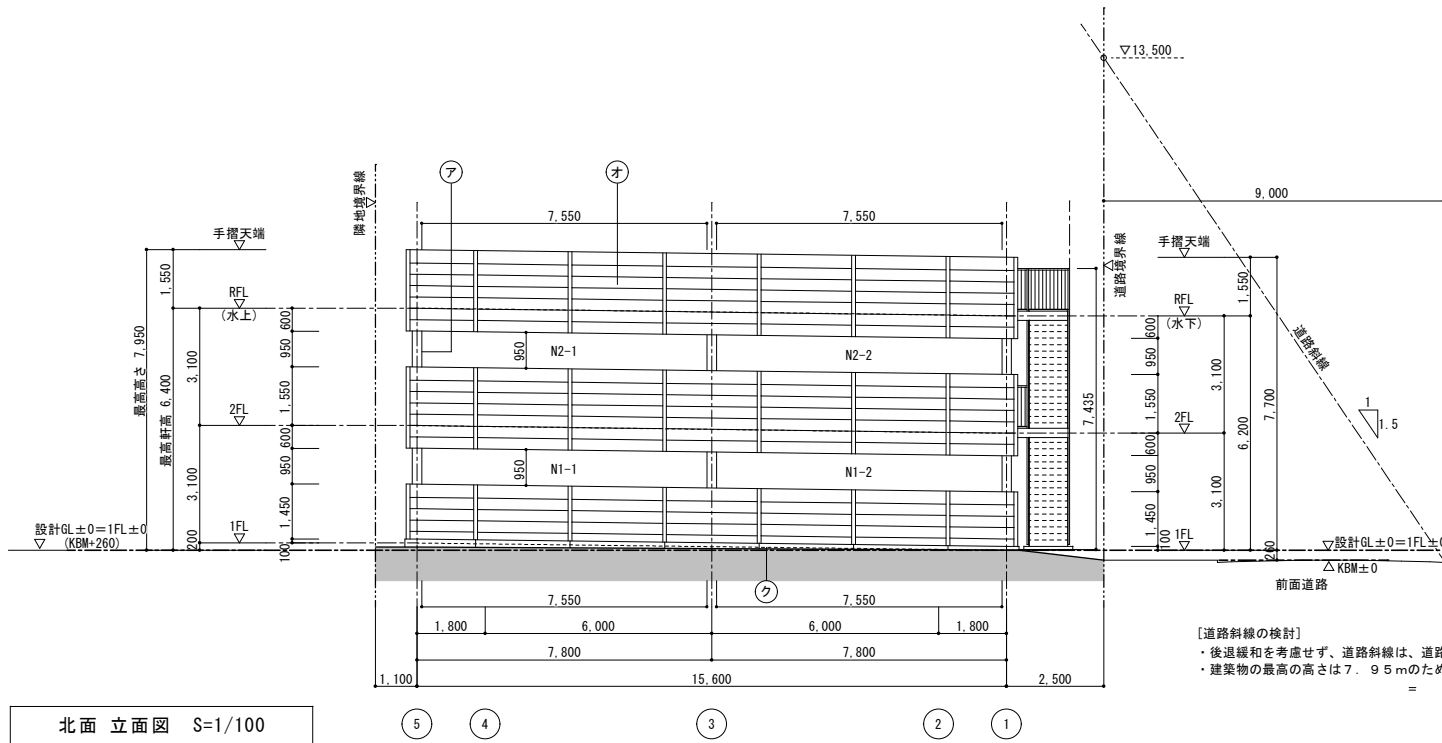
3 階 平面図 S=1/100

独立した自走式自動車庫の取扱いについて（平成14年11月14日）を、同形態の自転車駐輪場（バイク置場の使用なし）に適用する場合は、以下の基準に適合させる。（建築物の防火避難規定の解説2023の質問と回答より）

法61条への適合については、以下の基準を満たすものは、令136条の2第一号ロ、令1国交告194号第2ニイ（旧法61条1項2号）の卸売市場の上屋又は機械製作工場で主要構造部が不燃材料で造られたものその他これらに類する構造でこれらと同等以上に火災の発生のおそれの少ない用途に供するものに該当するものとみなされる。

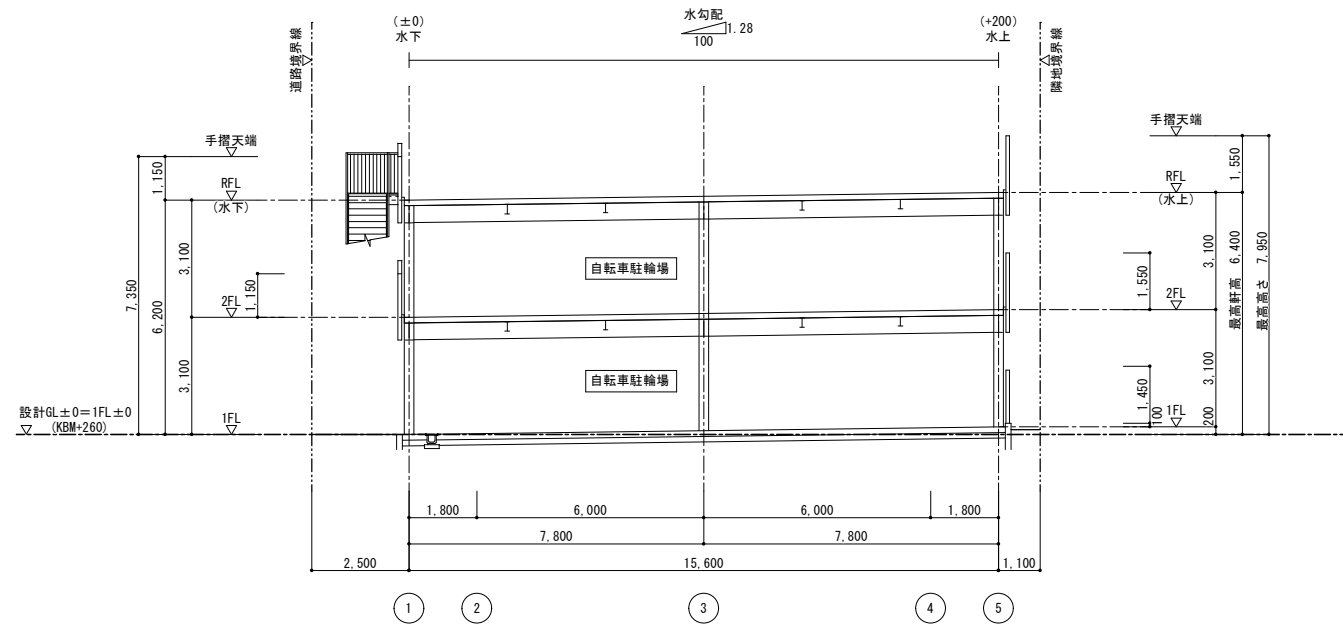
- ① 主要構造部が不燃材料で造られたもの ○ K  
② 各階における外周部の上部50cm以上の部分が常時外気に直接開放されている ○ K  
③ ②の常時外気に直接開放されている部分の面積が各階の床面積（防火壁で区画された部分）の5%以上である。 ○ K  
・必要開放面積は、 $240.24\text{m} \times 0.05 = 12.02\text{m}^2$ となる。  
・②のそれぞれの開放部分は、平面上のあらゆる場所から30m以下であるため、全ての開放部分が検討対象となるが、安全側の検討として、北面と東面のみを検討対象とした。  
・各階の北面と東面の開放部分の幅の合計は、 $7.55 + 7.55 + 2.25 + 6.20 + 6.20 = 29.75\text{m}$ となる。  
・必要開放面積 $12.02\text{m}^2 \div$ 開放部分の幅の合計 $29.75\text{m}$ は、 $0.404\text{m}$ となり、高さ41cm以上の高さが必要となる。  
・よって、必須条件である①の高さ50cm以上の開放があれば蓄煙を生じない開放部分となる。  
④ 短辺の長さが55m以上ある。 ○ K  
⑤ 隣地境界線又は同一敷地内の他の建築物と外周部との間の距離が50cm以上ある。 ○ K  
⑥ 隣地境界線又は同一敷地内の他の建築物と外周部との距離が50cm以上、1m未満である場合は、各階に全て準不燃材料 ○ K  
以上でつくられた高さ1.50m以上の防火壁を設置する。

凡 例	
****	1FL±0からの床仕上面レベルを示す ・設計GL±0=1FL±0 (KBM+260)
——	水勾配
RD	ルーフトレインを示す (φ75)
○	壁縫を示す (φ75)

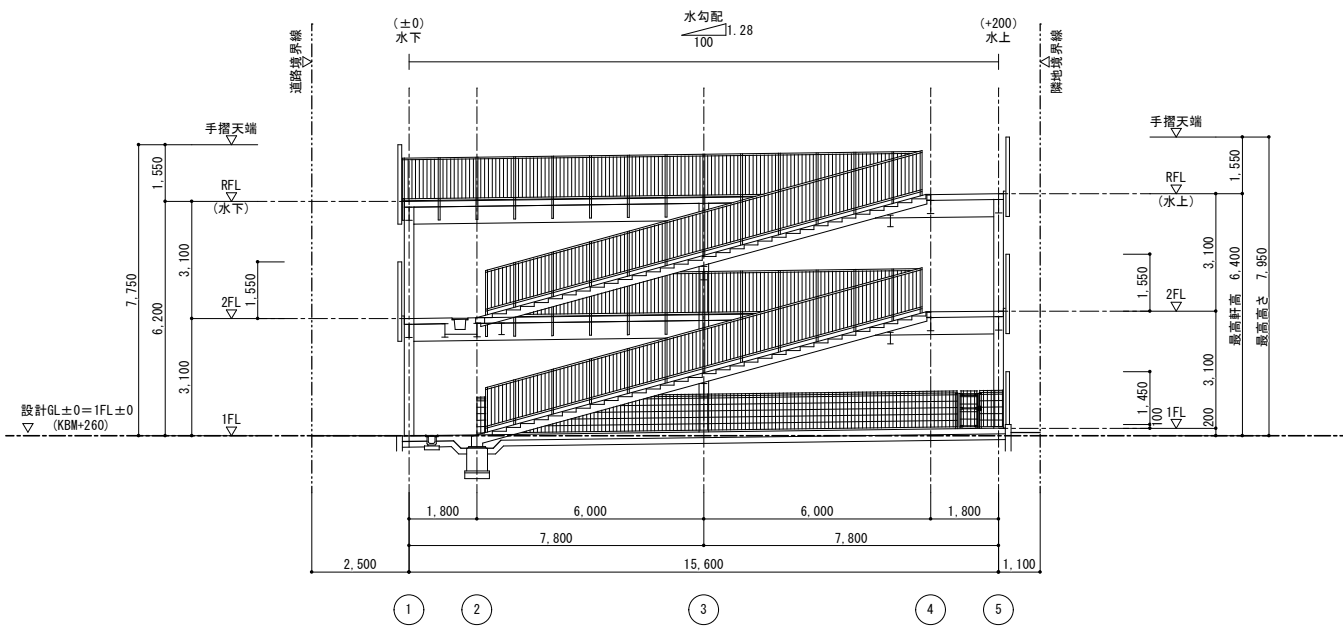


凡 例	
ア	柱・梁：溶融亜鉛めっき
イ	手摺り：カラー鋼板パネル(落し込み)
ウ	手摺り：縦格子 溶融亜鉛めっき
エ	手摺り：メッシュフェンス(侵入防止用)
オ	防火扉：カラー鋼板パネル(落し込み) F L + 1 . 5 5 0
カ	屋外階段手摺：溶融亜鉛めっき
キ	堅樋：V P 管
ク	手摺り基礎：コンクリート打放し
ケ	
コ	

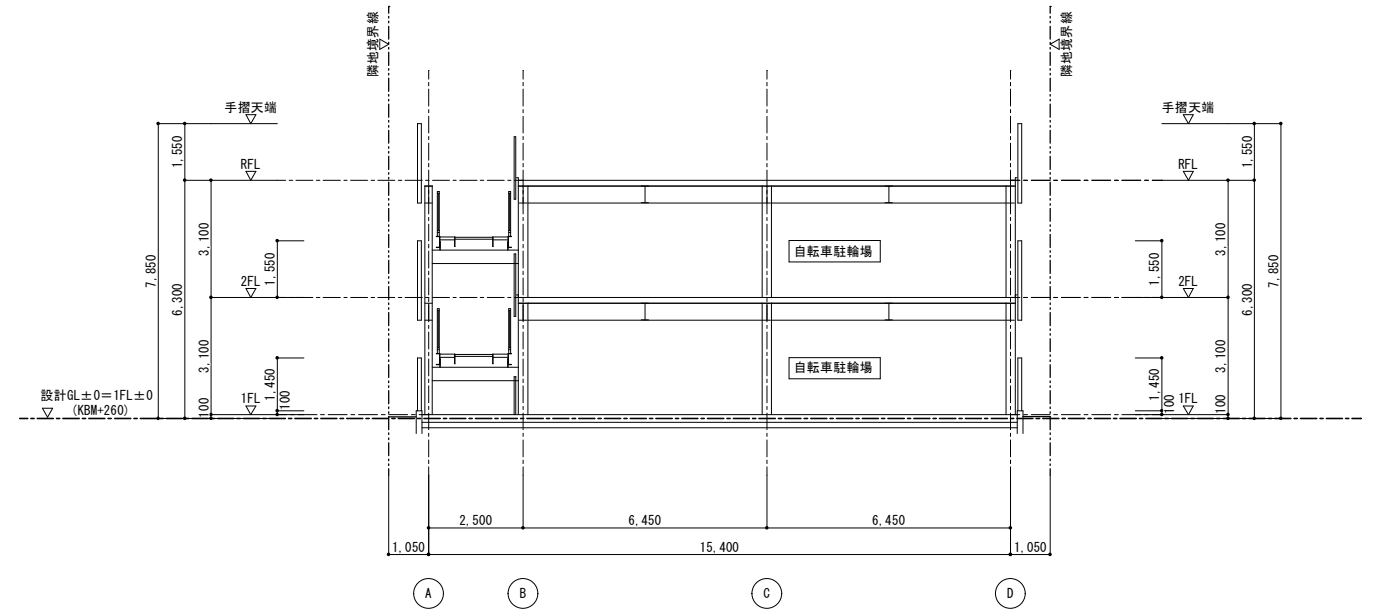
〔階地斜線の検討〕  
・建築物の最高の高さは7.95mで31.0m以下のため明らかに適合



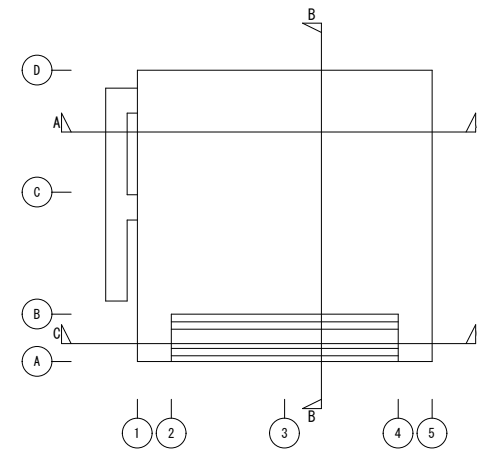
A-A 断面図 S=1/100



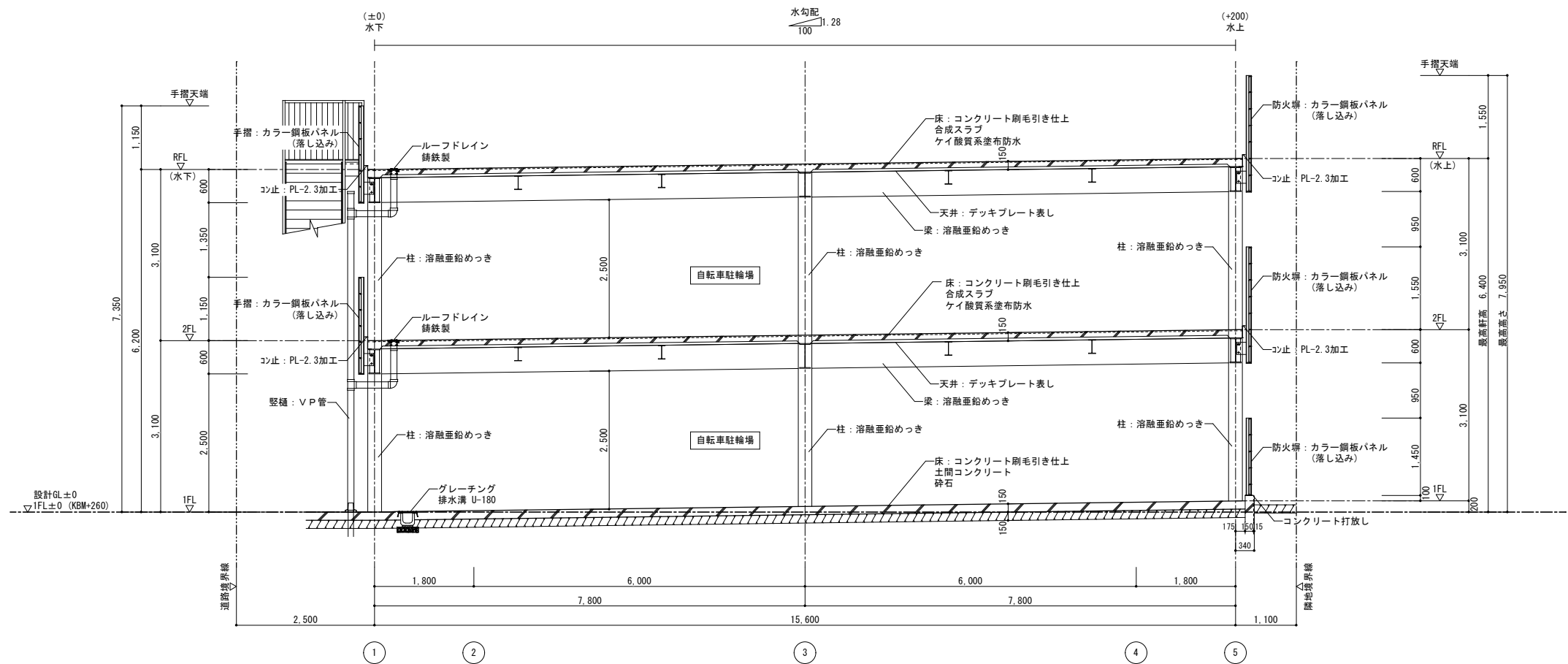
C-C 断面図 S=1/100



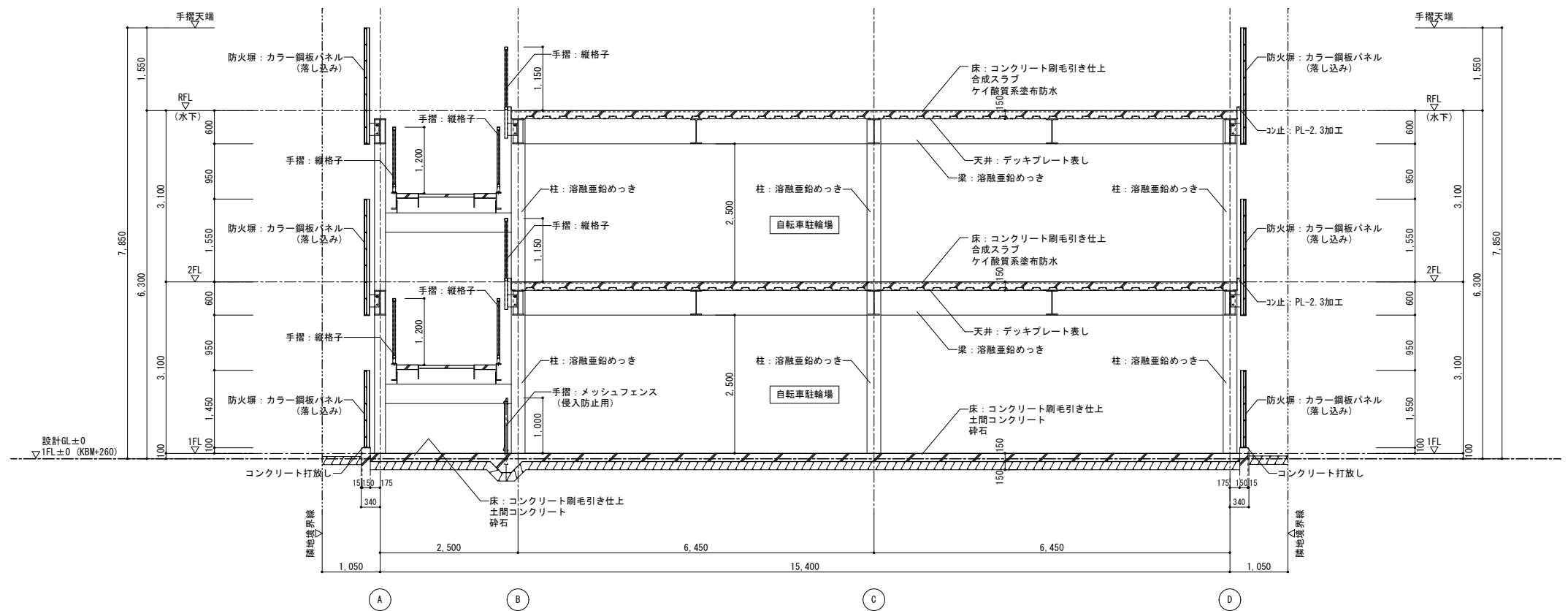
B-B 断面図 S=1/100



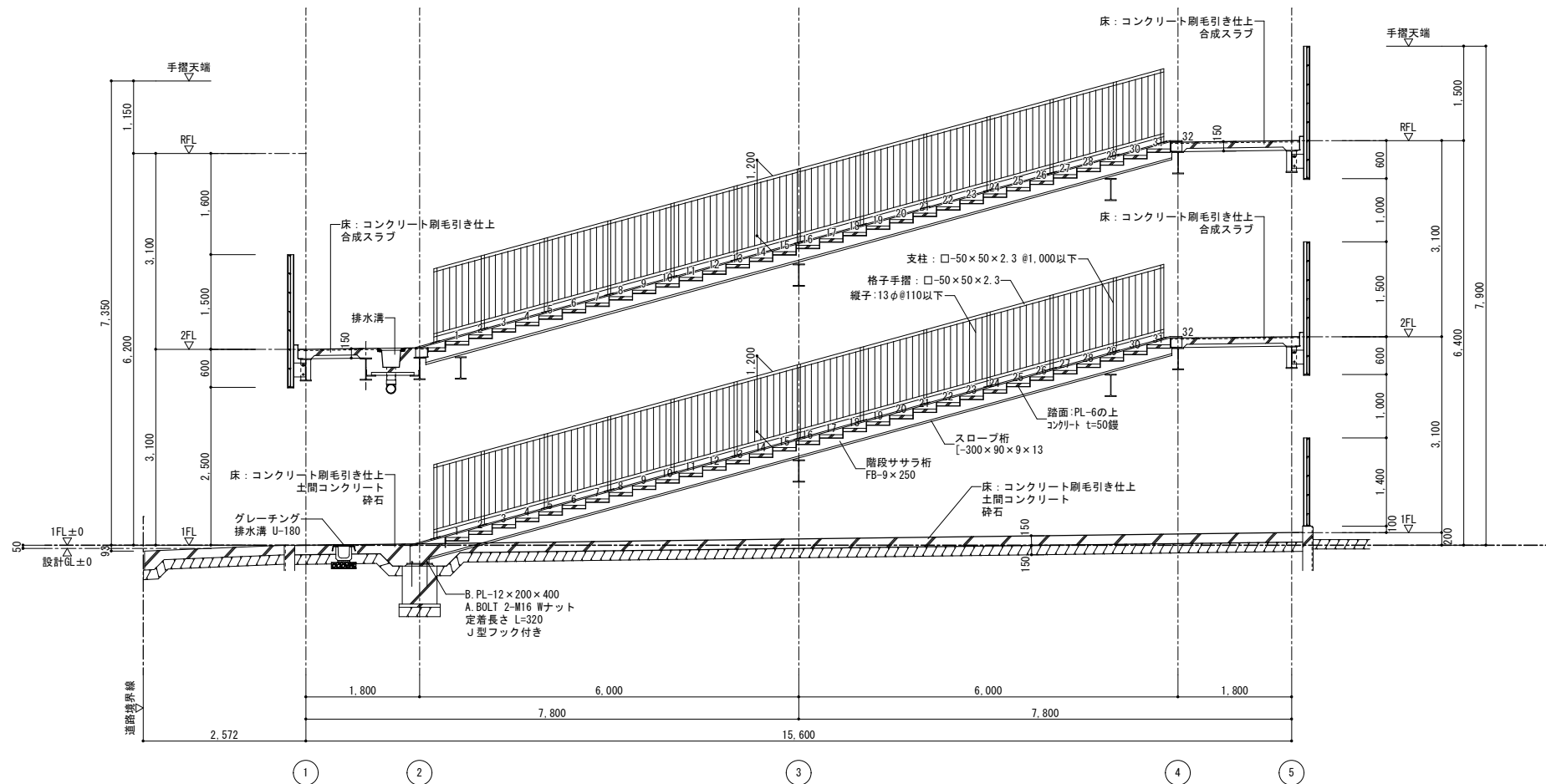
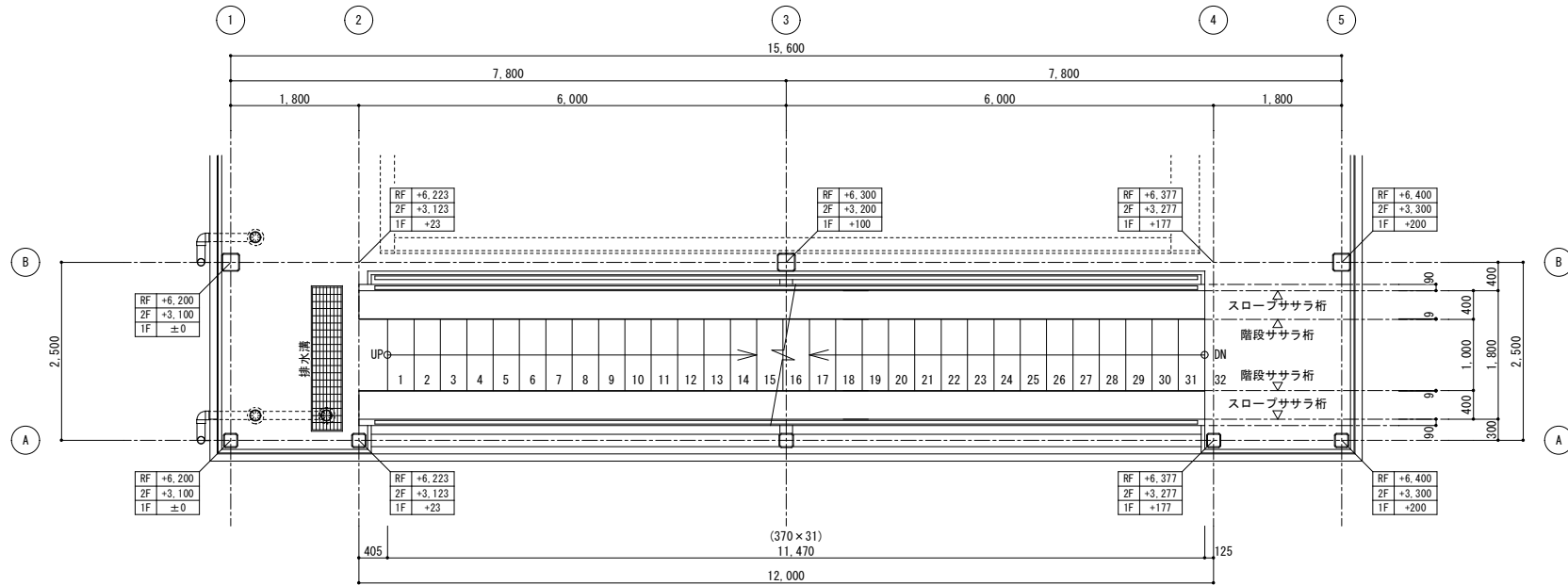
キープラン



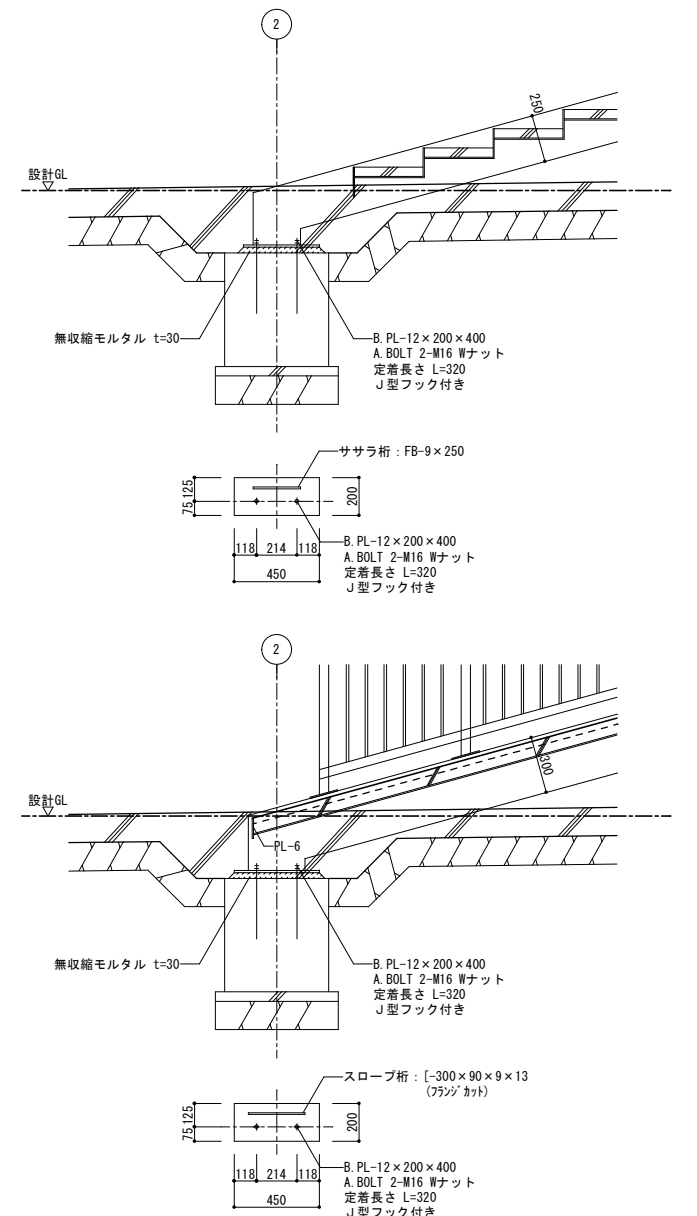
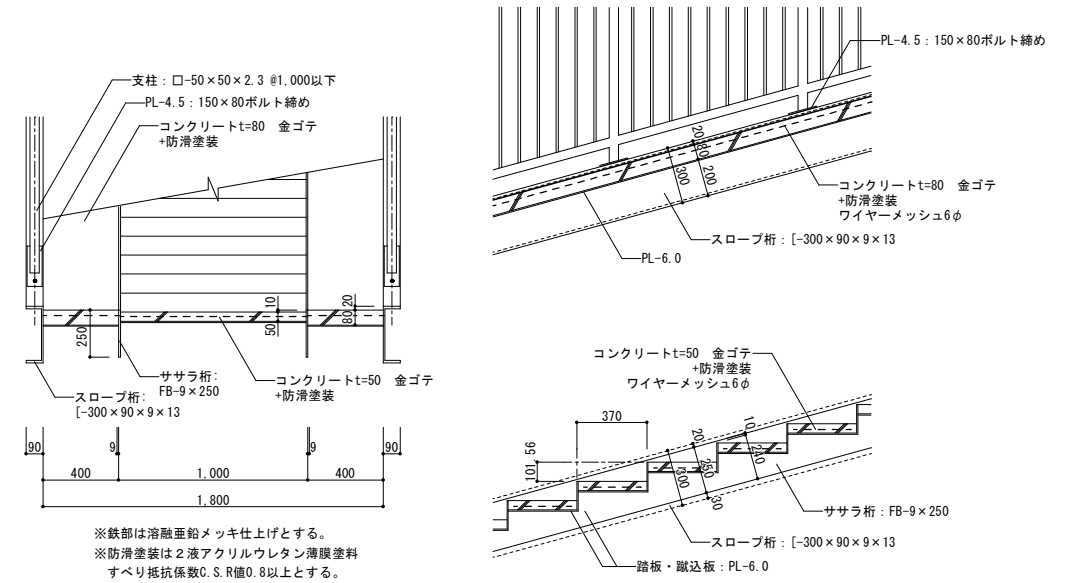
C-D通り間 矩計図 S=1/50



3-4通り間 矩計図 S=1/50

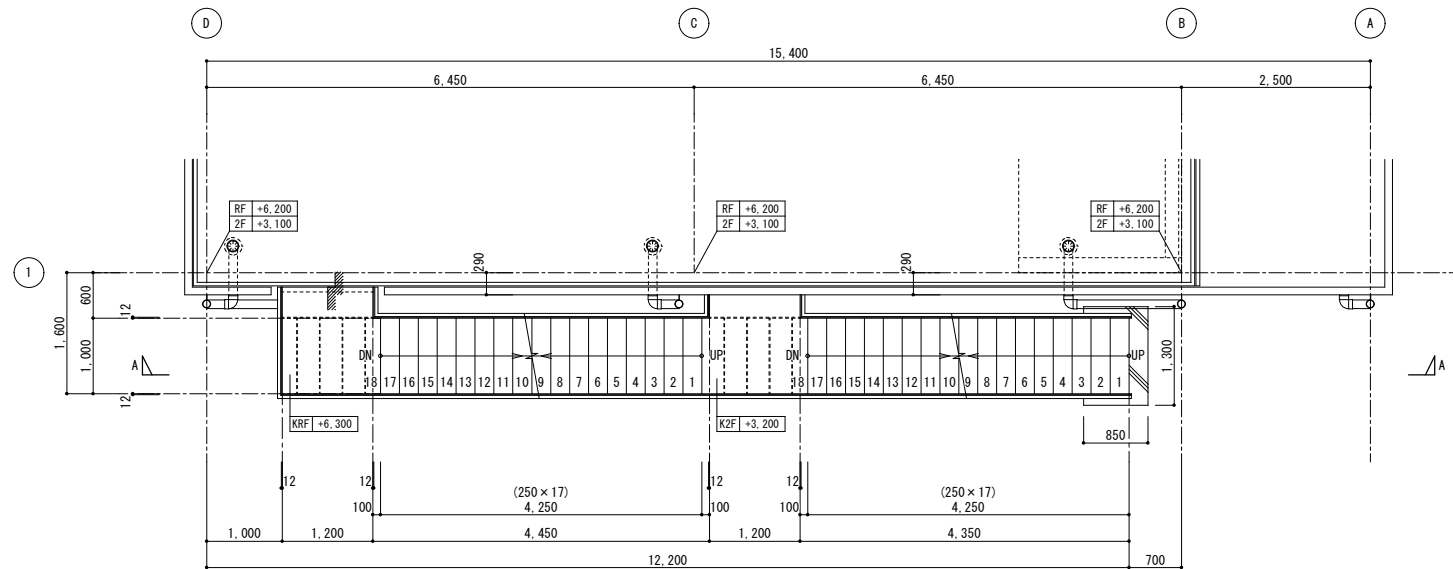


スロープ断面詳細図 S=1/50

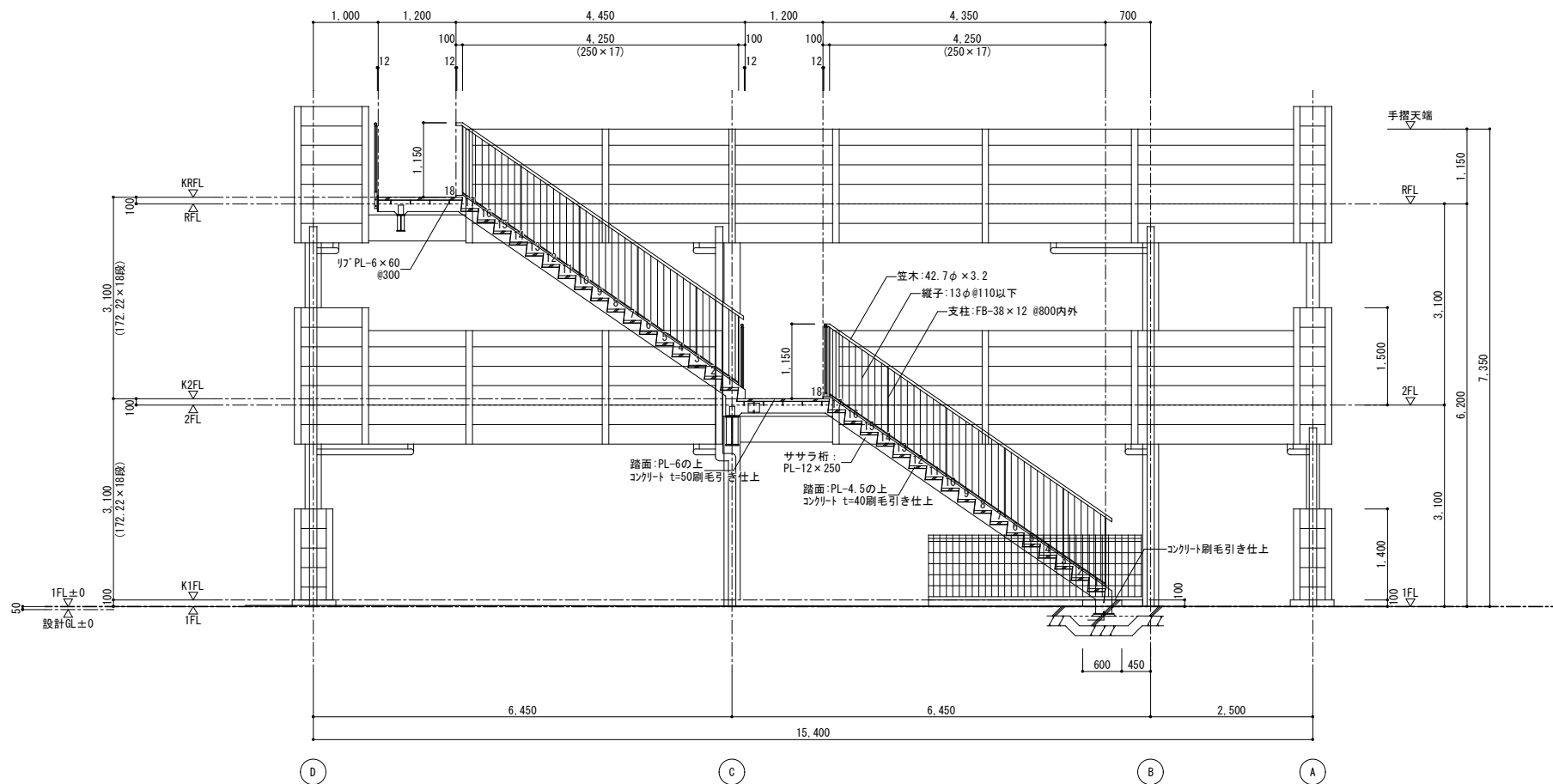


部分詳細図 S=1/20

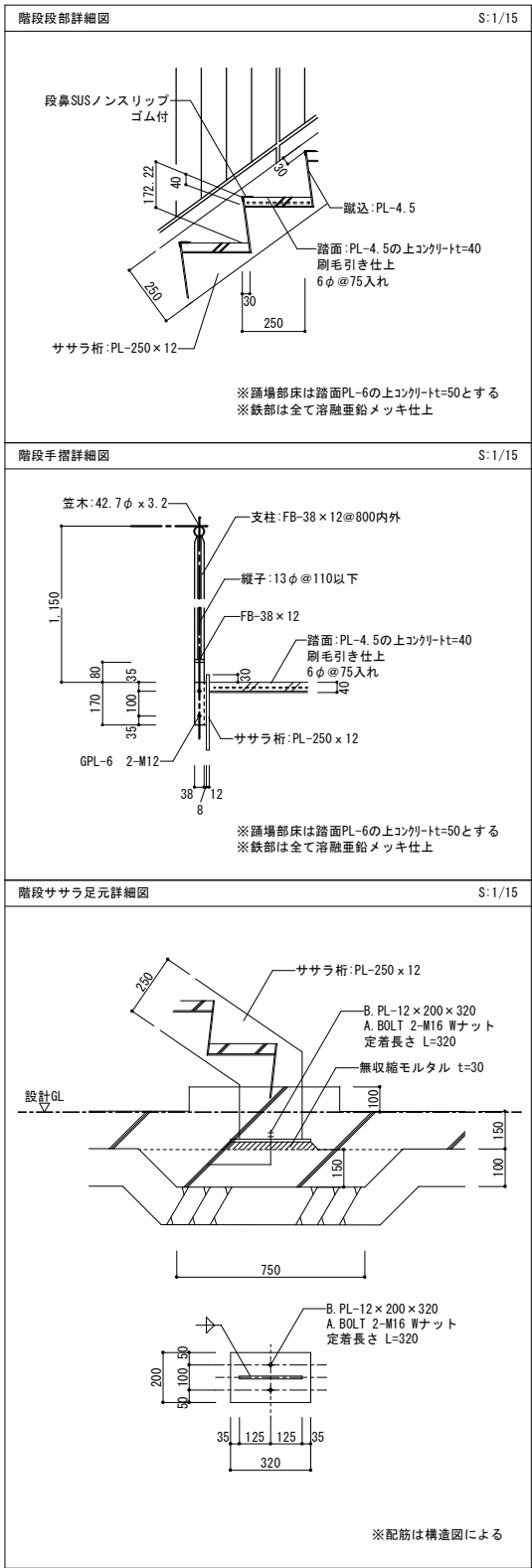


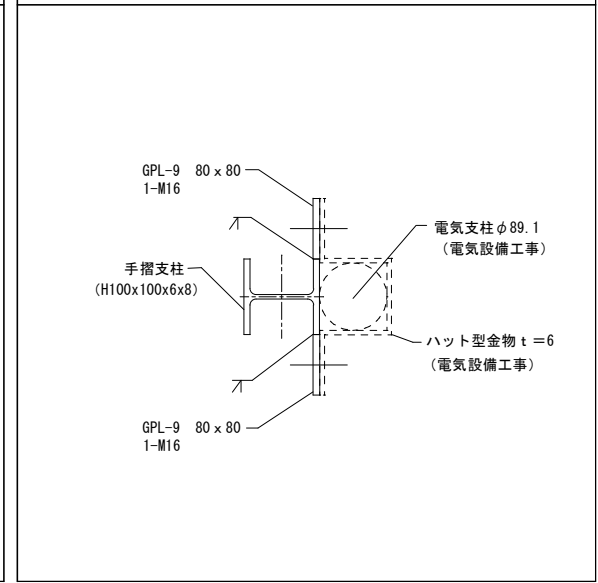
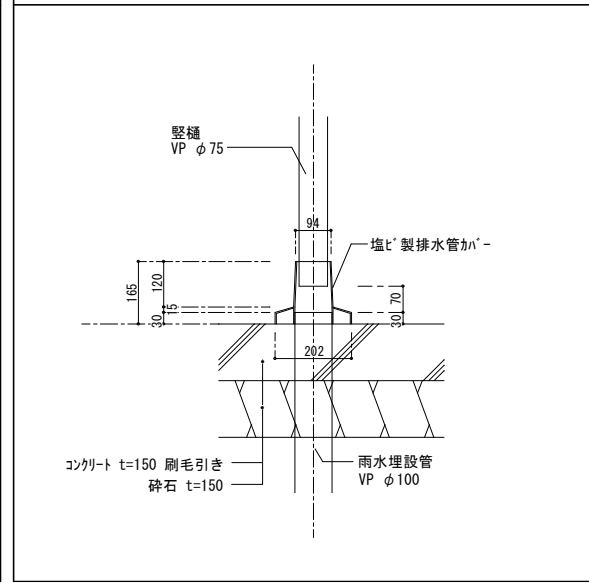
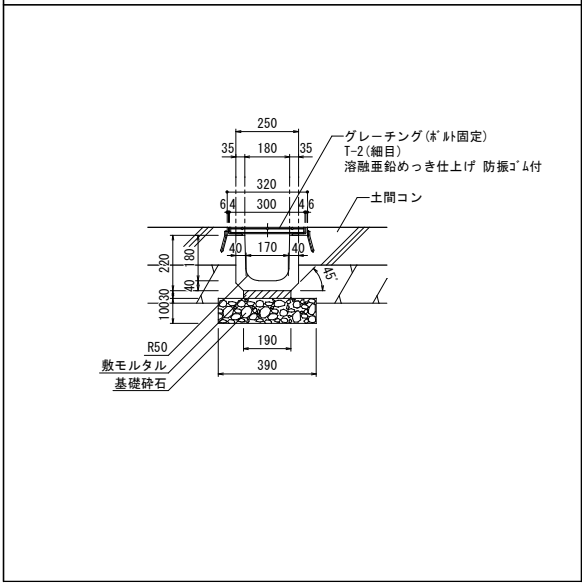
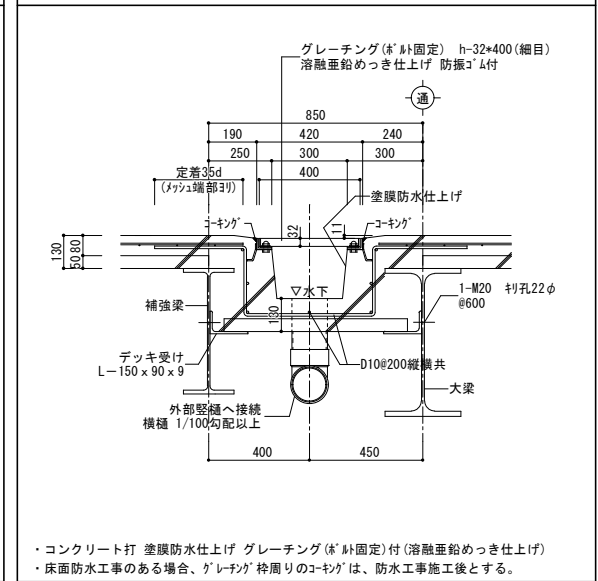
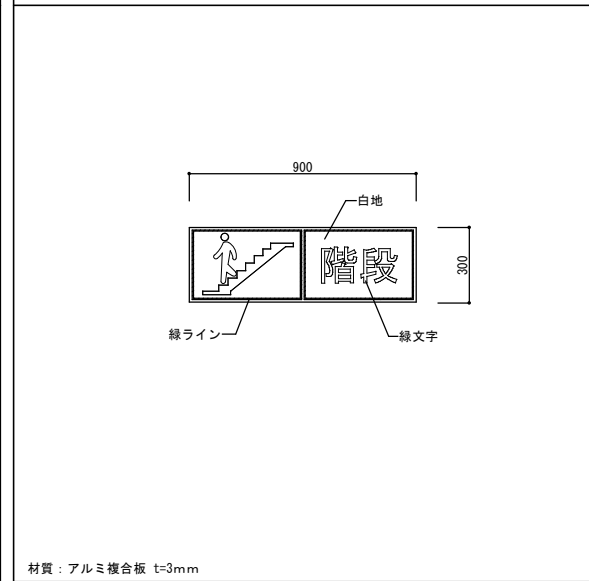
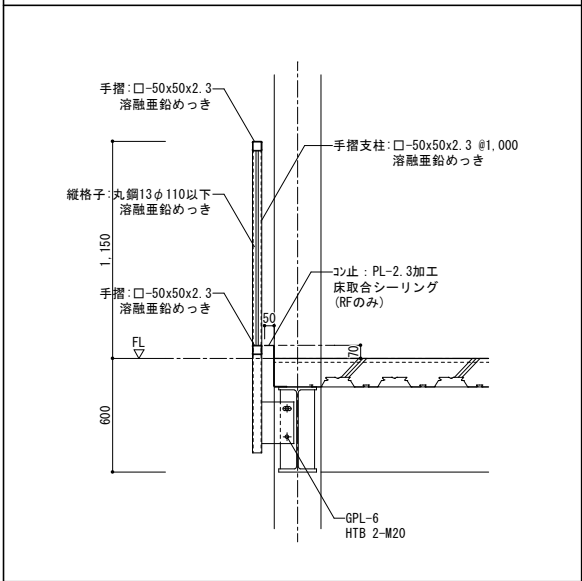
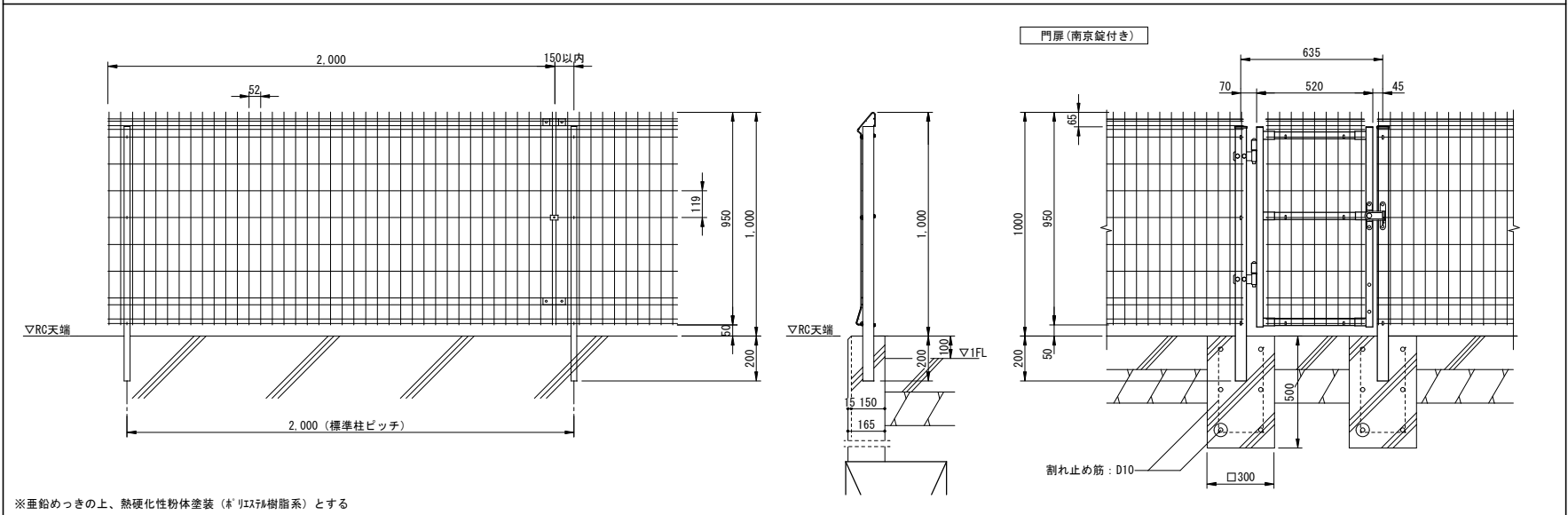
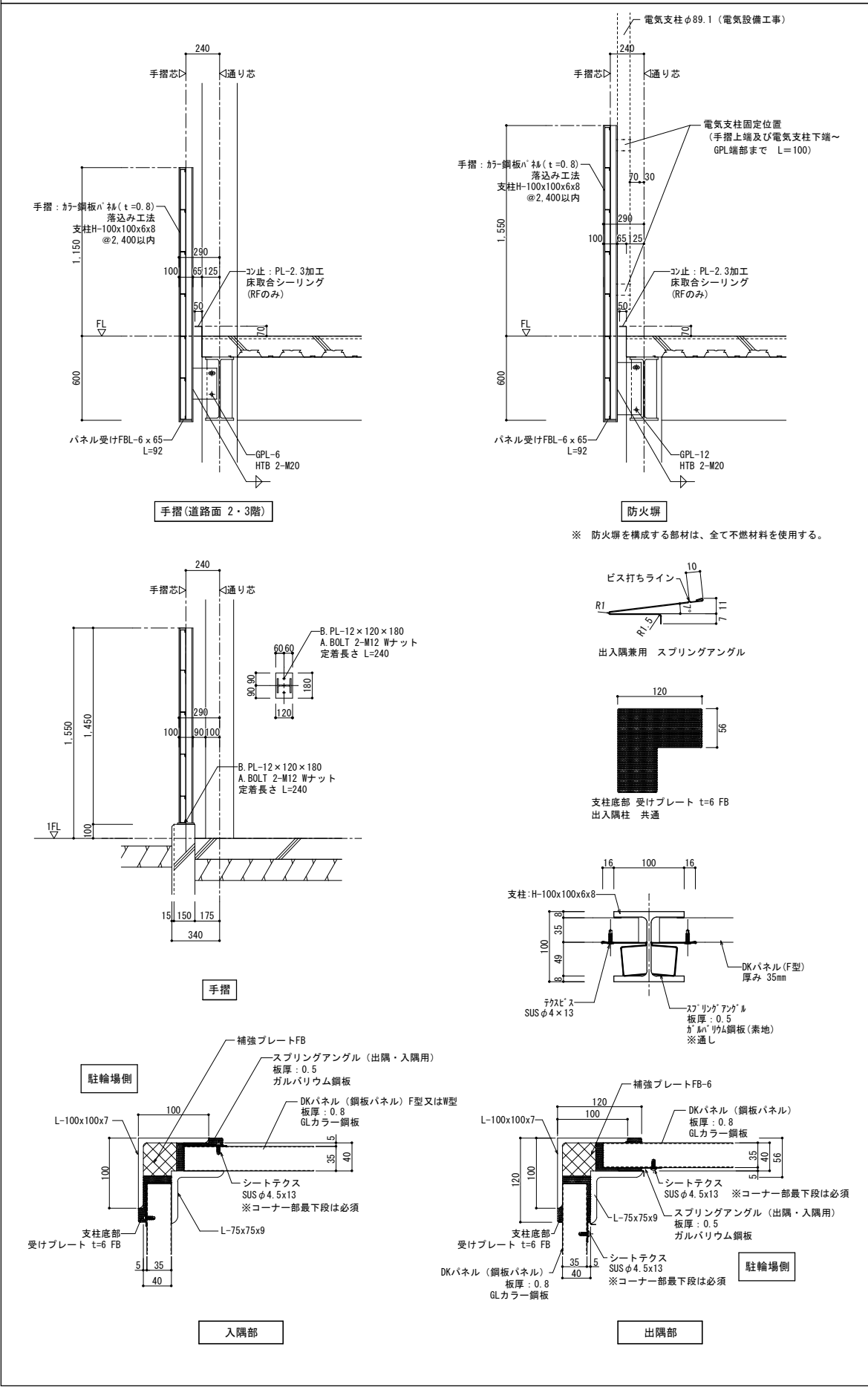


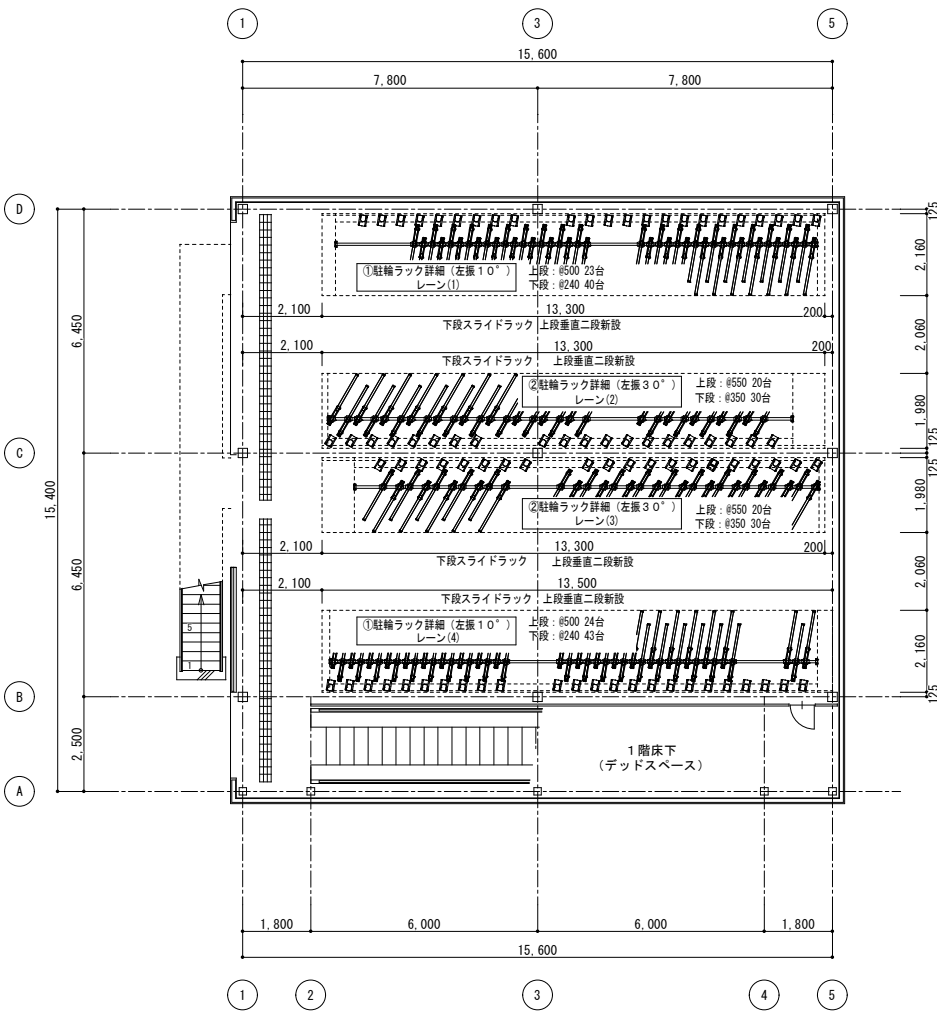
階段平面図 S=1/50



階段断面図 S=1/50

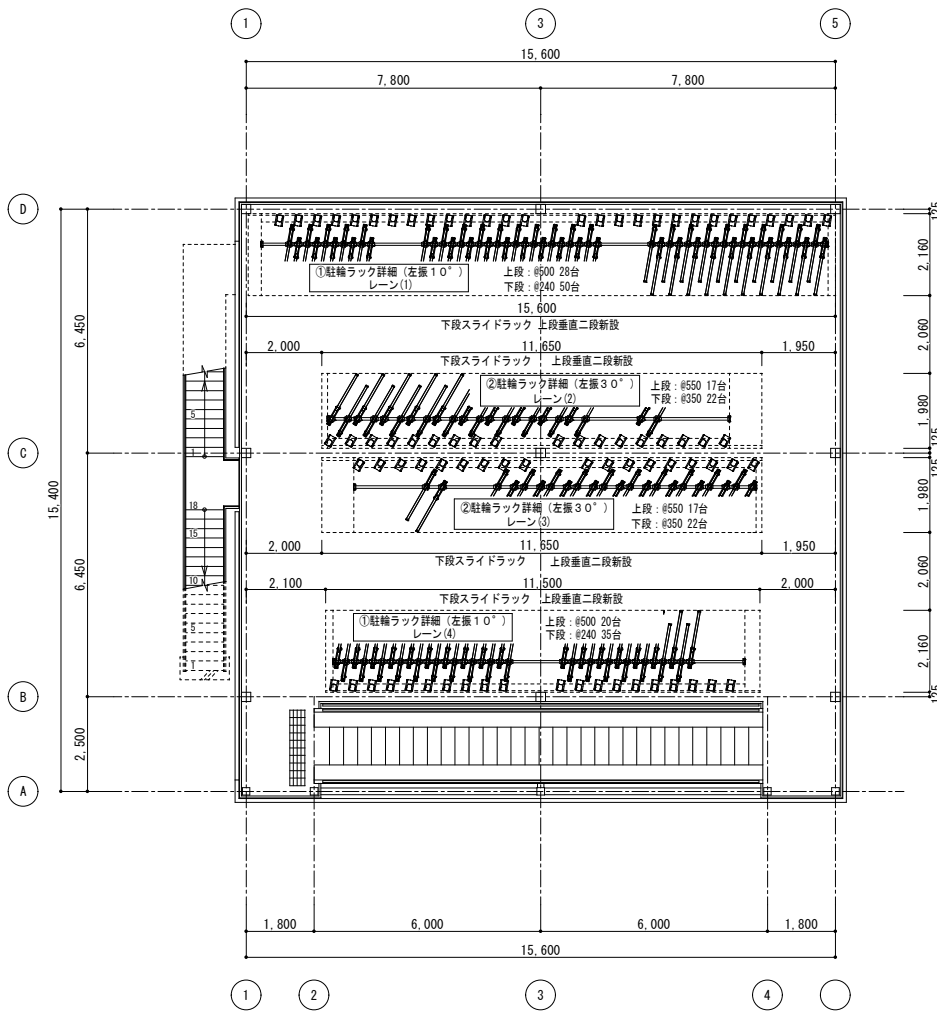






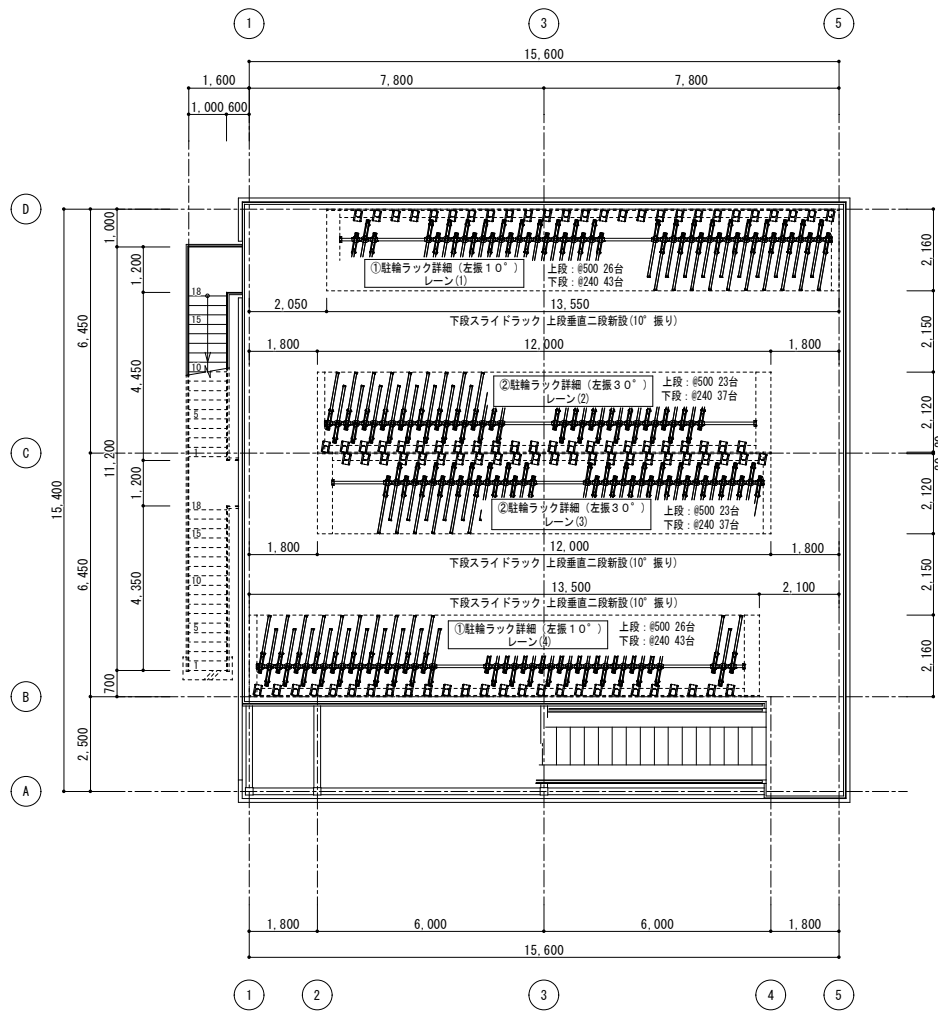
1 階 平面図 S=1/100

自転車駐輪台数					
1 階	レーン(1)	上 段	23台	63台	230台
		下 段	40台		
	レーン(2)	上 段	20台	50台	
		下 段	30台		
	レーン(3)	上 段	20台	50台	
		下 段	30台		
	レーン(4)	上 段	24台	67台	
		下 段	43台		



2 階 平面図 S=1/100

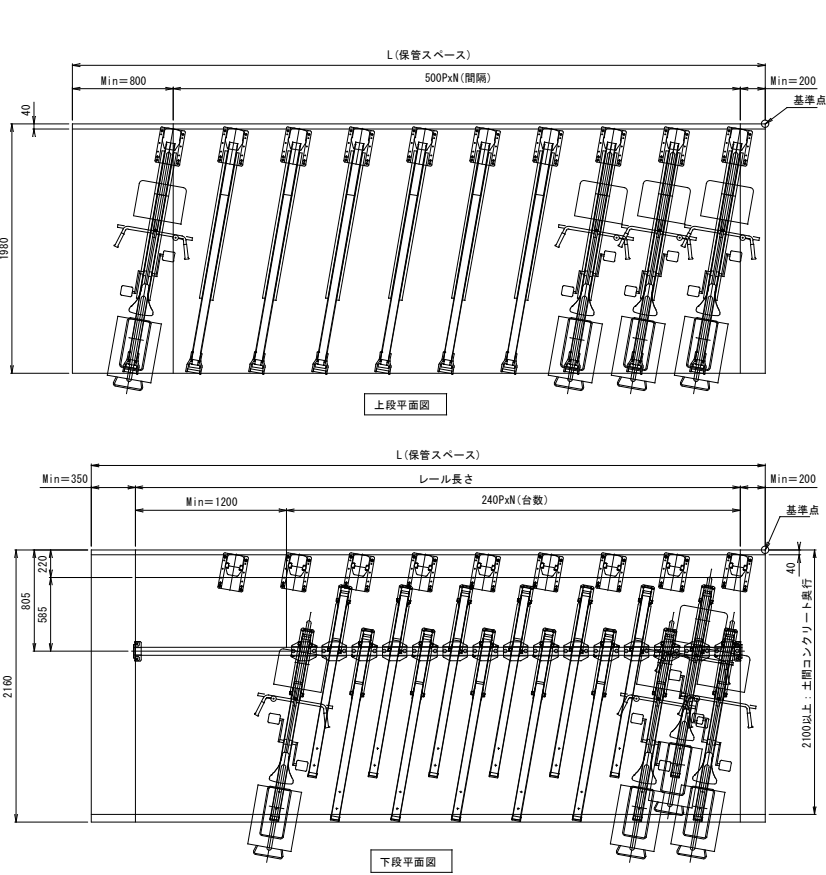
自転車駐輪台数					
2 階	レーン(1)	上 段	28台	78台	211台
		下 段	50台		
	レーン(2)	上 段	17台	39台	
		下 段	22台		
	レーン(3)	上 段	17台	39台	
		下 段	22台		
	レーン(4)	上 段	20台	55台	
		下 段	35台		



R 階 平面図 S=1/100

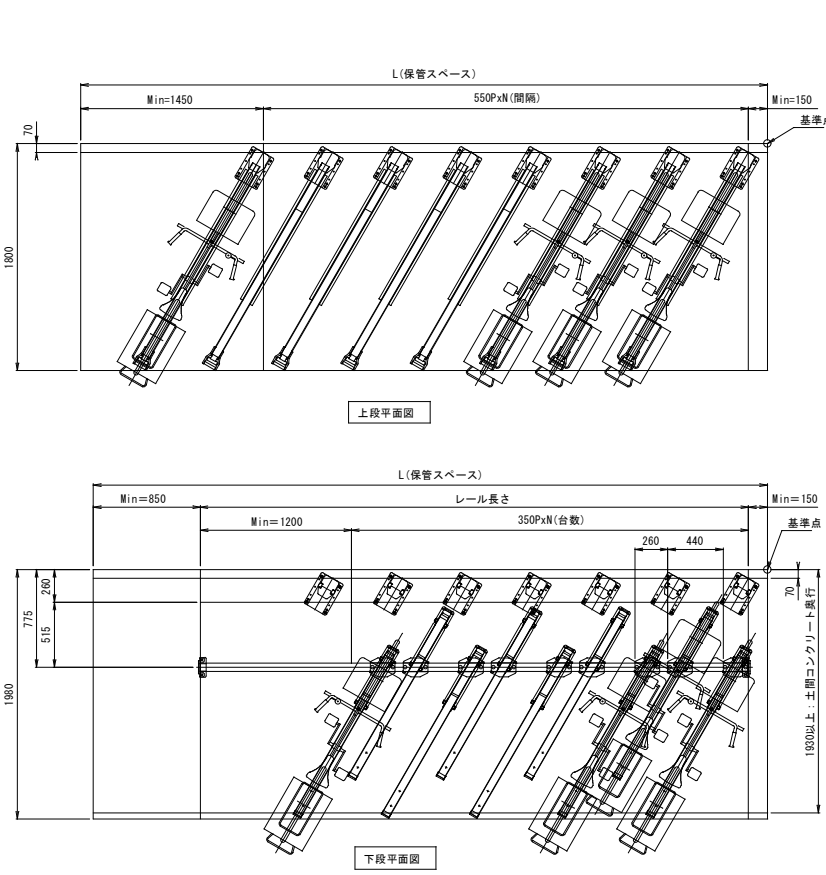
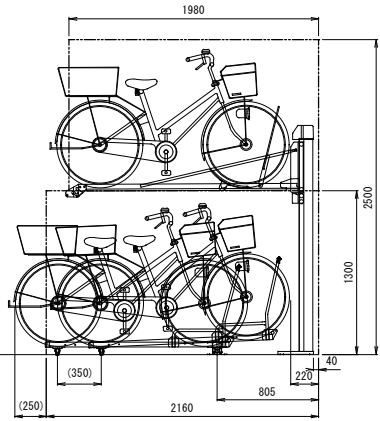
自転車駐輪台数					
R 階	レーン(1)	上 段	26台	69台	258台
		下 段	43台		
	レーン(2)	上 段	23台	60台	
		下 段	37台		
	レーン(3)	上 段	23台	60台	
		下 段	37台		
	レーン(4)	上 段	26台	69台	
		下 段	43台		

自転車駐輪台数 合計			
1 階		230台	699台
2 階		211台	
R 階		258台	



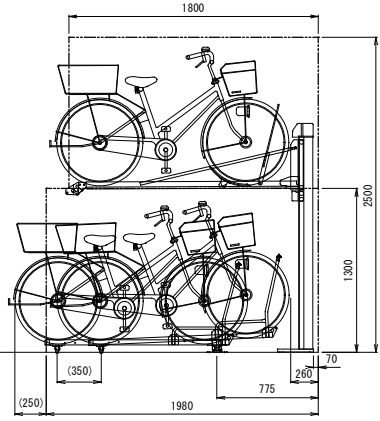
上段 材料仕様		
名称	材料	表面処理
ポスト	A6063	アルマイト処理
ラックレール	A6063	アルマイト処理
ガススプリング	スチール製	塗装
台車	SPHC 鉄	メッキ+塗装
ローラ	POM樹脂	—
ベース	SPHC 鉄	溶融亜鉛
小物部品	SPHC 鉄	ユニクロメッキ
アンカーボルト	TP1060	ジオメット

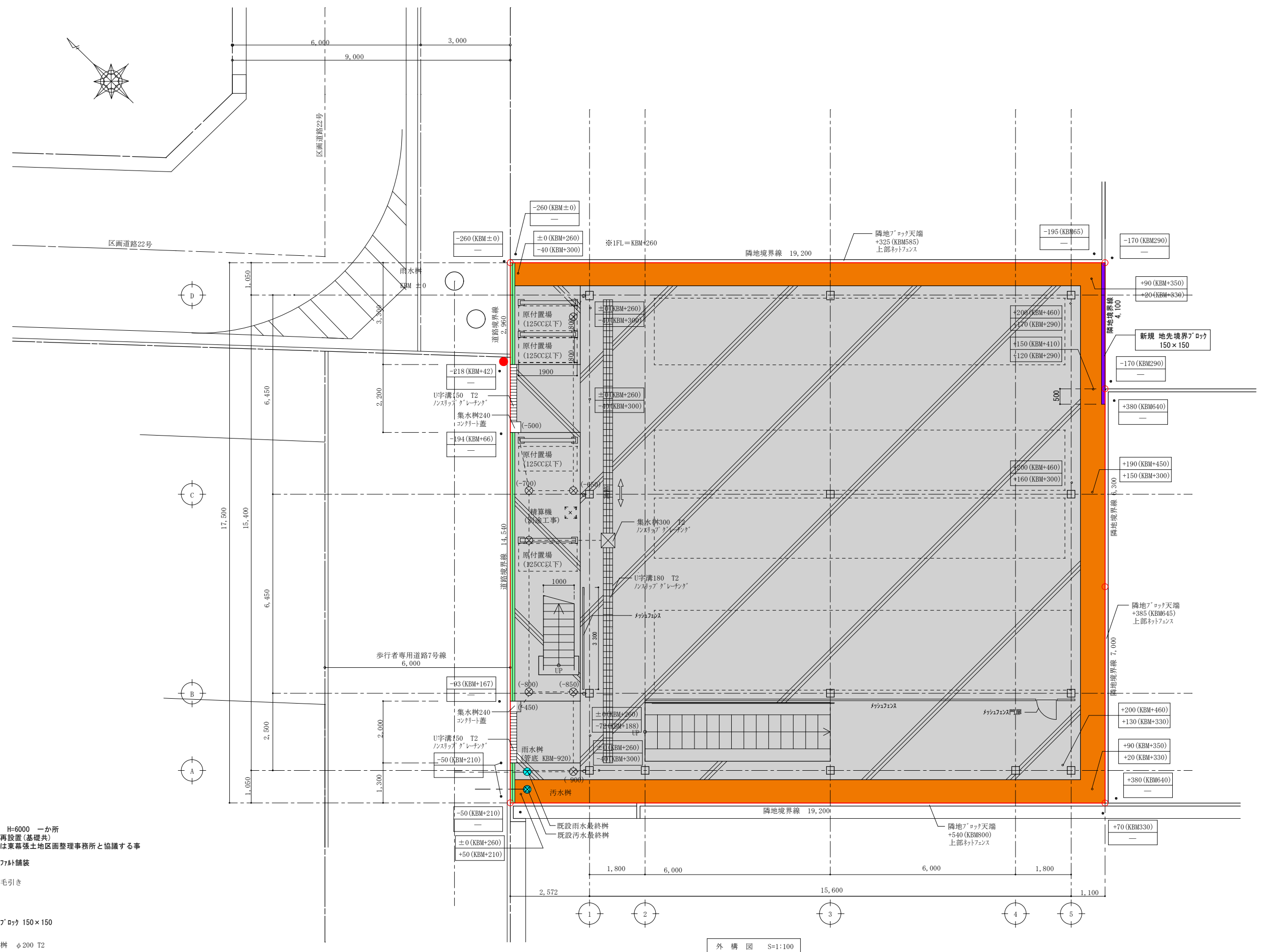
下段 材料仕様		
名称	材料	表面処理
ラックレール	A6063	アルマイト処理
トップガイド	STKM 鉄	メッキ+塗装
レール	A6063	アルマイト処理
キャスター	エラストマー	—
ローラ	POM樹脂	—
エントリーガイド	SPHC 鉄	メッキ+塗装
小物部品	SPHC 鉄	ユニクロメッキ
アンカーボルト	TP1060	ジオメット

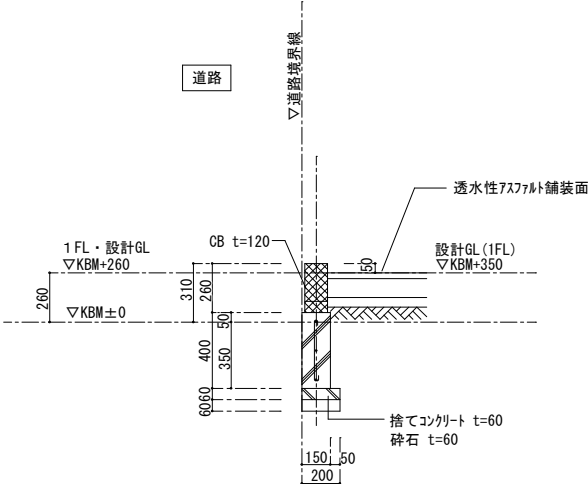
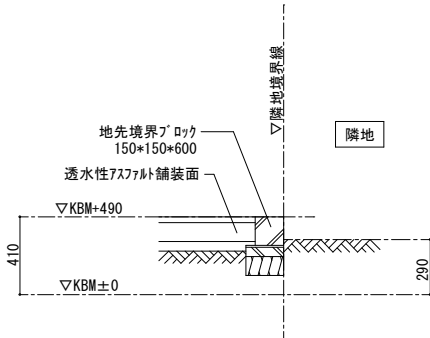
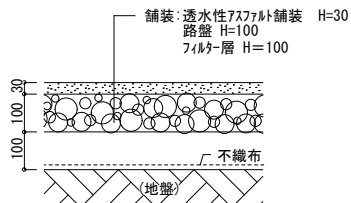
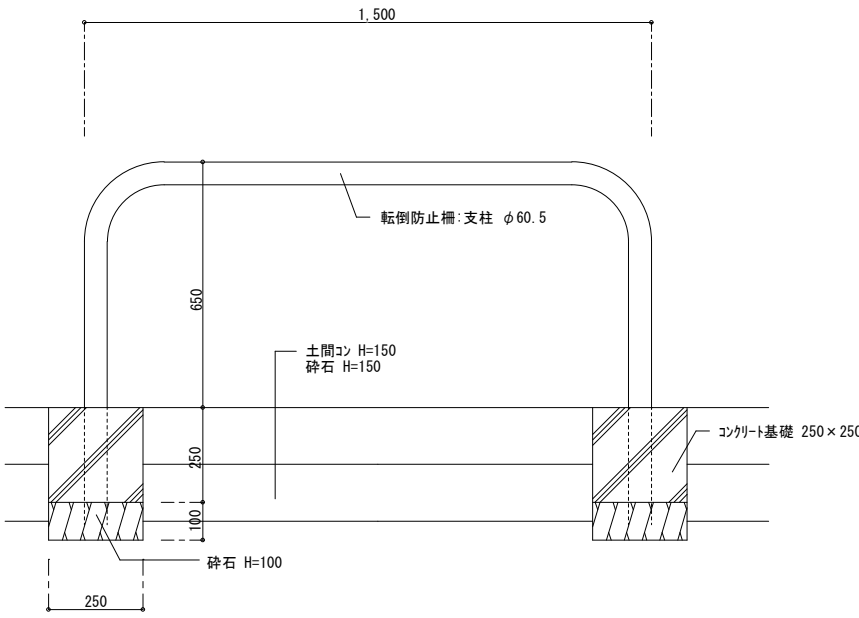


上段 材料仕様		
名称	材料	表面処理
ポスト	A6063	アルマイト処理
ラックレール	A6063	アルマイト処理
ガススプリング	スチール製	塗装
台車	SPHC 鉄	メッキ+塗装
ローラ	POM樹脂	—
ベース	SPHC 鉄	溶融亜鉛
小物部品	SPHC 鉄	ユニクロメッキ
アンカーボルト	TP1060	ジオメット

下段 材料仕様		
名称	材料	表面処理
ラックレール	A6063	アルマイト処理
トップガイド	STKM 鉄	メッキ+塗装
レール	A6063	アルマイト処理
キャスター	エラストマー	—
ローラ	POM樹脂	—
エントリーガイド	SPHC 鉄	メッキ+塗装
小物部品	SPHC 鉄	ユニクロメッキ
アンカーボルト	TP1060	ジオメット





道路境界部 立上り詳細図 S=1:20				東側 地先ﾌﾞﾛｯｸ詳細図 S=1:20				透水性ｱｽﾌﾙﾄ詳細図 S=1:10				転倒防止柵詳細図 S=1:10			
															
千葉市都市局建築部営繕課				<div> <div>工事名</div> <div>幕張駅北口自転車駐輪場新築工事</div> </div>				<div> <div>設計年月日</div> <div>令和 8 年 3 月 日</div> <div>変更年月日</div> <div>令和 年 月 日</div> </div>				<div> <div>図面名</div> <div>外構詳細図</div> <div>縮尺</div> <div>図示 (A1) 図示 (A3)</div> <div>図面番号</div> <div>A-15</div> </div>			

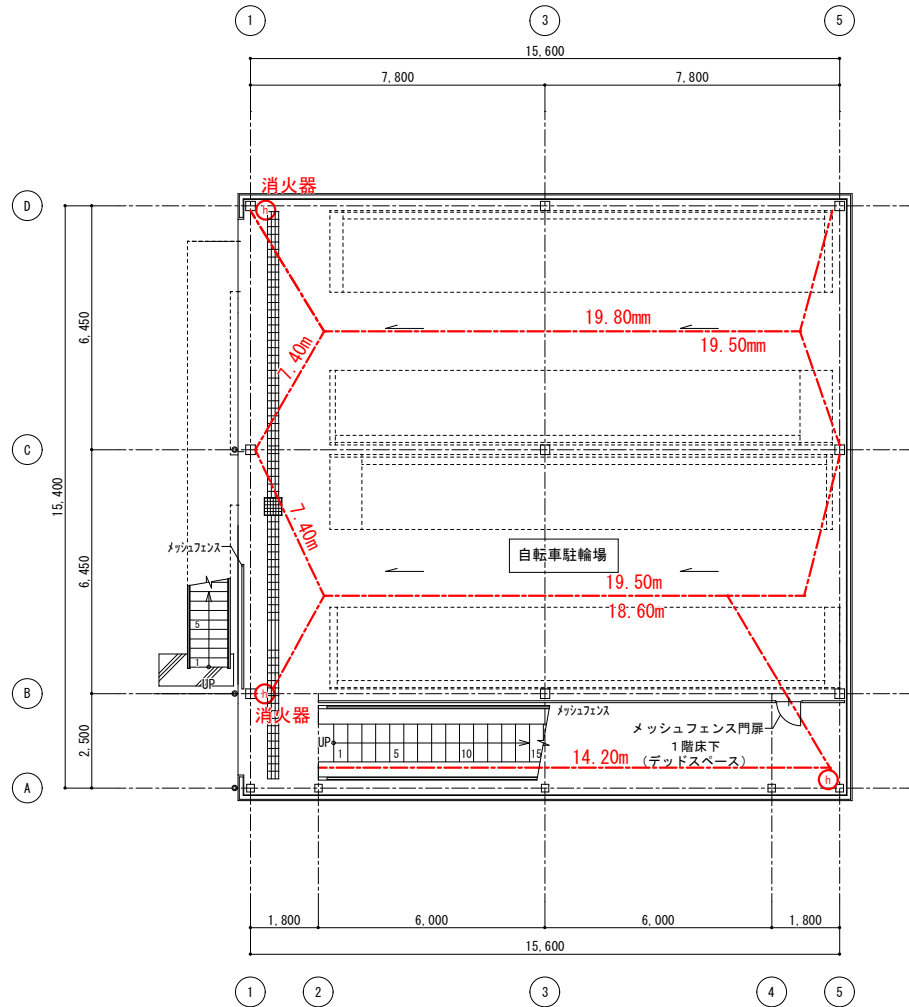


1階の開口検討			開口面積	有効開口面積	
立面位置	開口位置	開口幅×開口高さ		無窓階	事務連絡
北面	N1-1	7.550 × 0.950	7.172 m <sup>2</sup>		7.170 m <sup>2</sup>
	N1-2	7.550 × 0.950	7.172 m <sup>2</sup>		7.170 m <sup>2</sup>
		北面 合計	-	m <sup>2</sup>	14.340 m <sup>2</sup>
南面	S1-1	1.550 × 0.950	1.472 m <sup>2</sup>		1.470 m <sup>2</sup>
	S1-2	1.550 × 0.950	1.472 m <sup>2</sup>		1.470 m <sup>2</sup>
		南面 合計	-	m <sup>2</sup>	2.940 m <sup>2</sup>
東面	E1-1	2.250 × 0.950	2.137 m <sup>2</sup>		2.130 m <sup>2</sup>
	E1-2	6.200 × 0.950	5.890 m <sup>2</sup>		5.890 m <sup>2</sup>
	E1-3	6.200 × 0.950	5.890 m <sup>2</sup>		5.890 m <sup>2</sup>
		東面 合計	-	m <sup>2</sup>	13.910 m <sup>2</sup>
西面	W1-1	3.385 × 2.500	8.462 m <sup>2</sup>		8.462 m <sup>2</sup>
	W1-2	1.200 × 1.400	1.680 m <sup>2</sup>		1.680 m <sup>2</sup>
	W1-3	2.050 × 2.500	5.125 m <sup>2</sup>		5.125 m <sup>2</sup>
		西面 合計	-	15.267 m <sup>2</sup>	15.267 m <sup>2</sup>
有効開口面積合計				15.267 m <sup>2</sup>	46.457 m <sup>2</sup>

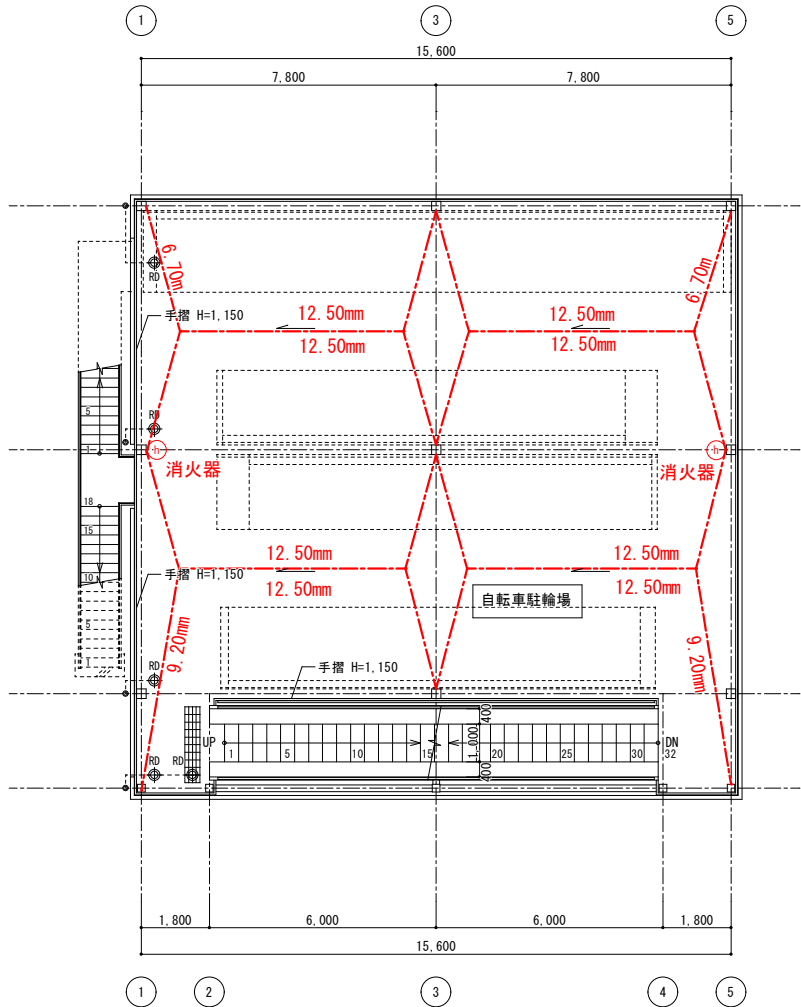
1階 開放性の検討					
◎窓無階の判定					
252.88 m <sup>2</sup>	×	1/30	=	8.43 m <sup>2</sup>	< 15.267 m <sup>2</sup> …… 有窓階
(床面積)		(係数)		(床面積×1/30)	(有効開口面積)
◎事務連絡の開口チェック					
252.88 m <sup>2</sup>	×	0.05	=	12.65 m <sup>2</sup>	< 46.457 m <sup>2</sup> …… OK
(床面積)		(係数)		(床面積の5%)	(有効開口面積)
62.00 m	×	0.50 m	=	31.00 m <sup>2</sup>	< 46.457 m <sup>2</sup> …… OK
(外周長)		(定数)		(必要開口面積)	(有効開口面積)

2階の開口検討			開口面積	有効開口面積	
立面位置	開口位置	開口幅×開口高さ		無窓階	事務連絡
北面	N2-1	7.550 × 0.950	7.172 m <sup>2</sup>		7.170 m <sup>2</sup>
	N2-2	7.550 × 0.950	7.172 m <sup>2</sup>		7.170 m <sup>2</sup>
		北面 合計	-	m <sup>2</sup>	14.340 m <sup>2</sup>
南面	S2-1	1.550 × 0.950	1.472 m <sup>2</sup>		1.470 m <sup>2</sup>
	S2-2	1.550 × 0.950	1.472 m <sup>2</sup>		1.470 m <sup>2</sup>
		南面 合計	-	m <sup>2</sup>	2.940 m <sup>2</sup>
東面	E2-1	2.250 × 0.950	2.137 m <sup>2</sup>		2.130 m <sup>2</sup>
	E2-2	6.200 × 0.950	5.890 m <sup>2</sup>		5.890 m <sup>2</sup>
	E2-3	6.200 × 0.950	5.890 m <sup>2</sup>		5.890 m <sup>2</sup>
		東面 合計	-	m <sup>2</sup>	13.910 m <sup>2</sup>
西面	W2-1	1.700 × 1.350	2.295 m <sup>2</sup>		2.295 m <sup>2</sup>
	W2-2	1.200 × 2.500	3.000 m <sup>2</sup>		3.000 m <sup>2</sup>
	W2-3	2.050 × 1.350	2.767 m <sup>2</sup>		2.767 m <sup>2</sup>
		西面 合計	-	8.062 m <sup>2</sup>	8.062 m <sup>2</sup>
有効開口面積合計				8.062 m <sup>2</sup>	39.252 m <sup>2</sup>

2階 開放性の検討					
◎窓無階の判定					
240.24 m <sup>2</sup>	×	1/30	=	8.00 m <sup>2</sup>	< 8.062 m <sup>2</sup> …… 有窓階
(床面積)		(係数)		(床面積×1/30)	(有効開口面積)
◎事務連絡の開口チェック					
240.24 m <sup>2</sup>	×	0.05	=	12.01 m <sup>2</sup>	< 39.252 m <sup>2</sup> …… OK
(床面積)		(係数)		(床面積の5%)	(有効開口面積)
62.00 m	×	0.50 m	=	31.00 m <sup>2</sup>	< 39.252 m <sup>2</sup> …… OK
(外周長)		(定数)		(必要開口面積)	(有効開口面積)



1階 平面図 S=1/100

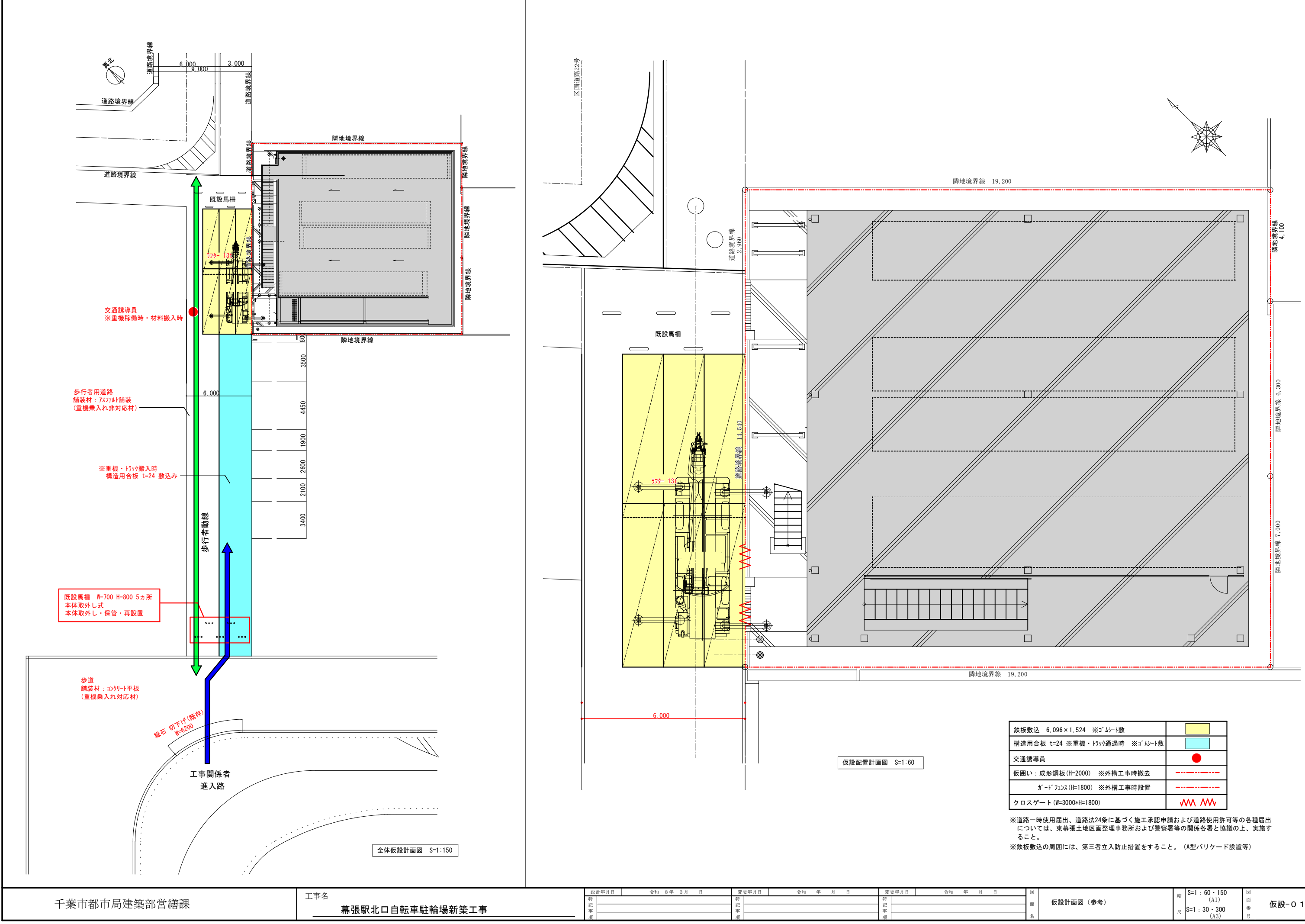


2階 平面図 S=1/100

【消防無窓階の判定】	
消防無窓階の判定についての規定	
・ 床面積の1/30以上の開口確保 ・ 床面から開口部下端までの高さ1.2m以下とする ・ 開口部は直径1.0m以上の円が内接することができる開口部 又は幅0.75m高1.2m以上の開口部が2以上	

◎事務連絡 12 m<sup>2</sup>の開口チェック  
2階開口面積の検討  
(7.550+7.550) × 0.900=13.59 m<sup>2</sup>  
∴有効開口面積：13.59 m<sup>2</sup>> 12 m<sup>2</sup>…OK  
  
1階開口面積の検討  
(7.550+7.550) × 0.900=13.59 m<sup>2</sup>  
∴有効開口面積：13.59 m<sup>2</sup>> 12 m<sup>2</sup>…OK  
  
収容人員  
(従業員＋その他の者の使用に供する部分の床面積)を3で除した数  
1階：252.88 / 3 = 84.29  
2階：240.24 / 3 = 80.08

h) A B C 粉末消火器 (歩行距離20m) B0X付



千葉市都市局建築部営繕課

工事名  
幕張駅北口自転車駐輪場新築工事

設計年月日	令和 8 年 3 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日
特記事項		特記事項		特記事項	

図面名	仮設計画面図（参考）	縮尺	S=1：60・150 (A1) S=1：30・300 (A3)	図面番号	仮設-O 1
-----	------------	----	--	------	--------



# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

## １．一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D・・・部材の成 R・・・直径  
@・・・間隔 r・・・半径 CL・・・中心線 Lo・・・部材間の内法距離 Ho・・・部材間の内法高さ  
STP・・・あばら筋 HOOP・・・帯筋 S.HOOP・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸鋼

## ２．鉄筋加工、かぶり

### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d 以上	6d 以上 (※4d 以上)	8d 以上 (※4d 以上)
折曲げ内法寸法 R は、SR235～SD345 の径 16 及び D16 以下は 3d 以上 SD295～SD345 の D19～D38 は 4d 以上、D41 及び SD390 は 5d 以上 スラブ筋、壁筋に丸鋼は使用しない。			

### (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度 90° 以下

図	鉄筋の使用箇所 による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による 区分	鉄筋の折曲げ 内法寸法 (R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235・SR295 SD295 SD345	16φ 以下 D16 19φ 以上	3d 以上 4d 以上
	上記以外の鉄筋	SD295 SD345 SD390	D16 以上 D19 ～ D25 D29 ～ D41	4d 以上 6d 以上 8d 以上

### (3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

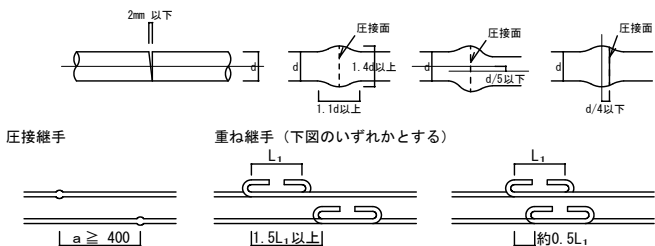
鉄筋の種類	普通・軽量コン クリートの設計 基準強度の範囲 (N/mm <sup>2</sup> )	定 着 の 長 さ			特別の定着及び 重ね継手の長さ (L <sub>1</sub> )
		一般 (L <sub>2</sub> )	下端筋 (L <sub>3</sub> )		
			小 梁	スラブ	
SR235	21 ・ 24	35d フック付	25d フック付	150mm フック付	35d フック付
	18 以下	45d フック付			45d フック付
SD295 SD345	27 ～ 36	30d または 20d フック付	25d または 15d フック付	10d かつ 150mm 以上	35d または 25d フック付
	21 ・ 24	35d または 25d フック付 (SD345は40d)			40d または 30d フック付
	18 以下	40d または 30d フック付			45d または 35d フック付
	SD390	27 ～ 36			35d または 25d フック付
	21 ・ 24	40d または 30d フック付			45d または 35d フック付

注) 許容応力度計算、保有水平耐力計算、その他構造計算を要さない小規模建物の場合は、梁主筋の定着は、40d とする。

#### 継 手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- D29 以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が 7mm を超える場合は、圧接としてはならない

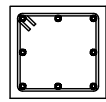
#### ガス圧接形状



### (4) かぶり厚さ

(単位: mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。



### (5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値 1.5d 以上  
粗骨材の最大寸法の 1.25 倍以上かつ 25mm 以上



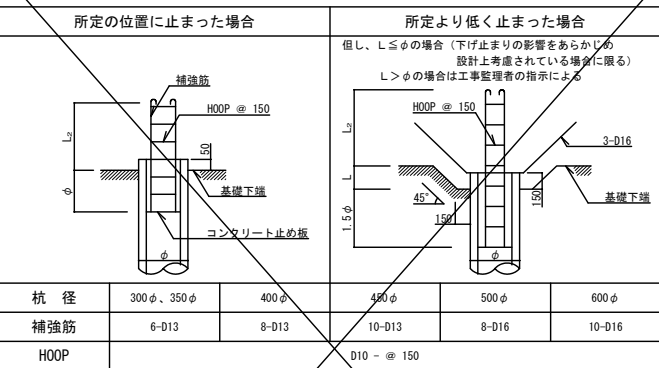
### (6) 鉄筋のフック (a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける)

- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋  
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出隅部分の鉄筋 (右図参照)  
e. 単純梁の下端筋  
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

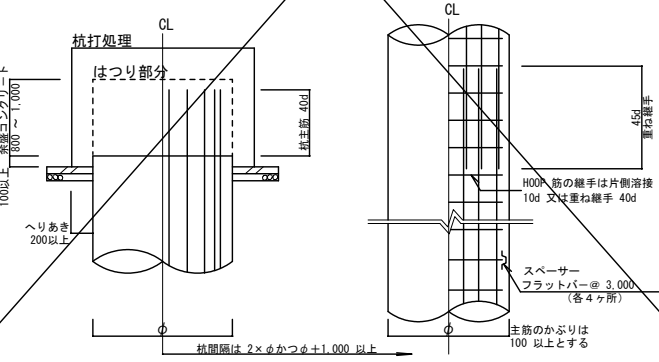
## ３．杭

(地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

### (1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

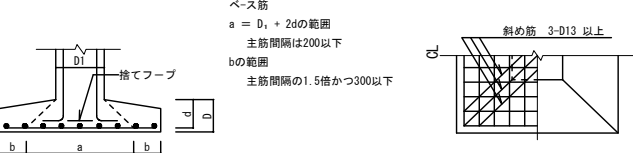


### (2) 現場打ちコンクリート杭

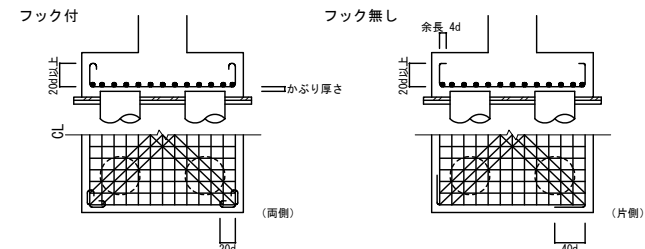


## ４．基礎

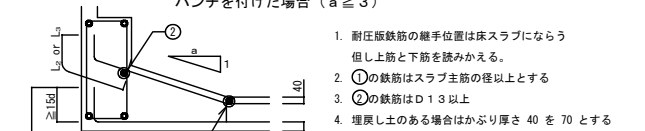
### (1) 直接基礎



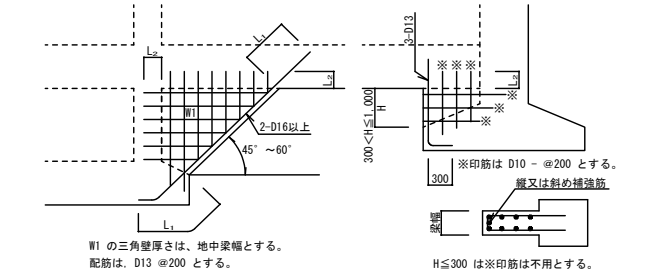
### (2) 杭基礎



### (3) ベタ基礎

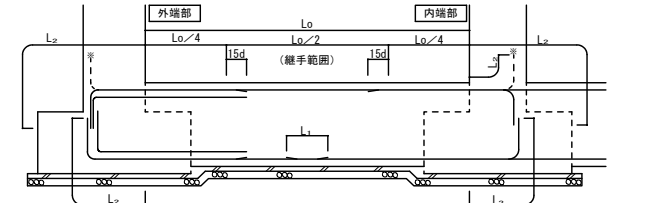


### (4) 基礎接合部の補強

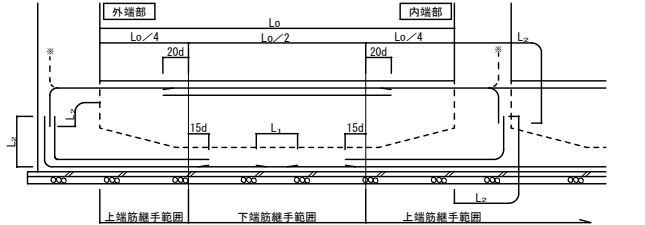


## ５．地中梁

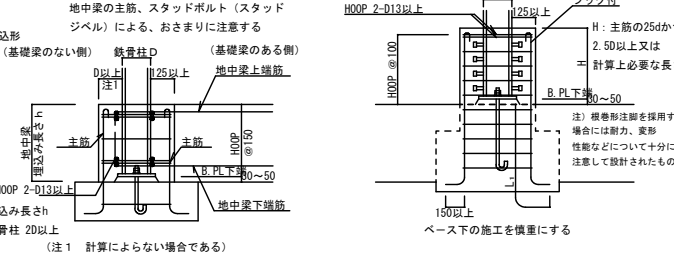
### (1) 独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）



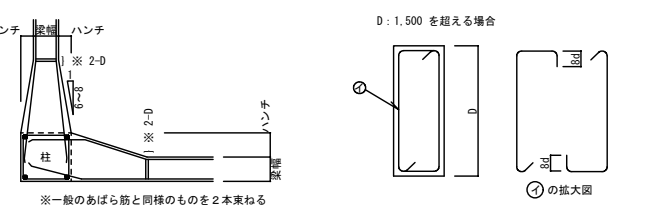
### (2) 布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



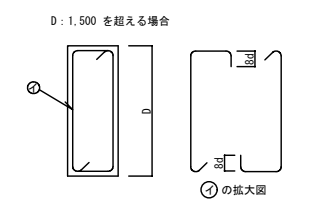
### (3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋



### (4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

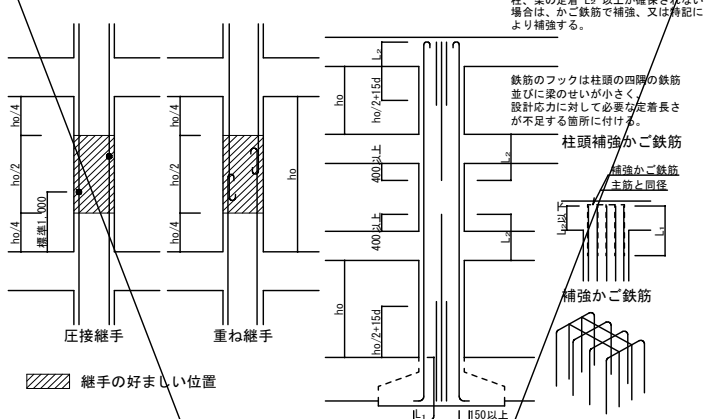


### (5) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

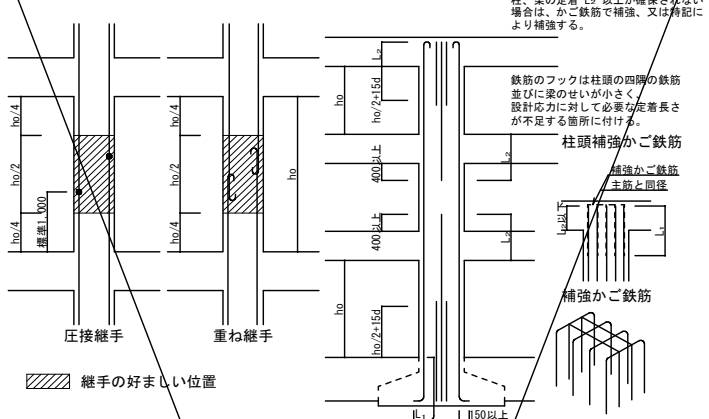


## ６．柱

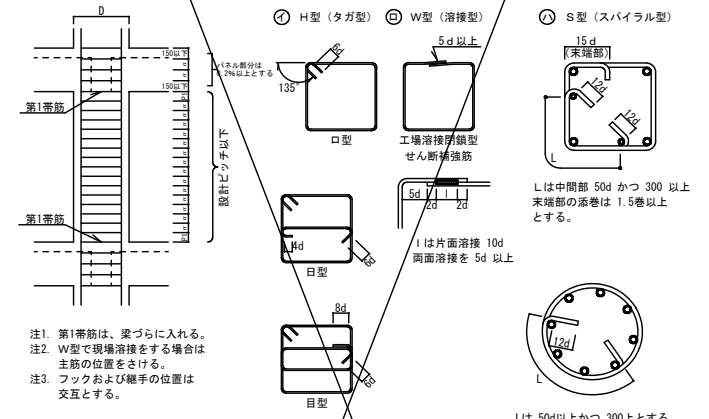
### (1) 柱主筋の継手



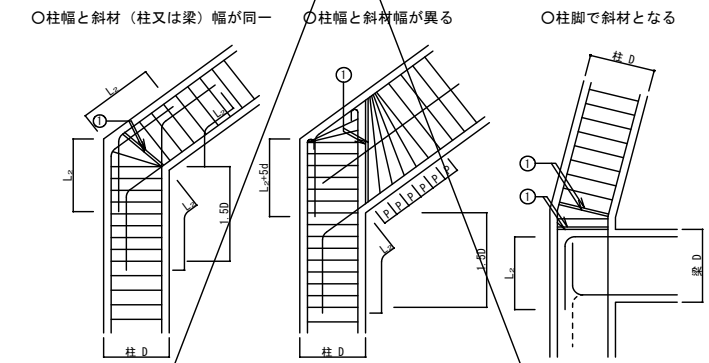
### (2) 柱主筋の定着



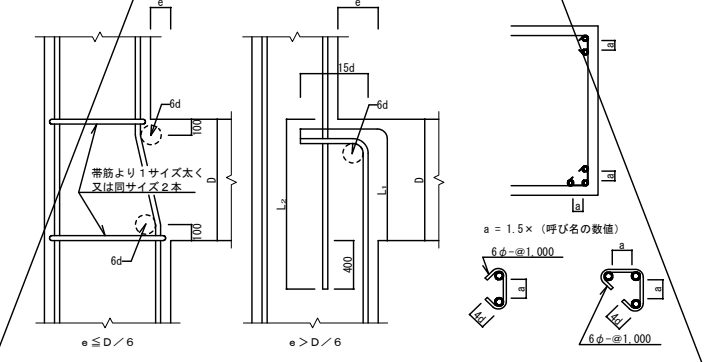
### (3) 帯筋



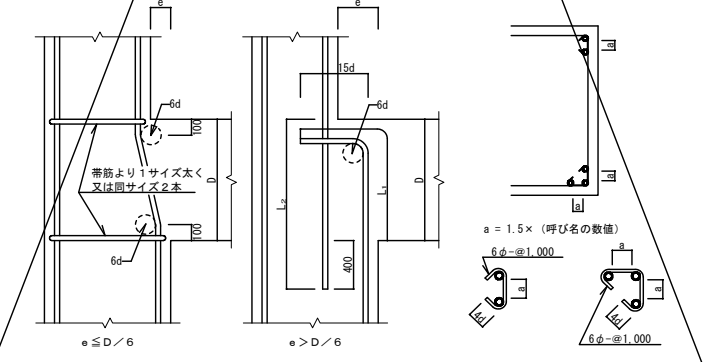
### (4) 斜め柱・斜め梁



### (5) 紋り



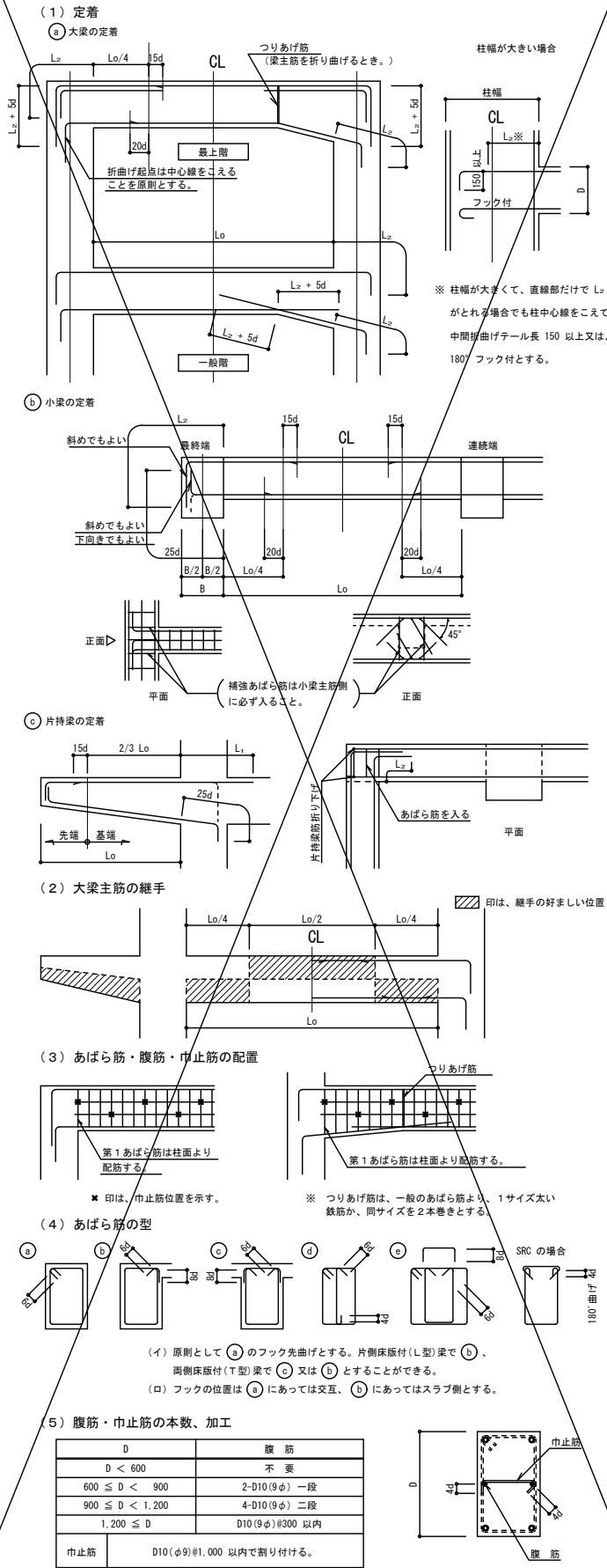
### (6) 二段筋の保持



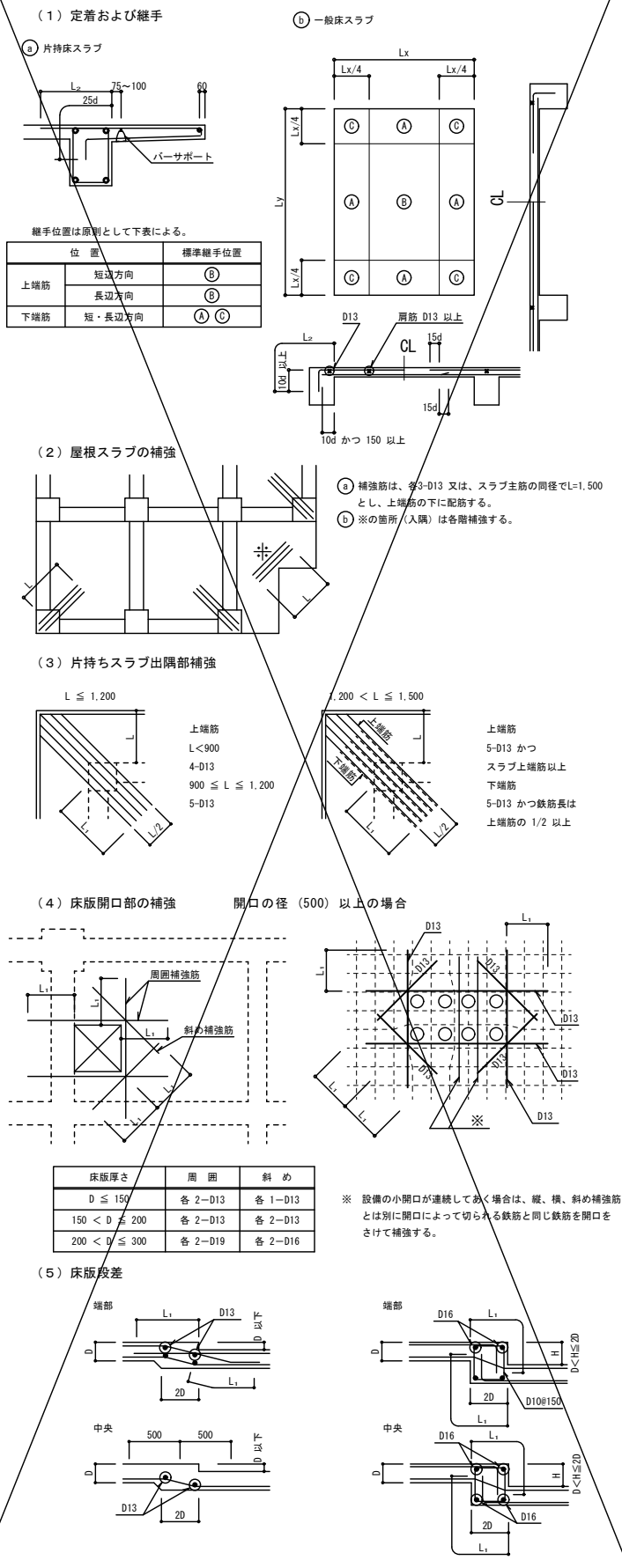
# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

寸法は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

## 7. 大梁、小梁、片持梁

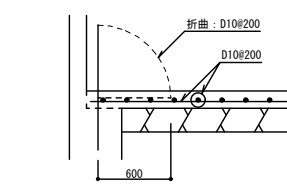


## 8. 床版

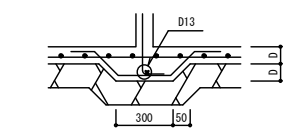


## (6) 土間コンクリート

### ① 軽作業の土間

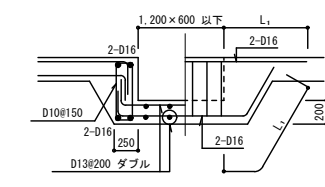


### ② 間仕切壁との交叉部

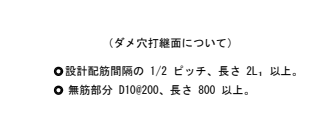


## (7) 釜場

特記なき限り下図とする



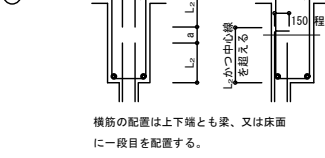
### (8) 打継ぎ補強



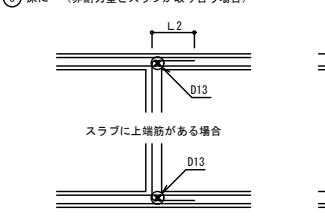
## 9. 壁

### (1) 定着

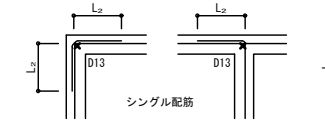
#### ① 梁に



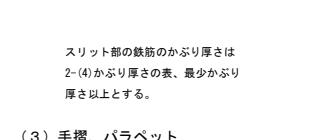
#### ② 床に (非耐力壁とスラブが取り合う場合)



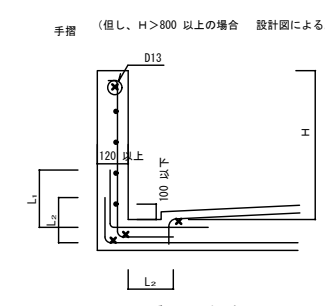
#### ③ 壁と壁 (平面図)



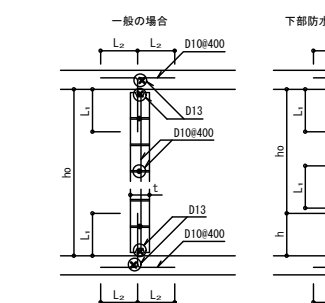
### (2) 壁スリット部 (設計図に記入のあるとき)



### (3) 手摺、バラベット



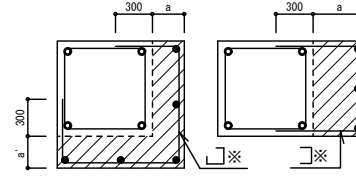
### (4) コンクリートブロック帳壁



## 10. 柱・梁増打コンクリート補強

増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと。

### (1) 柱

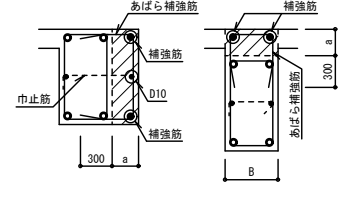


ハッチ部分は増打コンクリートを示す。  
● 印は補強筋  
※ 印補強筋は柱と同径同ピッチとする。

補強筋 (タテ筋)  
ハッチ部分の面積 A cm<sup>2</sup>

A < 500	500 ≤ A < 1,000	1,000 ≤ A < 1,500
3-D16	4-D16	6-D16

### (2) 梁

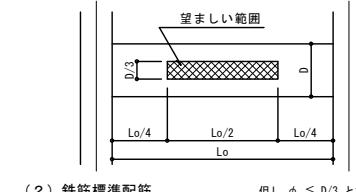


- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- 補強筋は、梁主筋の1段階し径 (D16以上) とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋 D10 ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- B ≥ 400 の場合は補強筋を3本とする。
- a は 100~200 程度。
- 梁下増打コンクリートの場合も梁上端増打コンクリート補強と同様とする。

## 11. 梁貫通孔補強

### (1) 設置可能範囲

梁端部 (スパン L<sub>0</sub>/10 以内かつ 20 以内) は避ける。



### (2) 鉄筋標準配筋

85 < φ ≤ 100 折筋: 2-(2-D13) 縦筋: Str. 2-D13φ100	100 < φ ≤ 150 折筋: 2-(2-D13) 縦筋: Str. 2-D13φ100 横筋: 2-(2-D13) 上・下縦筋: Str. 2-D3	150 < φ ≤ 250 折筋: 4-(2-D13) 縦筋: Str. 2-D13φ100 横筋: 2-(2-D13) 上・下縦筋: Str. 2-D3
250 < φ 配筋は計算により、設計者又は、工事監理者と打合せのこと。		
孔補強の有効範囲と定着長さのとり方		
<ul style="list-style-type: none"><li>梁幅が400を超える場合は補強筋で D13 は D16</li><li>又は、2-D13 は 3-D13 とそれぞれ読みかえる。</li><li>※部分は D/3 以上、又は 250 以上とする。</li></ul>		

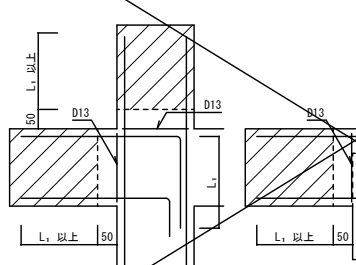
### (3) 既製品

(使用するときは、設計者又は工事監理者と打合せのこと。)

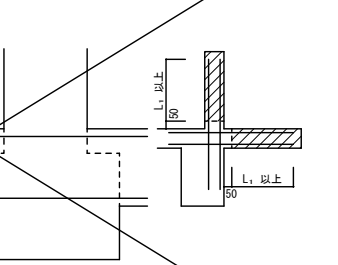
- リング型
- パイプ型
- 金網型
- プレート型

## 12. 増築予定

### (1) 柱・梁



### (2) 地中梁



### (3) 柱・梁



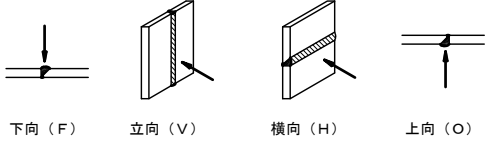
鉄骨構造標準図（１）

1. 一般事項

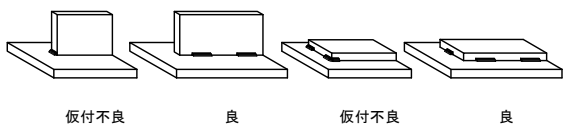
- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による。
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが 40mm 以下のものとする。  
※ 但し、ベースプレートの厚さは除く。
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する。
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
- (c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする。

- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。

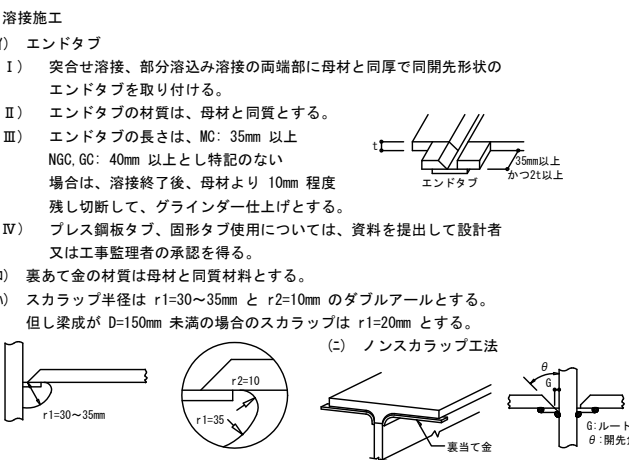
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接工  
溶接工は施工する溶接に適用する JIS Z 3801（手溶接）又は JIS Z 3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
- (b) 溶接機器
- (i) 交流アーク溶接機 300A～500A (ii) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
- (d) アークエアーガウジング機(直流)600A (e) 溶接電流を測定する電流計
- (f) 溶接棒乾燥器 (g) サブマージドアーク溶接機1式
- (c) 溶接方法  
アーク手溶接（MC） ガスシールドアーク溶接（GC）  
ノンガスシールドアーク溶接（NGC） アークエアーガウジング（AAG）
- (d) 溶接姿勢



- (e) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う。
- (f) 仮付位置  
仮付溶接は溶接の始・終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。



- (d) 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。
- (f) 溶接施工
- (i) エンドタブ
- I) 突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
- II) エンドタブの材質は、母材と同質とする。
- III) エンドタブの長さは、MC: 35mm 以上  
NGC, GC: 40mm 以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より 10mm 程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。
- IV) プレス鋼板タブ、円形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る。
- (d) 裏あて金の材質は母材と同質材料とする。
- (f) スカラップ半径は r1=30～35mm と r2=10mm のダブルアールとする。但し梁成が D=150mm 未満の場合のスカラップは r1=20mm とする。
- (二) ノンスカラップ工法

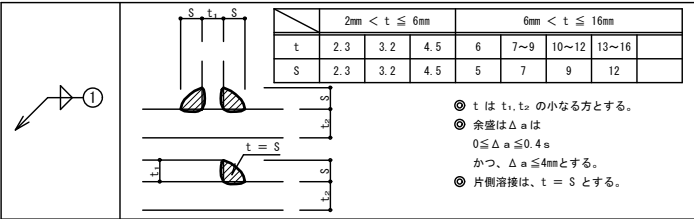


- (二) 裏はつり  
標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける。
- (e) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う。
- (f) ノンスカラップ工法でめっき仕様とする場合、製作工場と協議の上めっき孔を設けること。
- (h) ダイアフラムに設けるめっき孔の開口率は30%以下を目安とする。

2. 溶接標準図

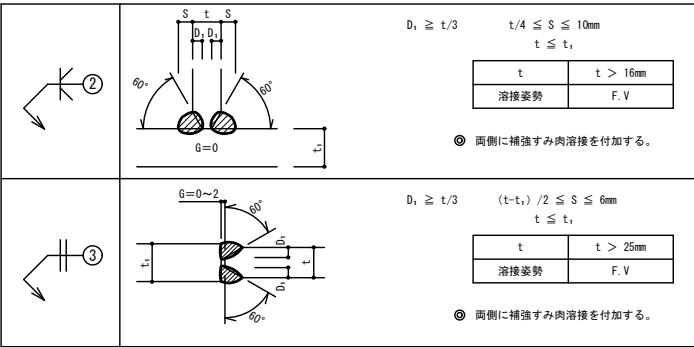
(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース  
S: 脚長 (単位: mm)

(1) スミ肉溶接



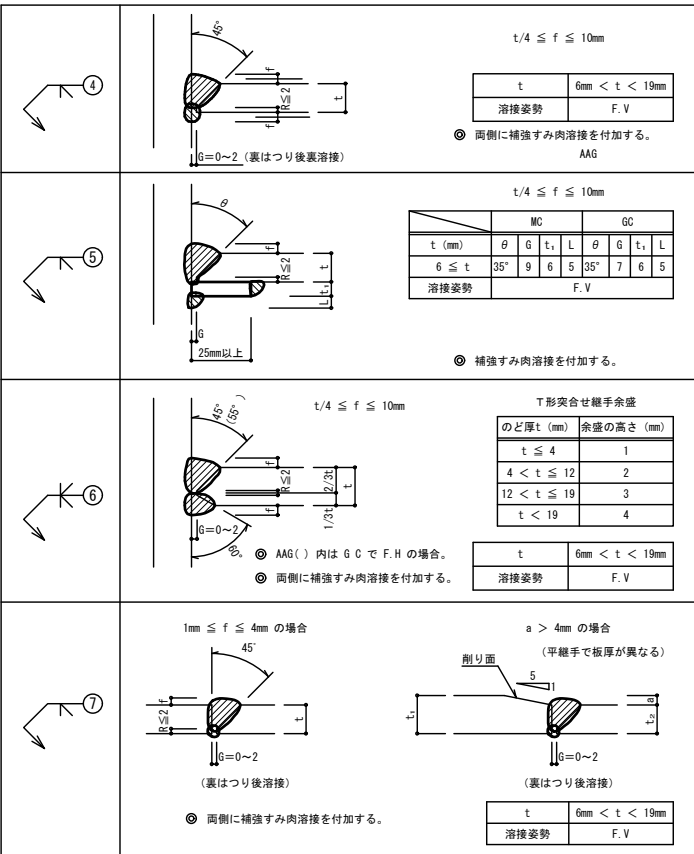
(2) 部分溶け込み溶接

(使用箇所)に注意)

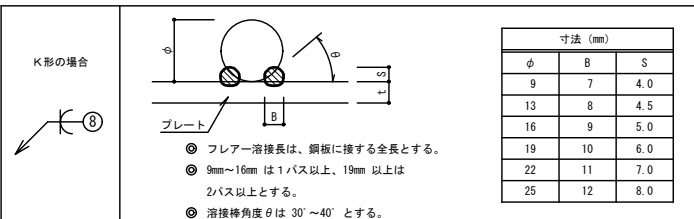


(3) 突合せ溶接

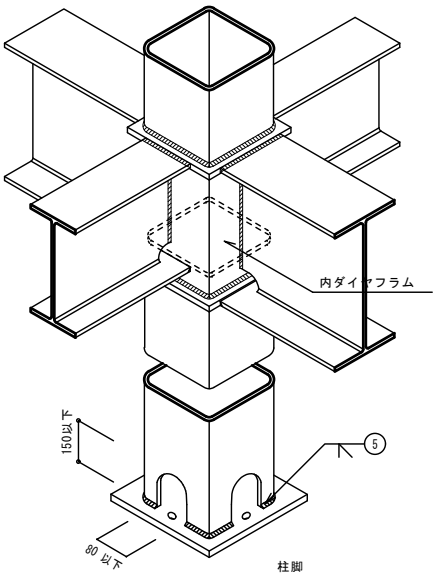
(平継手 T形継手)



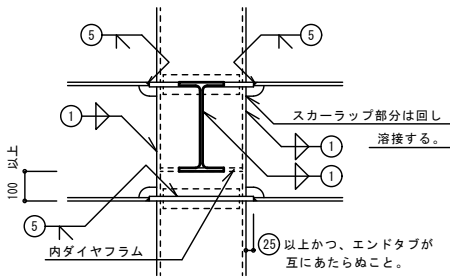
(4) フレー溶接



○ BOX型 (通しダイアフラムの場合)

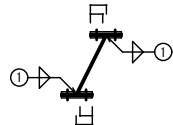
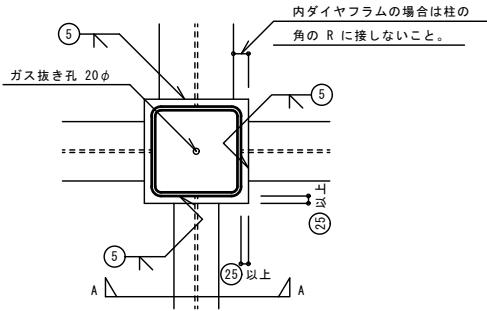
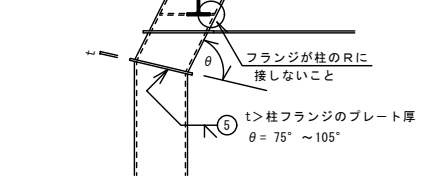


A-A 断面図



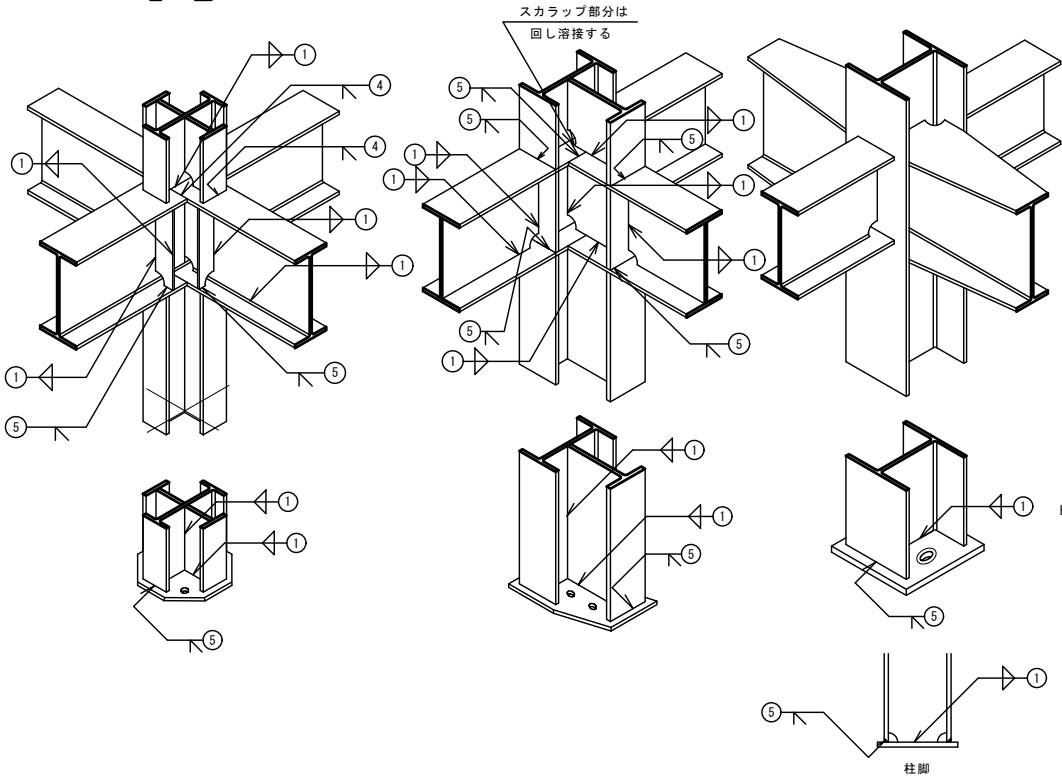
● 柱が途中で折れる場合

及び梁成が異なる場合



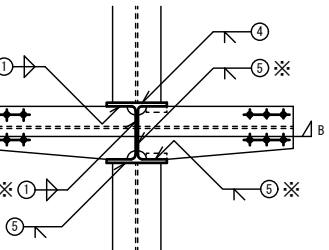
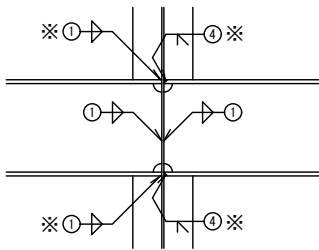
大梁が斜めの場合は溶接と添板の内側板に注意すること

○ H、B、H 型



○ H、B、H 型

B-B 断面図



※ 全周すみ肉溶接又は突合せ (裏あて金付)

○ 鋼材種別による溶接条件

溶接材料と入熱量・バス間温度

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス間温度 (℃)	鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス間温度 (℃)
400N級炭素鋼 (STKR、BGR、BCPを除く)	JIS Z 3312	YGW11、YGW15	40 以下	350 以下	400N級炭素鋼 (STKR、BGR、BCP)	JIS Z 3312	YGW11、YGW15	30 "	250 "
		YGW18、YGW19	30 "	450 "			YGW18、YGW19	40 "	350 "
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U	40 "	350 "		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U	40 "	350 "
		T550Tx-yMA-U	30 "	450 "			T550Tx-yMA-U	40 "	350 "
490N級炭素鋼 (STKR、BCPを除く)	JIS Z 3211	E43xx、E49xx	40 "	350 "	490N級炭素鋼 (STKR、BCP)	JIS Z 3312	YGW11、YGW15	30 "	250 "
		YGW18、YGW19	30 "	450 "			YGW18、YGW19	40 "	350 "
	JIS Z 3312	T490Tx-yCA-U	40 "	350 "		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U	40 "	350 "
		T550Tx-yMA-U	30 "	450 "			T550Tx-yMA-U	40 "	350 "
490N級炭素鋼 (STKR、BCPを除く)	JIS Z 3313	E43xx、E49xx	40 "	350 "	490N級炭素鋼 (STKR、BCP)	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U	40 "	350 "
		YGW18、YGW19	30 "	450 "			T550Tx-yMA-U	40 "	350 "
	JIS Z 3211	E43xx、E49xx	40 "	350 "			T550Tx-yCA-U	40 "	350 "
		YGW18、YGW19	30 "	450 "			T550Tx-yMA-U	40 "	350 "

注) ロボット溶接の場合 (一社) 日本ロボット工業会による建築ロボットの型式認証条件に準ずること。  
490N/mm<sup>2</sup>を超える部材は適合する溶着金属を使用すること。



# 鉄骨構造標準図（2）

※修正箇所は下線を引くこと。

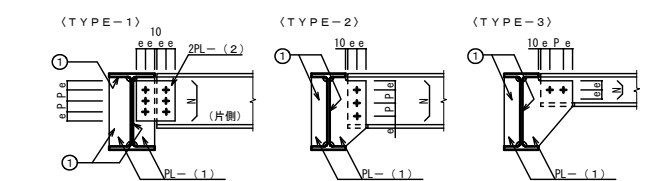
## 3. 継手規準図、その他

### (1) 高力ボルト・ボルト・アンカーボルトピッチ (P)

呼び径 d	ボルト 穴径	ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)				ピッチ (P)	
		最小縁端距離 (e)				最小	標準
		(1)	(2)	(3)	(2) (3) の値		
M12	14.0	30	22	18	30	30	50
M16	18.0	40	28	22	40	40	60
M20	22.0	50	34	26	40	50	60
M22	24.0	55	38	28	40	55	60
M24	26.0	60	44	30	45	60	70
アンカーボルト・ボルト ( ) 内はボルトを示す。	M16	21 (16.5)	28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)	34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)	38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)	44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32.0	49	36			
	M30	35.0	54	40			
	M34	呼び径+5	9d/5	4d/3			

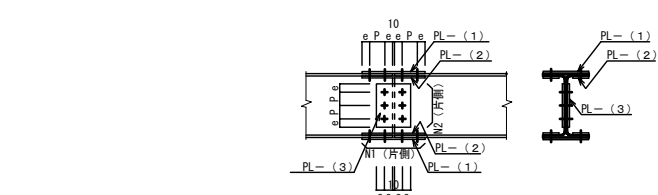
〔注〕 (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離  
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離  
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

### (2) ピン接合梁継手リスト



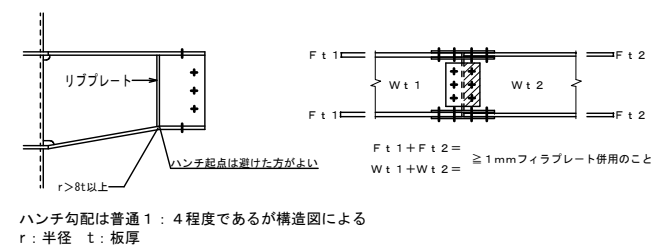
符 号	タイプ	部 材	PL- (1)	PL- (2)	N-径
		部材リスト参照			

### (3) 剛接合継手リスト (SCSS-H97による)

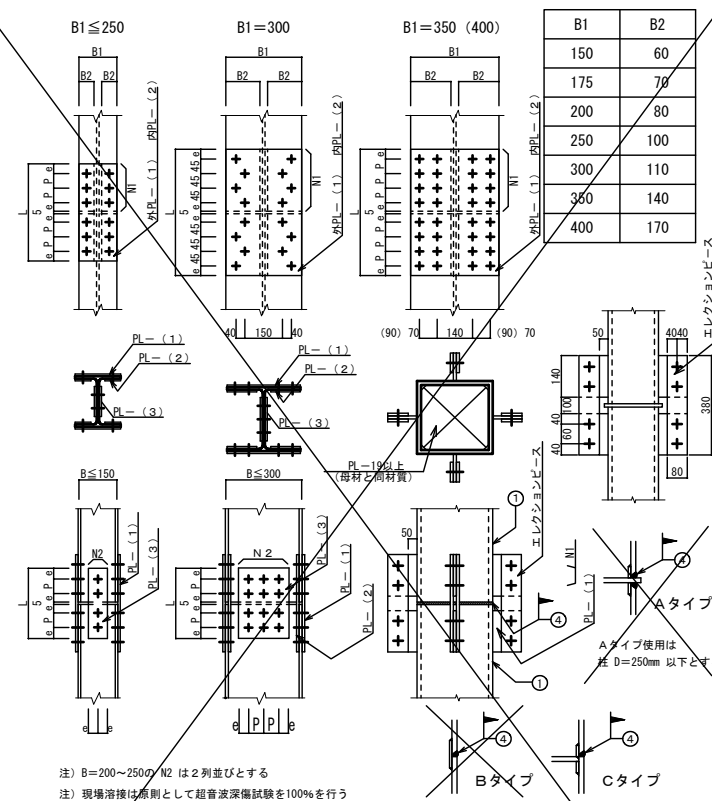


符 号	部 材	フランジ			ウェブ	
		PL- (1)	PL- (2)	M1-径	PL- (3)	N2-径
	部材リスト参照					

### (4) ハンチ部の継手



### (5) 柱継手リスト (SCSS-H97による)



注) B=200~250φ M2 は2列並びとする  
注) 現場溶接は原則として超音波深部試験を100%を行う

符 号	部 材	フランジ			ウェブ	
		PL- (1)	PL- (2)	N1-径	PL- (3)	N2-径

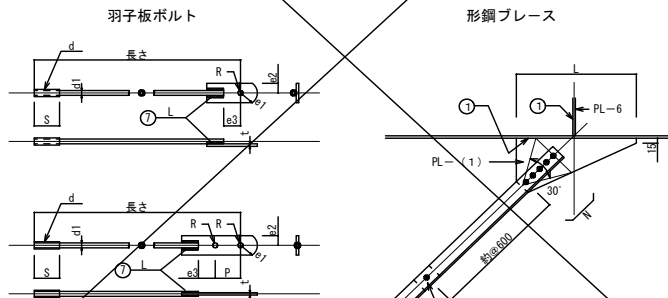
### (6) プレース (JIS規格品とする・JIS A 5540・1982/5541・5542・2008)

採 用		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
ねじの呼び (d)	最 大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最 小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ S		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差+0~-0.5mm R		13.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき (最小) (2) e1		35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小) e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚 t	4.5	6.0	6.0	9.0	9.0	9.0	9.0
平鋼製	へりあき (最小) e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚 t	4.5	6.0	6.0	9.0	9.0	9.0	9.0
ボルト端から取付ボルト 穴心のあき (最小) e3		47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ (最小) L		40	50	55	60	75	85	85
種 類		JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T)						
(2) 取付ボルト	種 類							
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本 数	1	1	1	1	1	1	2

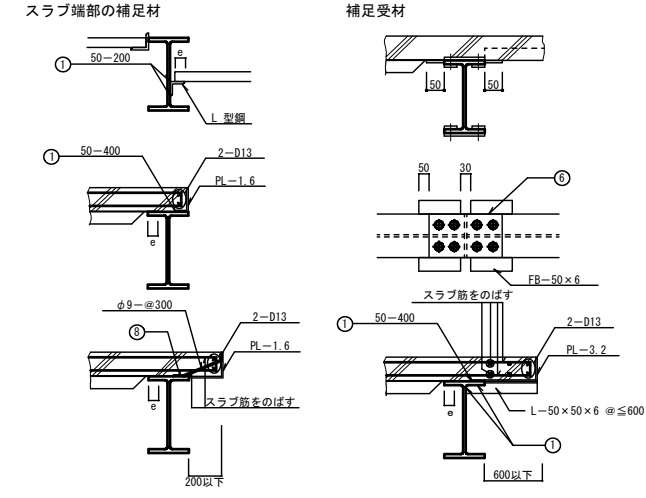
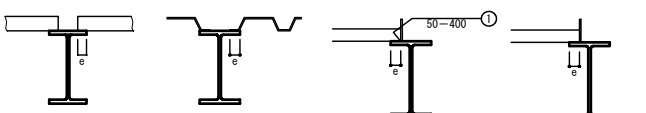
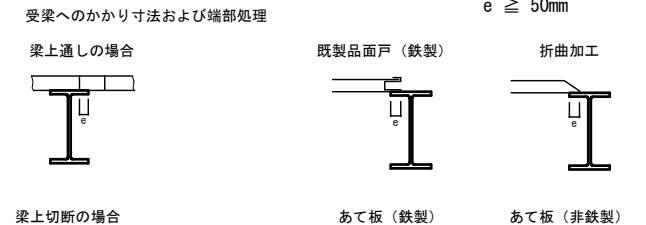
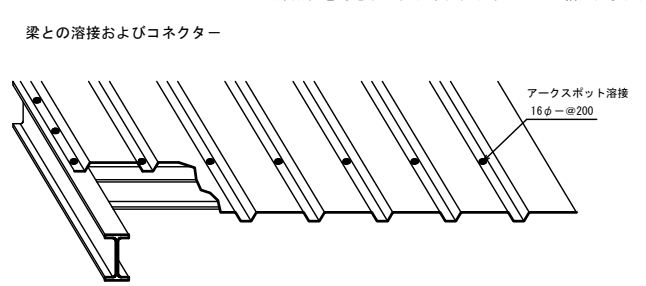
注) (1) e1, e2が確保されていれば形状は自由でよい  
(2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (圧圧) 接合とする

### (b) 形鋼ブレース

符 号	部 材	PL- (1)	N-径



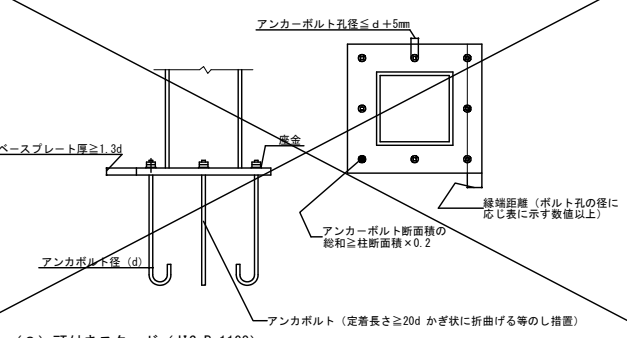
### (7) デッキプレート



### (8) 露出柱脚 (a) H形鋼 (ピン) 間柱 B.PL

符号	部 材	アンカーボルト 径 L 本数	ベースプレート 厚 A B g	備 考
	部材リスト参照			

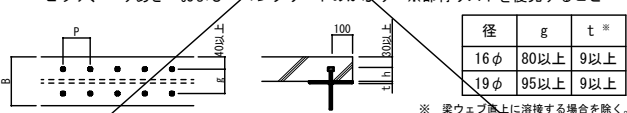
### (b) 露出形式柱脚 (許容応力度計算を行わない場合)



### (9) 頭付きスタッド (JIS B 1198)

形状	スタッド材				
	呼び名	軸径 d (mm)	頭径 D (mm)	頭高さ T (mm)	溶接後の長さ L (mm)
φ13 mm		13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
		12.7	25.4	7.9	
φ16 mm		16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
		15.8	31.7	7.9	
φ19 mm		19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
		19.0	31.7	9.5	
φ22 mm		22.0	35.0	10.0	100, 130, 150
		22.2	34.9	9.5	

### ピッチ、へりあき および コンクリートのかぶり ※部材リストを優先すること



B < 300 の場合 1列打ち

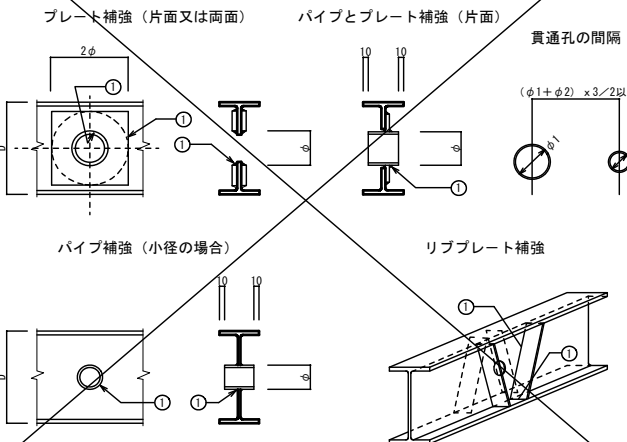
② 盤手のスプライスプレートにはスタッドを打設しない。

部位	梁幅	スタッド				
		列	径	P	h	g
大梁	B ≥ 300	2	19 φ	300	80	150
	B < 300	1	19 φ	300	80	
小梁	B ≥ 300	2	19 φ	300	80	150
	B < 300	1	19 φ	300	80	

注) 継手のスプラインプレートにはスタッドを打設しない。

### (10) 梁貫通補強

- 計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
- 梁端部 (スパンの L/10 以内かつ 2D 以内) は避ける
- φ ≤ 0.4 D



Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様② JFE 建材 株式会社

耐火補強筋不要仕様 [耐火認定FP060FL-0099, 0100, 0101, 0102, 0126, FP120FL-0127用]

Q Lデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、Q Lデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設 計

材料/デッキプレート [ISO 9001認証取得]

デッキプレート種類	板厚(mm)	表 面 処 理
■ Q L 9 9 - 5 0 □ Q L 9 9 - 7 5	端部加工 ■エッジ有り □無し	□1.0 ■1.2 □1.6 □垂鉛めっき [ □Z12 □Z27 ] □JFEエッジ(高耐食溶融めっき鋼板) [ □Y18 □Y27 ] □その他( ) □表面防錆処理(一次塗装) Q L プライマー (P)※1※2 ■垂鉛めっき [ ■Z12 □Z27 ] □JFEエッジ(高耐食溶融めっき鋼板) [ □Y18 □Y27 ] □その他( ) □無し
材 質	J I S G 3 3 5 2 に定める S D P 1 T、S D P 2、S D P 2 G	

材料/コンクリート

種 類	□普通コンクリート
設計基準強度	□18 ■21 □24 ( ) N/mm <sup>2</sup>
厚さ(Q Lデッキ山上)	□60 □70 □80 □85 □90 □95 ■100 ( ) mm

材料/溶接金網・異形鉄筋

□ 溶 接 金 網	J I S G 3 5 5 1	□φ6-75×75 □φ6-150×150 ■φ6-100×100(20メッシュ) ( ) ※3
□ 異 形 鉄 筋	J I S G 3 1 1 2、3 1 1 7	□D10-150×150 □ ( ) □D10-200×200 □ ( )

※3 線形6mm以上を用いたもの

接 合

梁 と の 接 合	■頭付きスタッド	JIS B 1196 □φ13 □φ16 □φ19 □φ22 (各長さ・ピッチは特記による※4)
	■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
	□打込み鉄	接合箇所は特記による
	□その他	

※4 最小長さはデッキ高さ+30mm以上とする

耐 火

デッキプレート	耐火区分	支持条件	コンクリート種別	耐火補強筋	認定番号
Q L 9 9 - 5 0	床 1 時間	単純/連続	普通	不要	□ F P 0 6 0 F L - 0 1 2 6 ■ F P 0 6 0 F L - 0 1 0 0 ■ F P 0 6 0 F L - 0 1 0 1
Q L 9 9 - 7 5					□ F P 0 6 0 F L - 0 1 0 2 □ F P 0 6 0 F L - 0 0 9 9 □ F P 1 2 0 F L - 0 1 2 7
その他	□指定なし	□ ( )	□ ( )	□ ( )	

注) 床 2 時間は床 1 時間耐火を含む

特 記

支 保 工 有 無	その他:
■ 無 □ 有	

上欄内の採用項目に□を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



デッキプレートスパン方向

「Q Lデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$Aw = \frac{1.5 Q_d}{Q_0} \times 1000 \text{ mm かつ } 600 \text{ mm 以下}$$

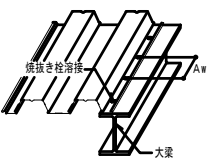
Aw: 焼抜き栓溶接ピッチ

Q<sub>0</sub>: 設計最大せん断力(N/m)

Q<sub>a</sub>: 焼抜き栓溶接 1 個当たりの長期許容せん断力(N)

板厚	1	2	1.6
Q <sub>a</sub> (N)	4,000	4,900	7,350 (SPW) 6,860 (APW)

Aw = ( 600 ) mm

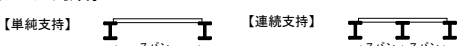


■施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)

コンクリート厚(mm)	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	単位 (mm)
単純 (内法)	2.28	2.42	2.64	2.86	3.09	3.31	3.54	3.77	3.99	4.22	4.44	4.67	4.89	5.12	5.35	2.30
2連続	3.06	3.24	3.54	3.83	4.12	4.41	4.70	4.99	5.28	5.57	5.86	6.15	6.44	6.73	7.02	2.54
3連続	2.82	2.99	3.26	3.53	3.80	4.07	4.34	4.61	4.88	5.15	5.42	5.69	5.96	6.23	6.50	2.30
単純 (内法)	3.01	3.19	3.48	3.76	4.04	4.32	4.60	4.88	5.16	5.44	5.72	6.00	6.28	6.56	6.84	2.54
2連続	3.58	3.91	4.18	4.45	4.72	4.99	5.26	5.53	5.80	6.07	6.34	6.61	6.88	7.15	7.42	2.54
3連続	3.50	3.68	3.93	4.18	4.43	4.68	4.93	5.18	5.43	5.68	5.93	6.18	6.43	6.68	6.93	2.30

注1: 普通コンクリート (単位重量 24 (N/m<sup>3</sup>)). 表面処理が垂鉛めっきの場合  
注2: 0 数値は表面処理が垂鉛めっきなしまたは塗装品の許容スパンを示す。注3: 上表を超える場合、別途支保工が必要とする。

S 進・施工時のスパンの取り方



耐 火 仕 様

○共通事項 支持梁: 鉄骨梁、コンクリート: 設計基準強度18~36 N/mm<sup>2</sup>の普通コンクリート

溶接金網 [JIS G 3551]又は異形鉄筋 [JIS G 3112, G 3117] 寸法は下表参照

耐火補強筋: 不要

【Q L 9 9 - 5 0】

■認定番号 [FP060FL-0100 (床 1 時間耐火)]

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
Q L 9 9 - 5 0 - 1 0 Q L 9 9 - 5 0 - 1 2 Q L 9 9 - 5 0 - 1 6	単純支持 連続支持	2,700mm 以下	80mm 以上	5,400 N/m <sup>2</sup> 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18以上) 打込み鉄 (φ4.5) 頭付きスタッド (φ13以上)

■認定番号 [FP060FL-0101 (床 1 時間耐火)]

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
Q L 9 9 - 5 0 - 1 0 Q L 9 9 - 5 0 - 1 2 Q L 9 9 - 5 0 - 1 6	単純支持 連続支持	3,000mm 以下	80mm 以上	3,500 N/m <sup>2</sup> 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18以上) 打込み鉄 (φ4.5) 頭付きスタッド (φ13以上)

□認定番号 [FP060FL-0126 (床 1 時間耐火)]

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
Q L 9 9 - 5 0 - 1 0 Q L 9 9 - 5 0 - 1 2 Q L 9 9 - 5 0 - 1 6	単純支持 連続支持	2,700mm 以下	80mm 以上	7,000 N/m <sup>2</sup> 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド (φ16以上)



【Q L 9 9 - 7 5】

□認定番号 [FP060FL-0102 (床 1 時間耐火)]

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
Q L 9 9 - 7 5 - 1 0 Q L 9 9 - 7 5 - 1 2 Q L 9 9 - 7 5 - 1 6	単純支持 連続支持	3,000mm 以下	80mm 以上	5,400 N/m <sup>2</sup> 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18以上) 頭付きスタッド (φ13以上)

□認定番号 [FP060FL-0099 (床 1 時間耐火)]

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
Q L 9 9 - 7 5 - 1 0 Q L 9 9 - 7 5 - 1 2 Q L 9 9 - 7 5 - 1 6	単純支持 連続支持	3,400mm 以下	80~100mm	3,500 N/m <sup>2</sup> 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド (φ16以上)

□認定番号 [FP120FL-0127 (床 2 時間耐火)]

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
Q L 9 9 - 7 5 - 1 0 Q L 9 9 - 7 5 - 1 2 Q L 9 9 - 7 5 - 1 6	単純支持 連続支持	2,500mm 以下	90mm 以上	6,000 N/m <sup>2</sup> 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18以上) 頭付きスタッド (φ13以上)



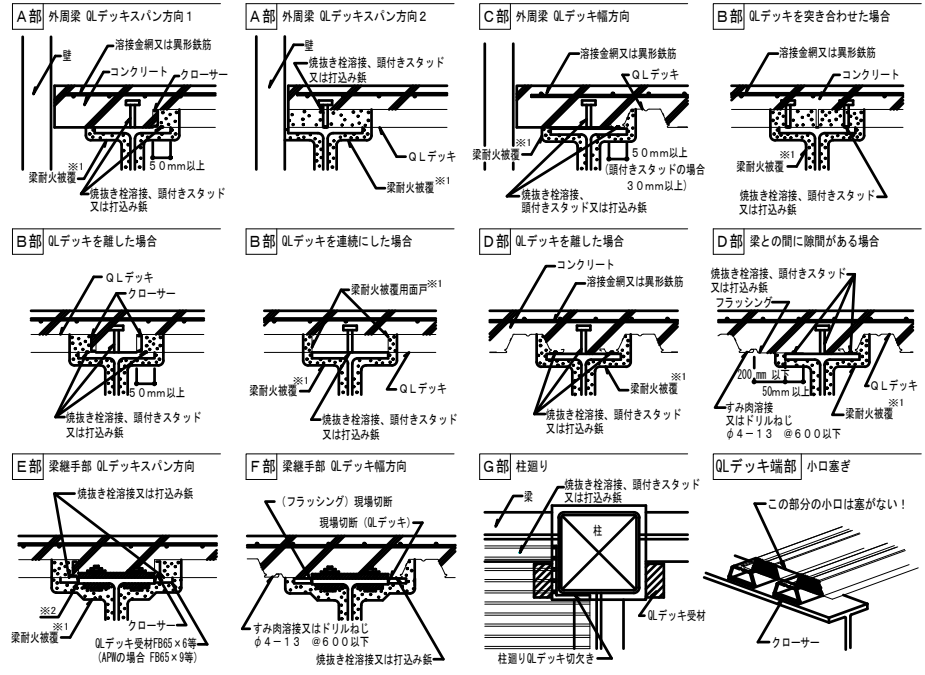
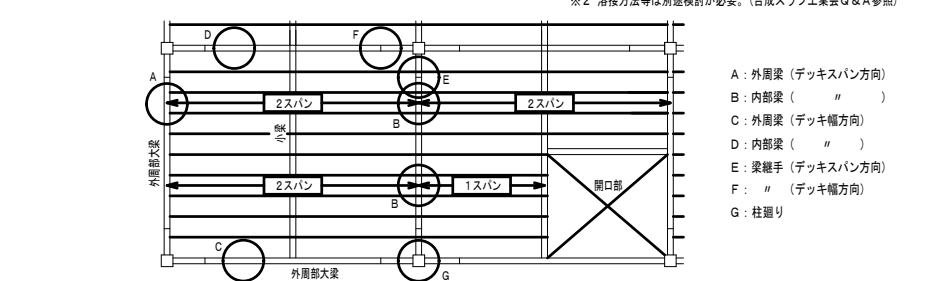
注1) 梁との接合間隔は、焼抜き栓溶接・打込み鉄・頭付きスタッド共に、デッキ溝と直交する場合300mm以下、平行方向は600mm以下とする。  
注2) 梁の耐火被覆 梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。(本認定仕様外)  
注3) 許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上り荷重も含む)から床荷重(デッキプレート+コンクリート+鉄筋)を差し引いた値を示す。

アクセサリ

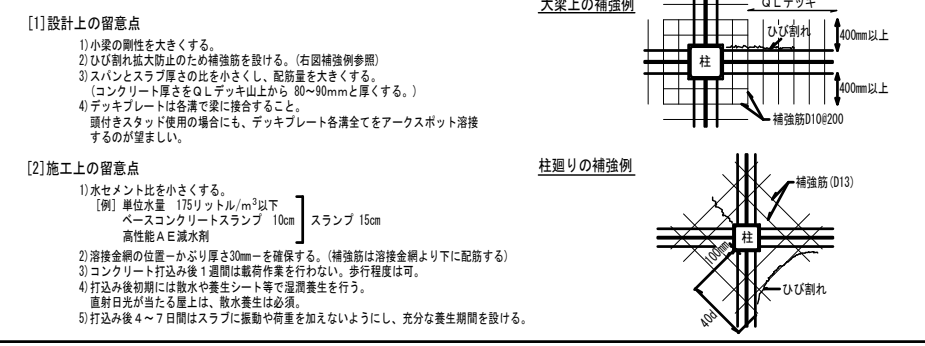
フラッシング	クローサー	ハンガー金具
Q Lデッキ割付の幅調整に用いる。 定尺 2.4m、t=1.2mmまたは1.6mm	Q Lデッキの小口ふさぎ用	天井インサート用金具 (Q Lデッキ下溝を利用して取付)

標 準 納 ま り

支持梁: 鉄骨梁



(参考) ひび割れ拡大防止のための留意事項

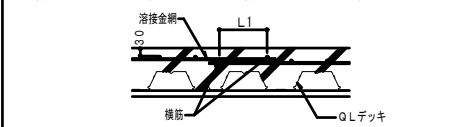


スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが30mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

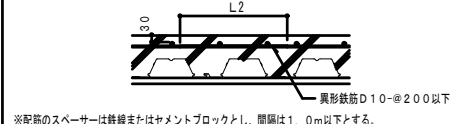
溶接金網の重ね代 L1: 1 メッシュと 50mm 以上、且つ 150mm 以上

(縦径 6-150×150 の場合 200mm 以上、縦径 6-100×100 の場合 150mm 以上)



異形鉄筋の重ね代 L2: JASS S1 による

例) Fc18 S3285 の場合、4.5 D 以上

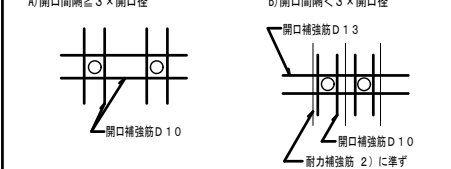


※配筋のスペーサーは鉄線またはセメントブロックとし、間隔は 1.0m 以下とする。

開口部補強案

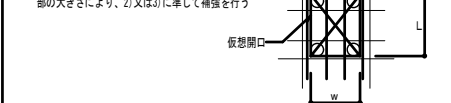
1) 開口がφ150mm程度の場合

A) 開口間隔≧3×開口径 B) 開口間隔<3×開口径



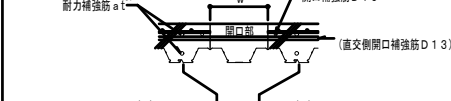
C) 開口が連続している場合

連続する開口の開口部(仮設開口)とみなし、その開口部の大きさにより、2)又は3)に準じて補強を行う



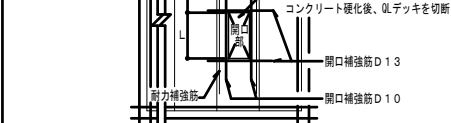
2) w: 600mm 以下 L: 900mm 程度以下

耐力補強筋 a: ※3



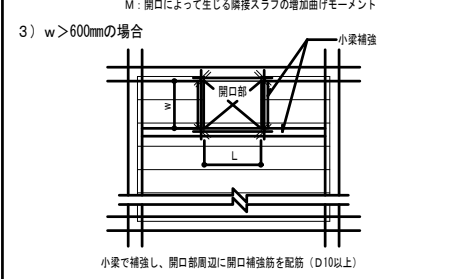
※3 耐力補強筋 所断面積 a =  $\frac{M}{f_t \times l}$

M: 開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント



※開口の補強は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」(1) 合成スラブの設計 4. 合成スラブの開口補強方法を参照する。

3) w > 600mm の場合

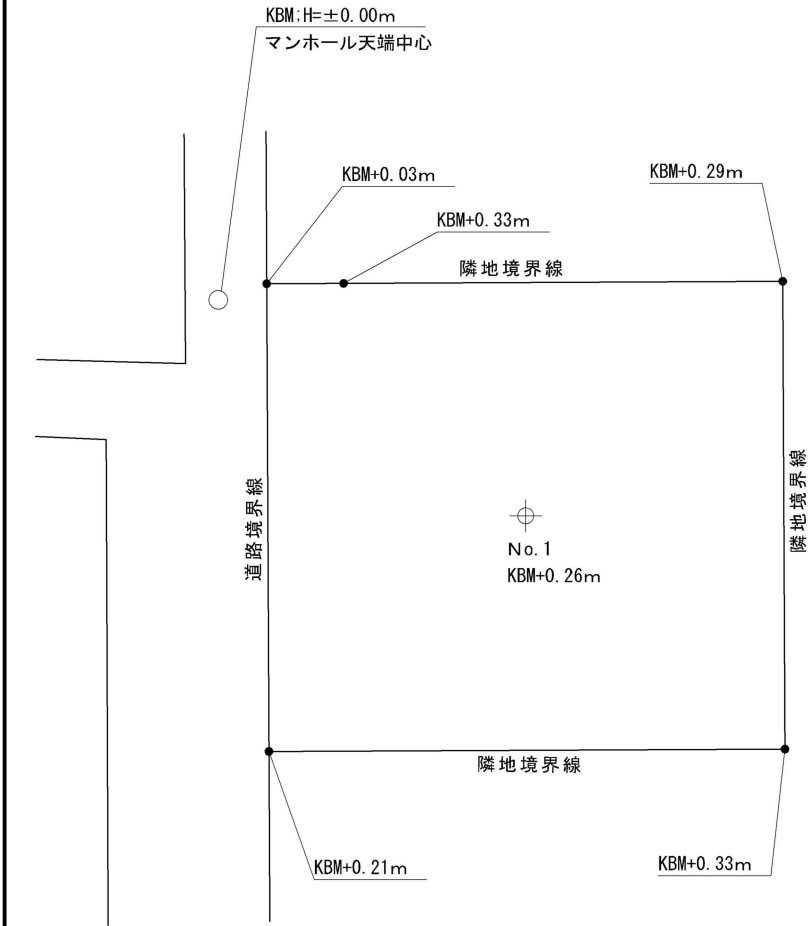






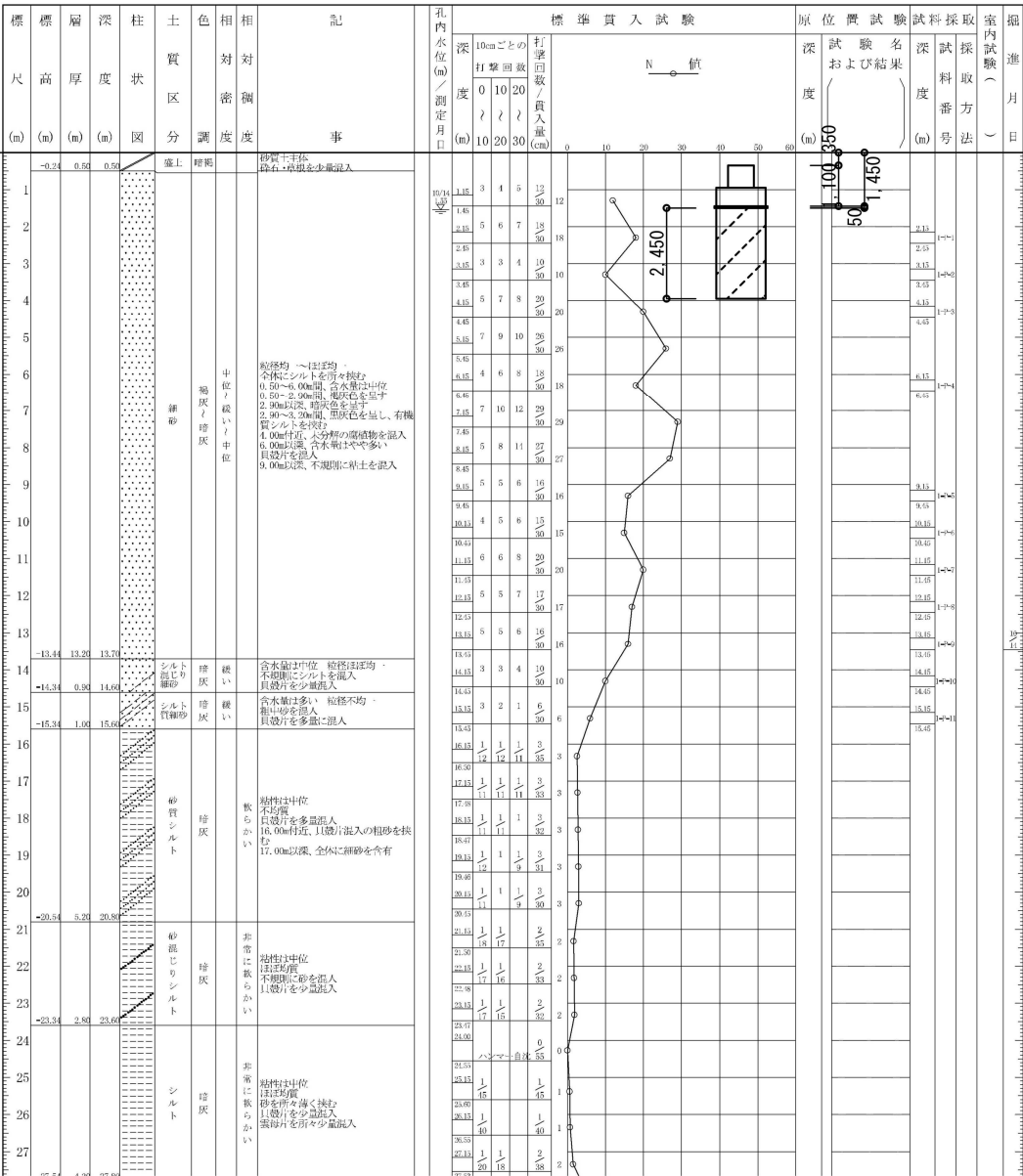
幕張駅北口自転車駐輪場新築実施設計業務委託 地質調査

調査位置図



ボーリング柱状図

調 査 名										幕張駅北口自転車駐輪場新築実施設計業務委託 地質調査										ボーリングNo										0	1	0	1	0	-	0	2	5	1	3	
事業・工事名										S造 2階										シートNo																					
ボーリング名		No. 1				調査位置		千葉県千葉市花見川区幕張町4丁目661番3外3室										北緯		35° 39' 37.26"																					
発注機関		有限会社 中尾建築設計事務所						調査期間		令和 7年 10月 14日 ~ 7年 10月 16日										東経		140° 3' 31.57"																			
調査業者名		株式会社 国際技術コンサルティング 電話 (047-326-5951)				主任技師		千葉 繁				現代人		高木 徹				コア 確定者		ボーリング 責任者		加藤 正太郎																			
孔口標高		KBM +0.26m		角		180° 上 90° 下 0°		方		北 0° 西 270° 東 90° 南 180°		地盤勾配		水平 0° 鉛直 90°		使用機種		試錐機 YBM-05-DA-2				ハンマー 落下用具		半自動落下装置																	
総掘進長		35.33m		度		0°		向		北 0° 西 270° 東 90° 南 180°		地盤勾配		水平 0° 鉛直 90°		エンジン		TF90V-E2				ポンプ		BG-3C																	



# SSコラム工法特記仕様書

## 1. 工法概要

本工法はセメント系固化材を固化材液として現地地盤に注入し、共回り防止翼の左右両端に、円柱状の鋼棒を装着した攪拌装置を用いて混合攪拌することによりソイルセメントコラムを形成する工法である。

## 2. 特記事項

- (1) コラム径φ=1000mm
- (2) 掘削深度GL-4.00m（掘削長が変更となる場合には施工管理者と協議しトルク計にて確認を行う。）
- (3) 設計基準強度Fc=1000kN/m<sup>2</sup>
- (4) 本工事は、一般財団法人 日本建築総合試験所で証明された建築技術性能証明（GBRC性能証明第12-07号改2）取得工法とする。

## 3. 室内配合試験

- (1) 固化材セメント系固化材又は、セメントを使用する。
- (2) 室内配合強度の設定と配合量本施工にあたり、原則として事前に現地土を採取し、室内配合試験を実施しなければならない。  
また、配合量は所定の配合強度が得られる配合量を想定し、その配合を中心として貧配合のもの1種類、富配合のもの1種類の合計3種類程度設定する。

室内配合強度  $XI=Xf / \alpha fI$   
 $XI$  : 室内配合強度 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $Xf$  : 配合強度 (kN/m<sup>2</sup>)  
(  $Xf = \alpha t \times Fc$  )  
 $\alpha t$  : 割増し係数 (右表より)  
 $Fc$  : 設計基準強度 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $\alpha fI$  : 現場/室内強度比

変動係数	採取ヶ所数 (N)	1	2	3	4～6	7～8	9以上
25%	割増係数 ( $\alpha t$ )	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

※ 変動係数を想定し、7項に規定する抜き取りヶ所数N、合格確率80%とした上表を用いて設定する。

- (3) 小規模建築物における室内配合試験 本工法を小規模建築物に適用する場合に限り、「SSコラム工法施工管理マニュアル」II-12Pの条件に基づき室内配合試験を省略することができる。

## 4. 施工計画書

本工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書には次の事項を明記する。

- (1) 工事概要      (2) 工事場所      (3) 工法概要      (4) 施工概要      (5) 使用固化材
- (6) 作業計画      (7) 施工管理      (8) 配合計画      (9) 品質管理      (10) 安全衛生管理

## 5. 施工

- (1) 固化材液の充填方法は、掘削時充填方法とする。
- (2) 掘削速度1.0m/分、引き上げ速度1.0m/分以下とする。
- (3) 施工手順は以下の通りとする。

①コラムの中心位置を出し、その位置に攪拌ロッドの中心がくるように機械をセットする。

②セットが完了したら攪拌ロッドを回転し、規定の速度で掘削を開始する。

③所定の位置まで来たら固化材液を攪拌ロッド先端より注入しながら掘削攪拌を行う。

④掘削が完了したら固化材液の注入をやめ、攪拌ロッドを掘削時と正逆回転し50cm以上繰り返しを行う。

⑤逆回転で再攪拌しながら引き上げる。

## 6. 施工管理

- (1) コラムの鉛直度 改良機本体の傾斜計で管理する。
- (2) 固化材液の作製 水の計量：計量計又は水道計で計測する。固化材の計量：袋数又は重量計で計測する。
- (3) 固化材吐出力 流量計で計測し記録する。
- (4) 掘削深度 深度計で計測し記録する。
- (5) 掘削速度 速度計で計測し記録する。
- (6) 支持層強度 トルク計で測定し記録する。

## 7. 現場強度管理試験

- (1) 調査ヶ所数 施工後のコラムより下表の採取ヶ所数に準じて強度管理試験用のコア採取を行うことし、採取したコアの材齢28日における圧縮強度試験結果が下式をクリアしなければならない。  
また、合否の判定は、N箇所（採取個数）の一軸圧縮強さの平均値XNと合格判定値XLの大小関係を比較する事で行う。

供試体の採取方法		
改 良 長	採 取 位 置	
	頭 部 コ ア	深 度 コ ア
	採取方法：モールドコア	採取方法：ボーリングコア ：モールドコア
2m以下の場合	50コラムにつき1ヶ所以上	1検査対象群につき1ヶ所以上
2m以上の場合	100コラムにつき1本以上	

※頭部コア試験は1ヶ所（1本のコラム）あたり3個のコア採取を基本とする。

※深度コア試験については1ヶ所（1本）以上のボーリングコアを実施することとし、その他はモールドコア試験により代用できるものとする。

- (2) 合格判定  $XN \geq XL = Fc + ka \cdot \sigma d$

$XN$  : N箇所の一軸圧縮強さの平均値 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $XL$  : 合格判定値 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $Fc$  : 設計基準強度 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $ka$  : 合格判定係数（下表による）  
 $N$  : 検査対象層の採取箇所数  
 $\sigma d$  : 設計で想定したコア強度の標準偏差  
 $\sigma d = \sqrt{d} \cdot qud$  (KN/m<sup>2</sup>)  
 $qud$  : 想定した一軸圧縮強さ (KN/m<sup>2</sup>)  
 $\sqrt{d}$  : 変動係数

採取箇所数 (N)	1	2	3	4～6	7～8	9以上
合格判定係数 (ka)	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

※ 品質に支障があった場合の処理 品質に支障があった場合は、監理者と協議し適切な判断を下す。

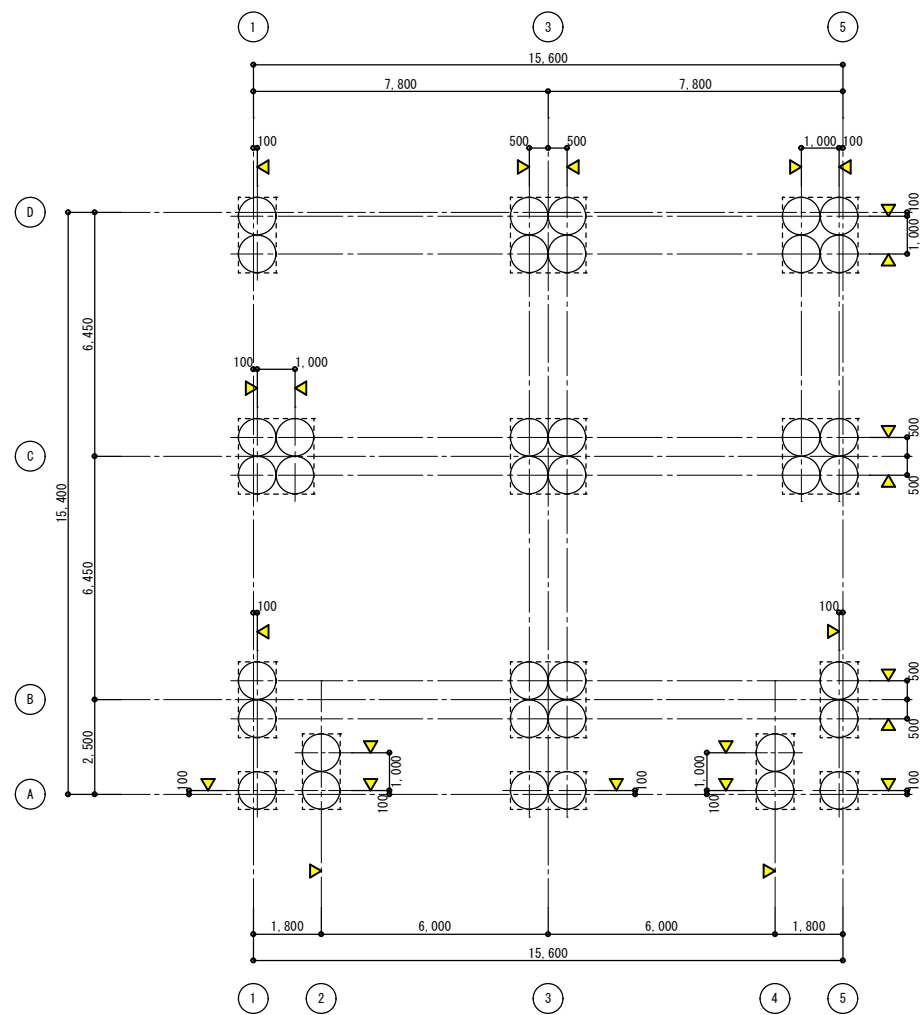
- (3) 小規模建築物における現場強度管理試験 本工法を小規模建築物に適用場合には、「SSコラム工法施工管理マニュアル」II-28Pの品質検査方法により、品質検査を行ってよいものとする。

## 8. 施工報告書

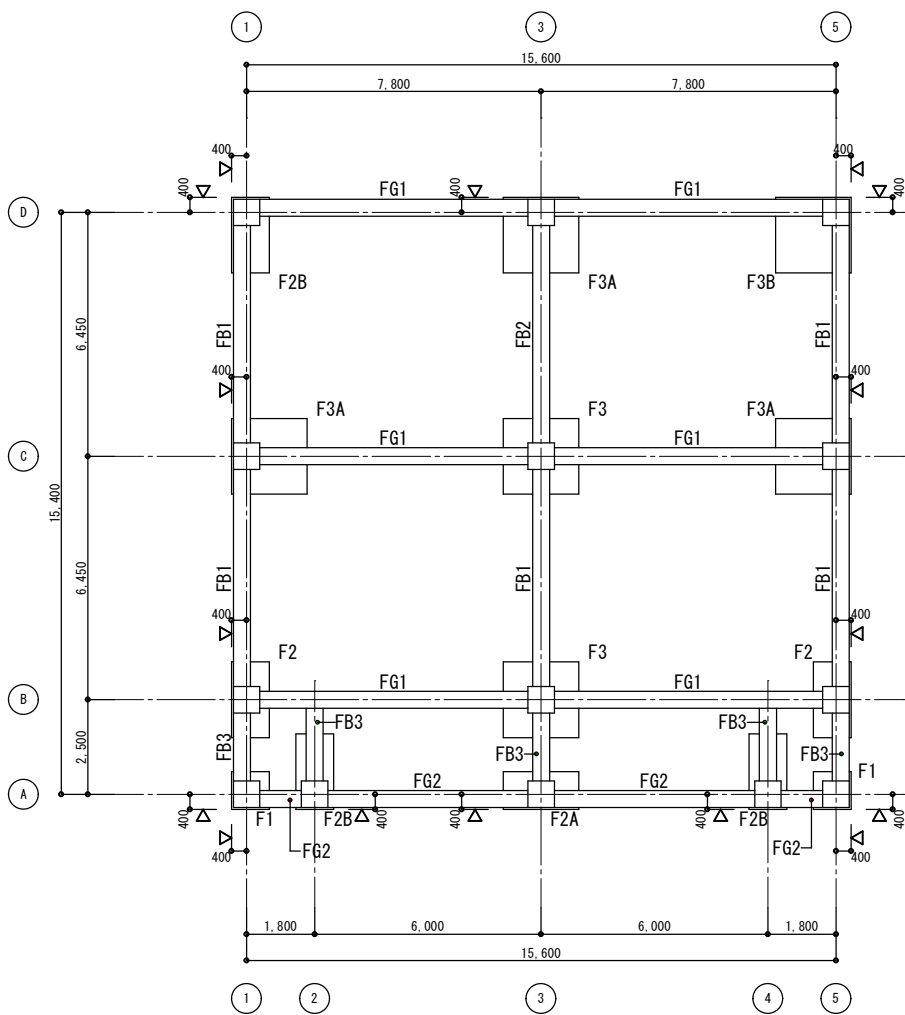
- (1) コラム配置図及び番号      (2) 施工年月日      (3) コラム径      (4) 掘削長      (5) 掘削深度
- (6) 固化材の使用量      (7) 品質管理試験結果

## 9. 六価クロム溶出試験

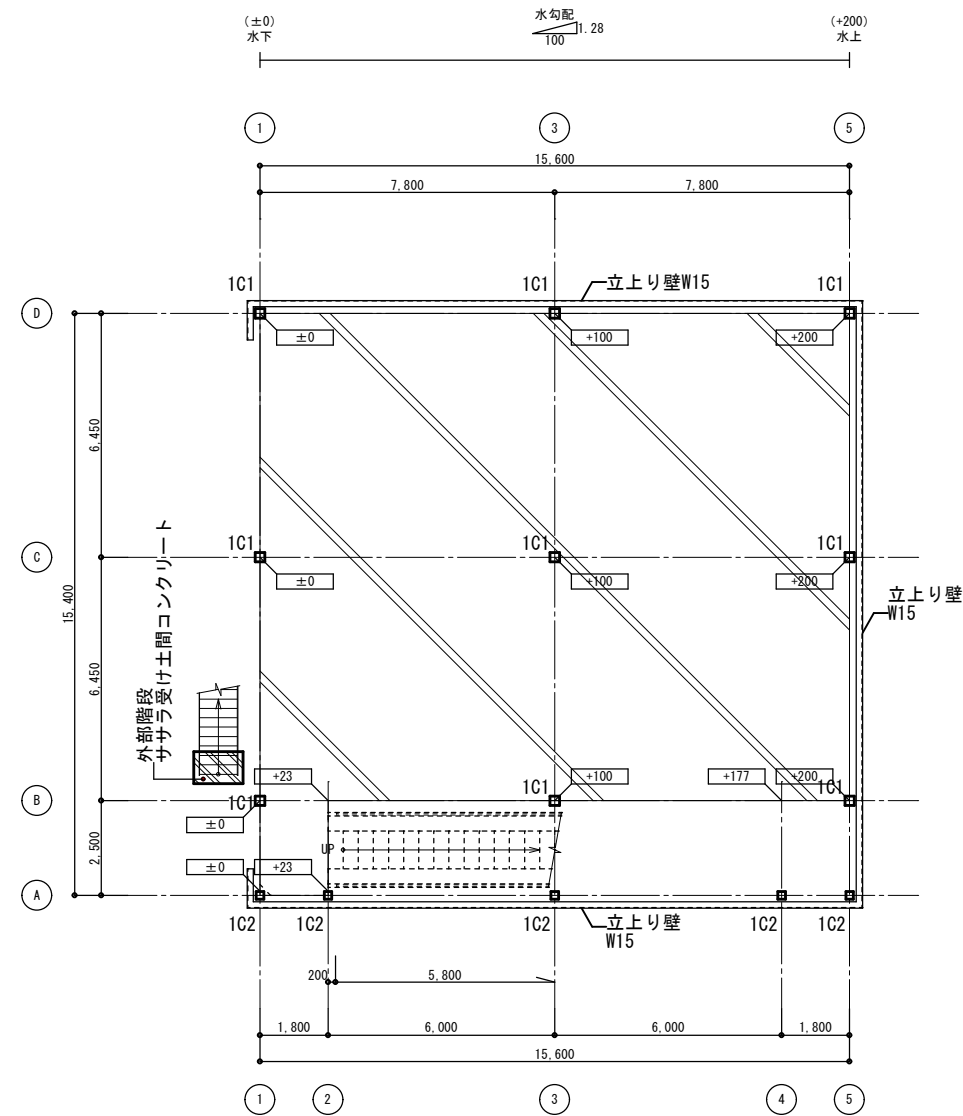
本工事は、施工前において六価クロム溶出試験を行い、その結果が満足することを確認する。



地盤改良杭伏図 S=1/200 (A3)



基礎伏図 S=1/200 (A3)

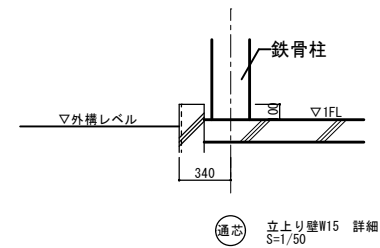


1階伏図 S=1/200 (A3)

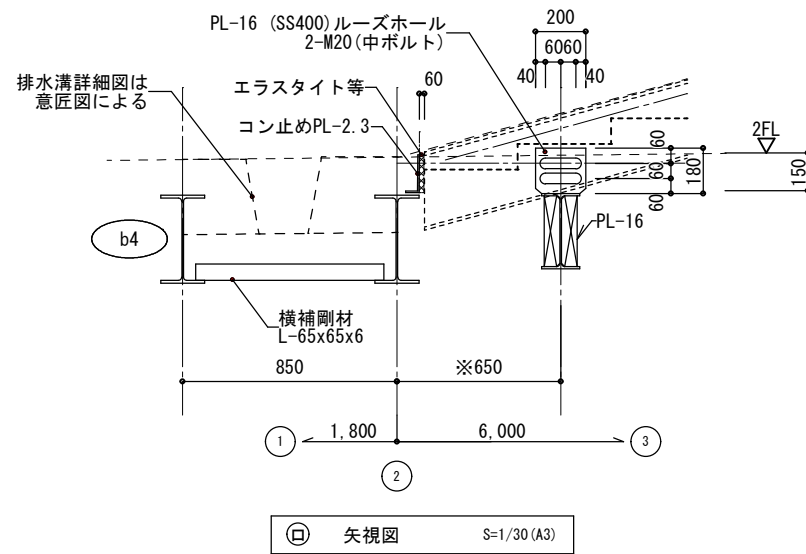
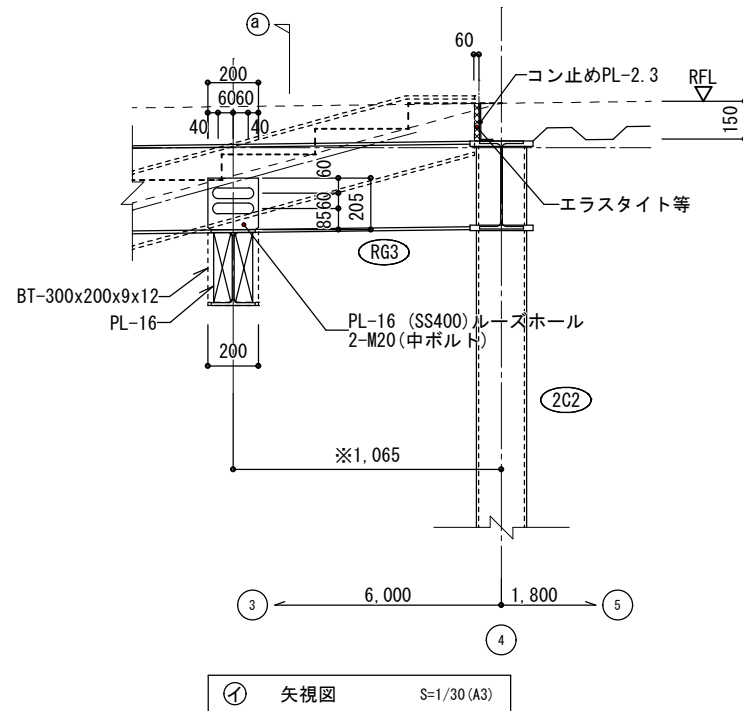
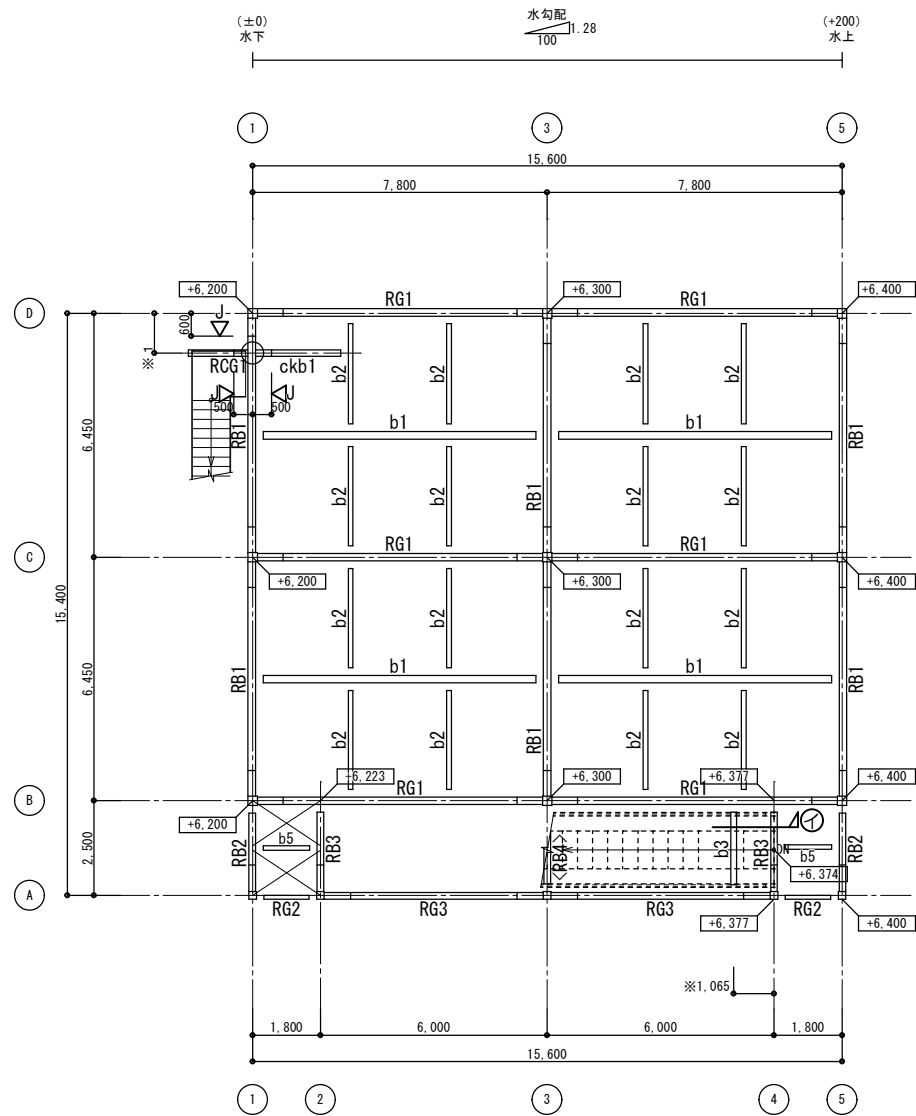
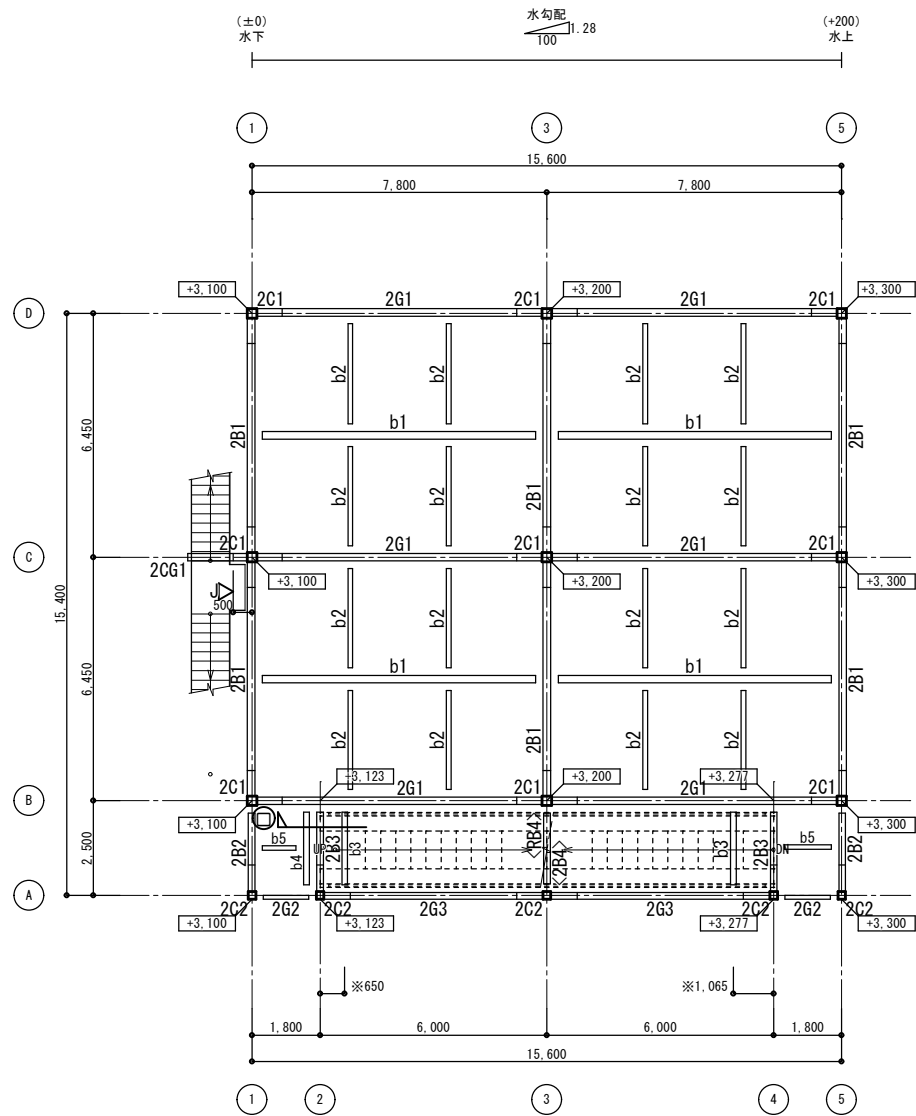


地盤改良杭・基礎・1階伏図  
A1:1/100  
A3:1/200

- 特記なき限り
- 設計GL=1FL±0=KBM +260
  - 基礎柱天端=設計GL-350とし、基礎柱天端=基礎梁天端とする。
  - 基礎フーチング下端=設計GL-1,450とする。
  - 地盤改良は、SSコラム工法とし、改良長は基礎下端より2.50mとする。
- 印は改良杭を示す
  - ▽ 印は改良杭芯を示す
  - ▽ 印は通芯からの基礎フーチング面を示す
  - 印は土間コンクリートを示す
  - 立上り壁W15は、縦筋：D13@200、横筋：D10@200。

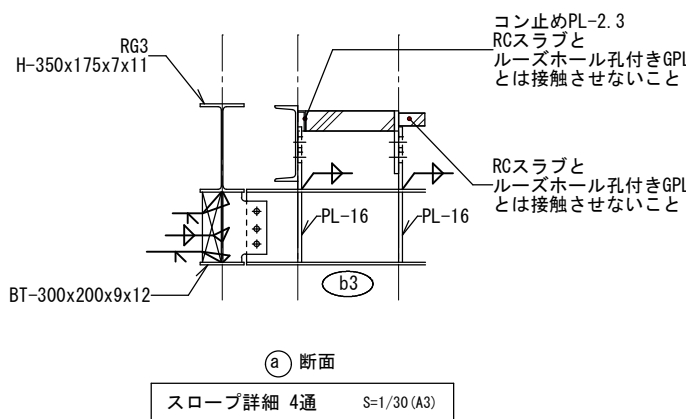
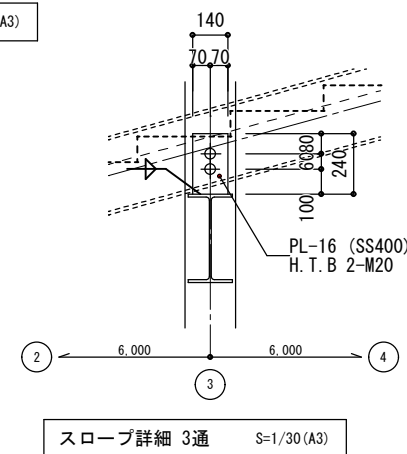


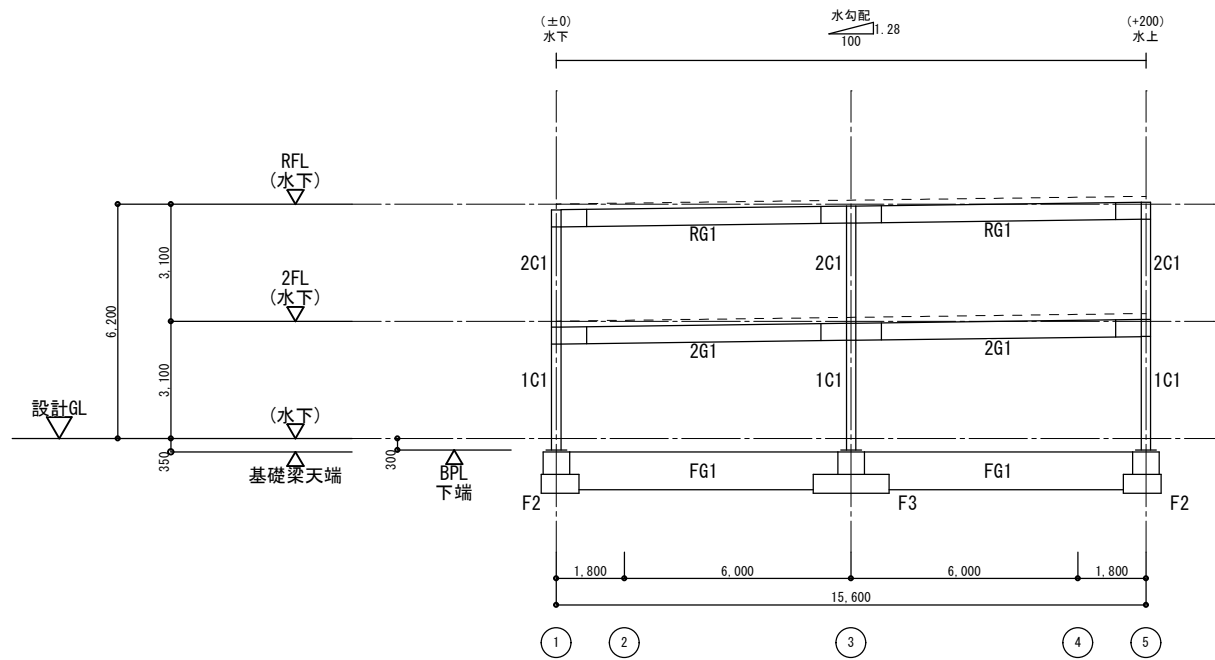




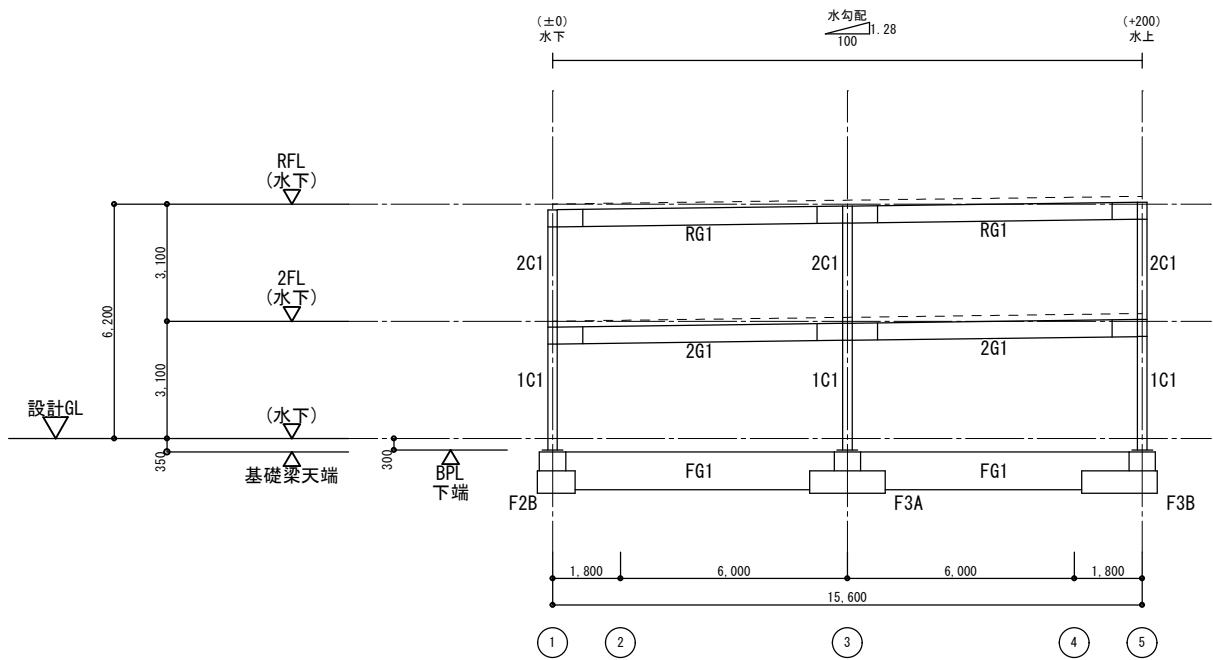
2・R階伏図 A1:1/100 A3:1/200

特記なき限り		
・ 鉄骨天端 FL-150mm	・ スロープ受け小梁b3位置 (※寸法) は参考値とし、施工図により決めること	
・ スラブ DS1としデッキ溝方向はX方向とする	・ 外部階段受梁(RCG1)位置 (※1) は参考値とし、施工図により決めること	
・ 通芯=柱芯とする	・ ○印は剛接合を示す	
・ 鉄骨継手 柱芯より800mmとする	・	
・ J 印は鉄骨継手を示す	・	

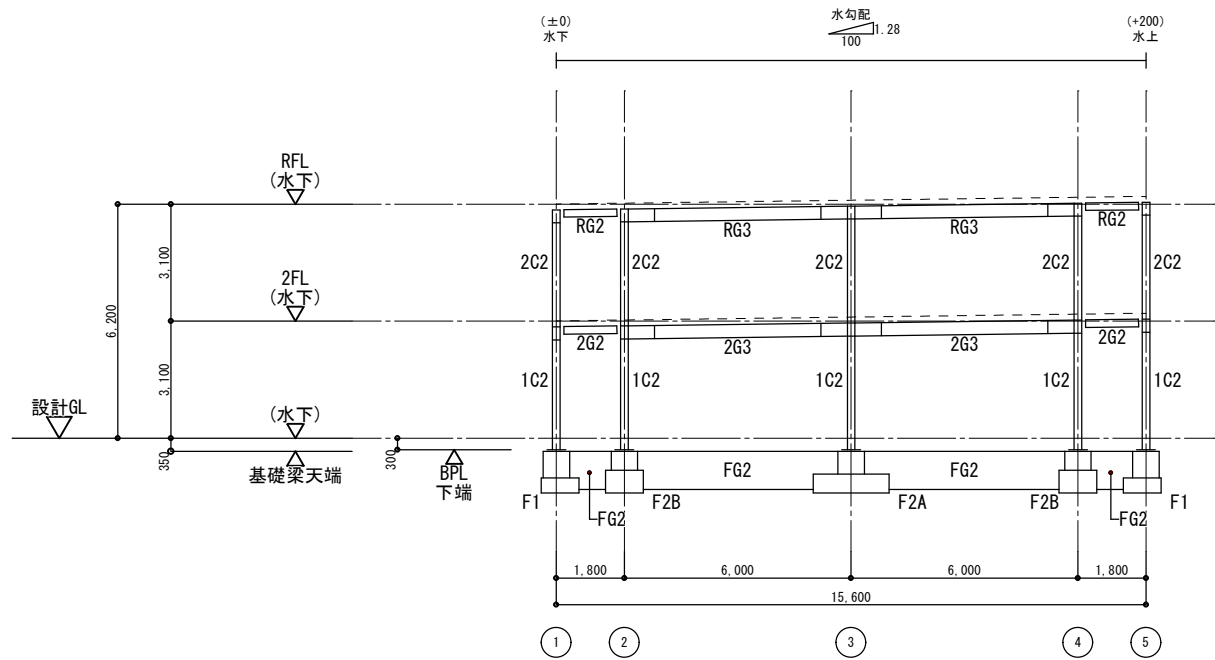




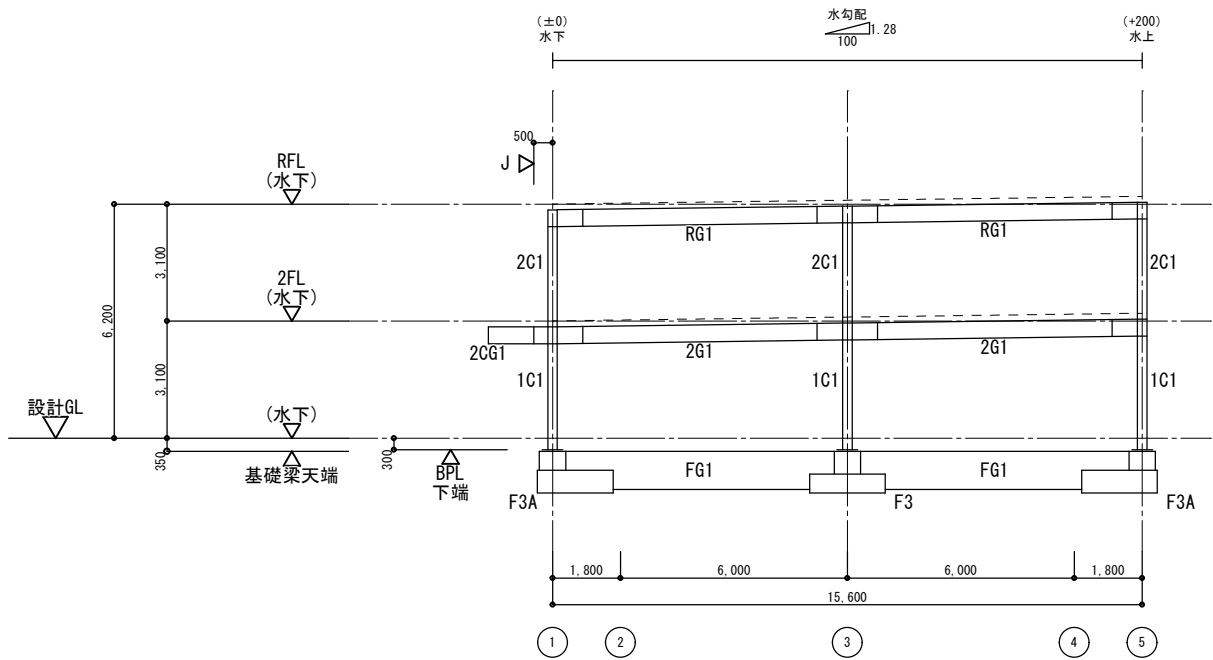
B通 S=1/200 (A3)



D通 S=1/200 (A3)



A通 S=1/200 (A3)

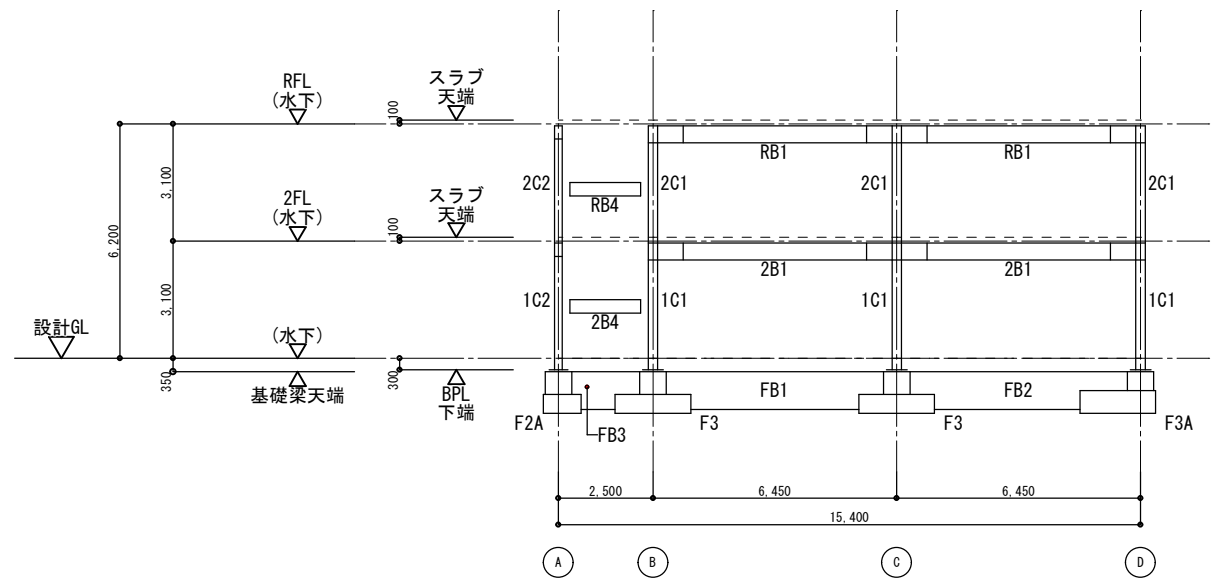
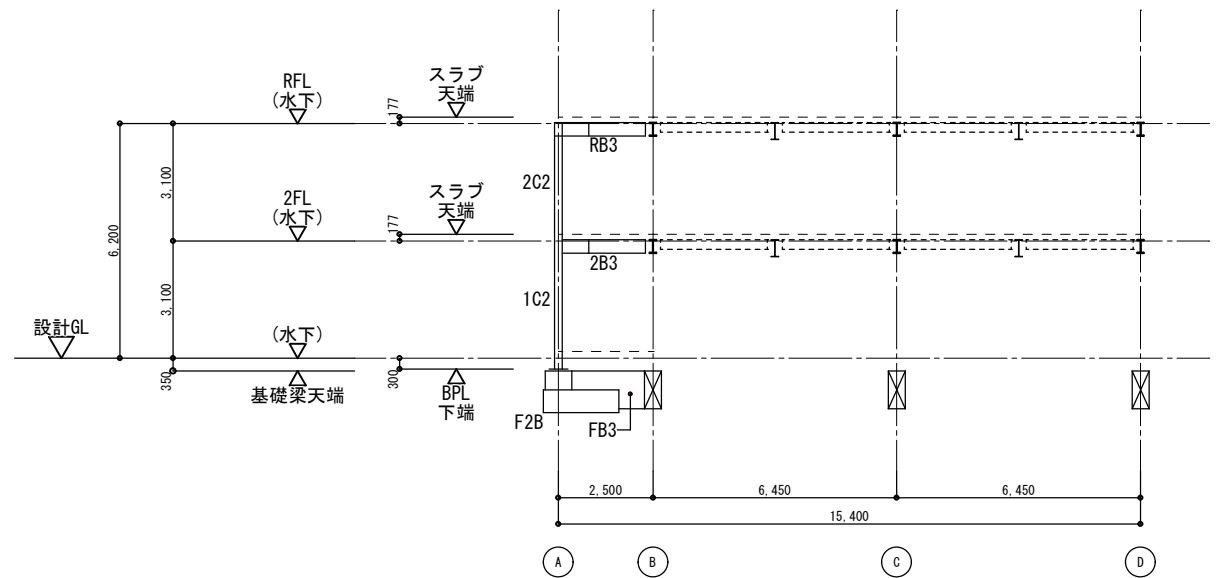
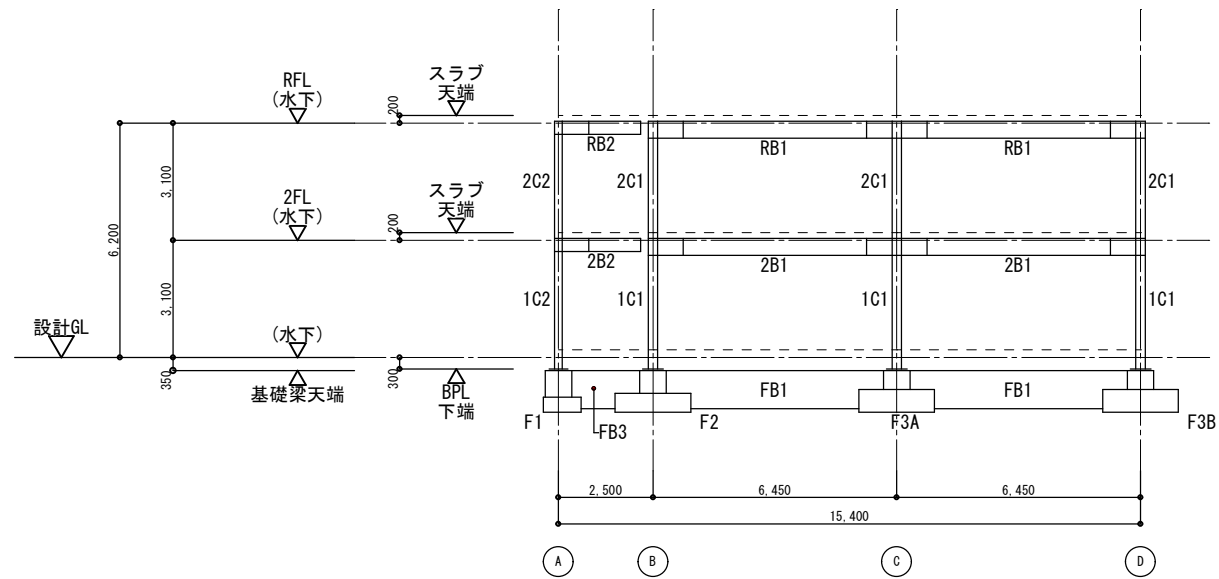
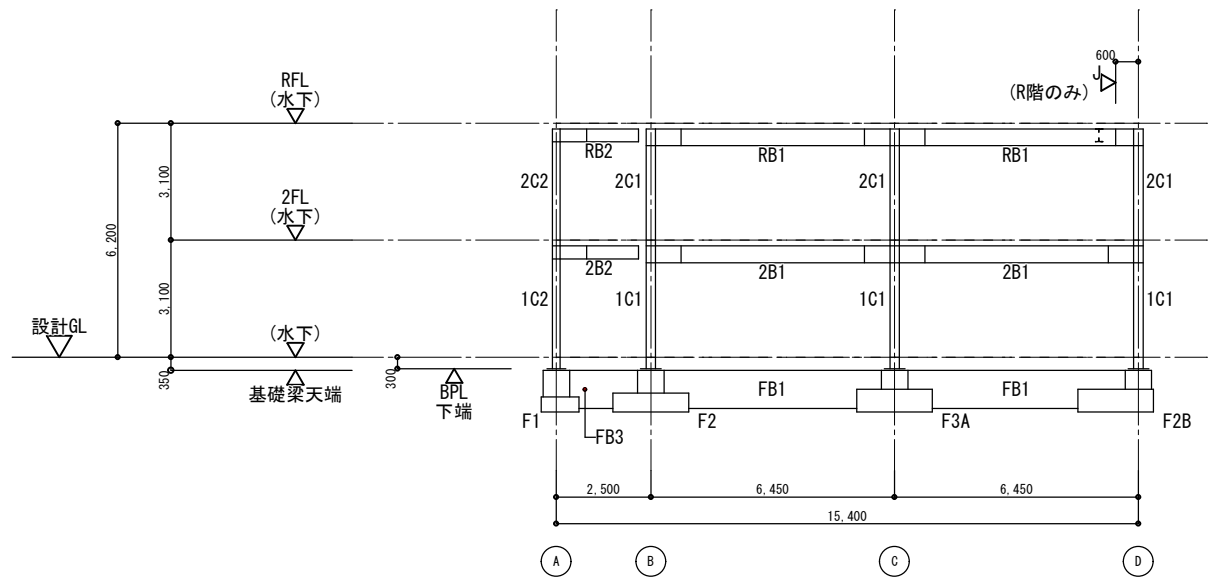
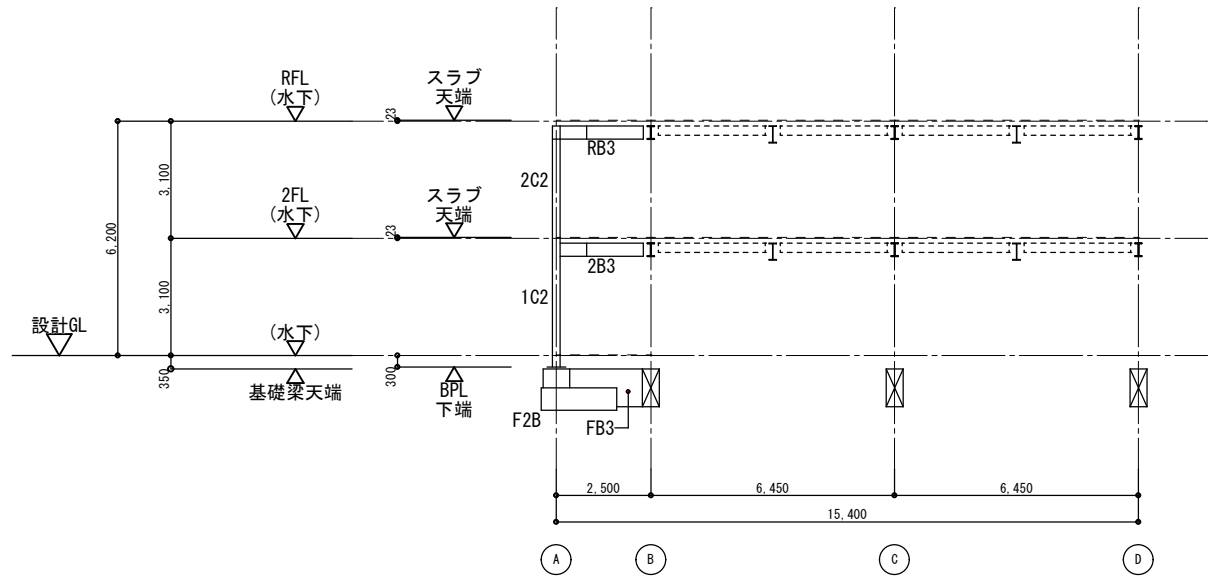


C通 S=1/200 (A3)



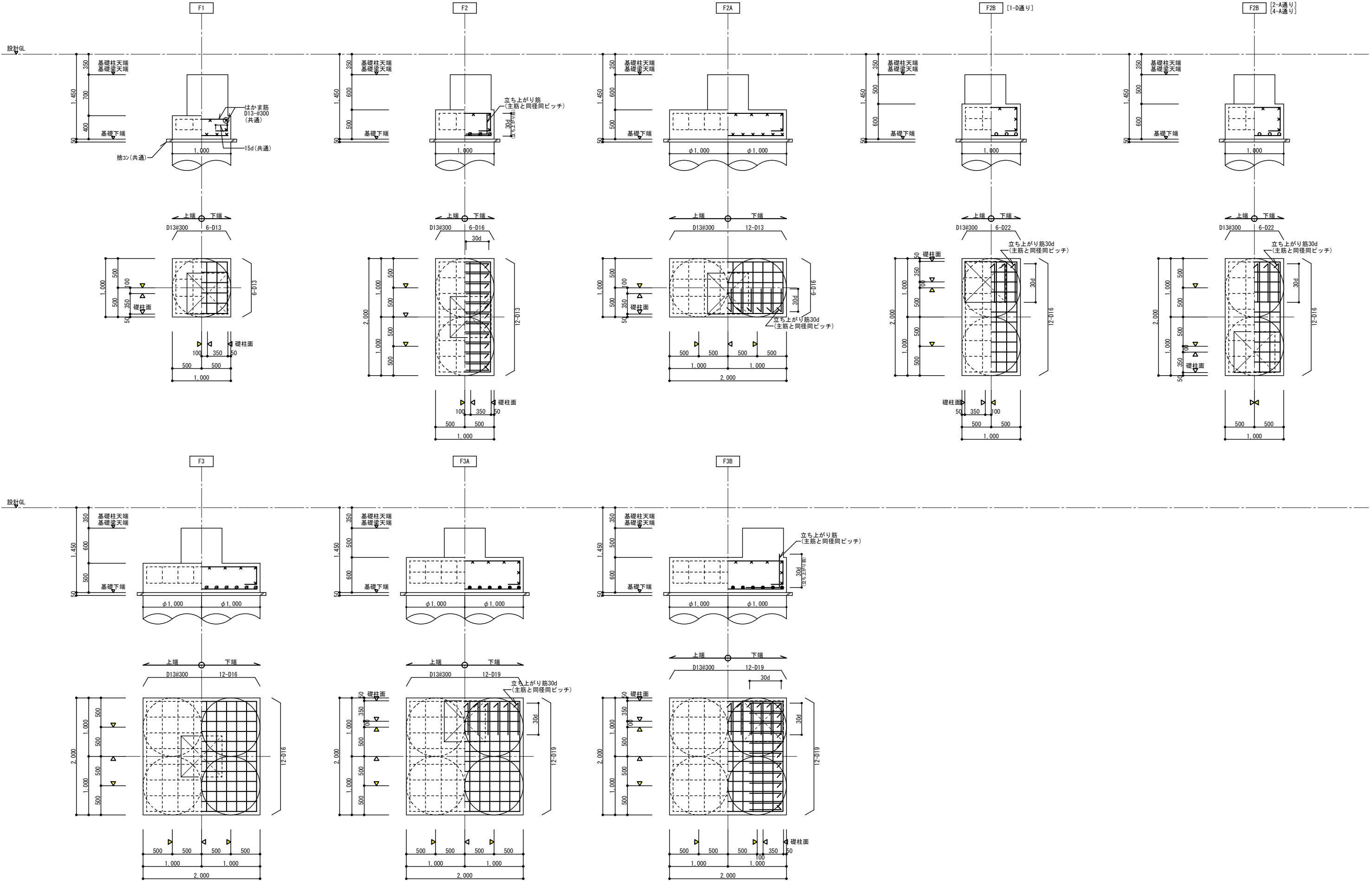
軸組図 (1) A1:1/100 A3:1/200

- 特記なき限り
- 鉄骨天端 = FL-150 とする
  - 通芯=柱芯とする
  - 鉄骨継手 柱芯より800mmとする
  - J 印は鉄骨継手を示す

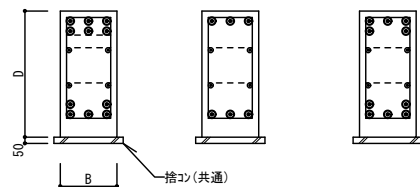
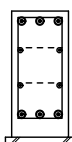
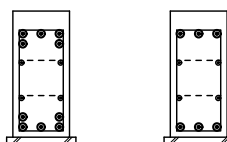
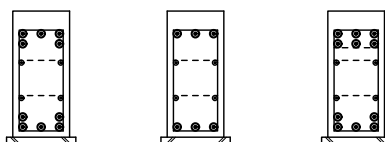
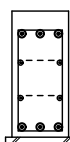
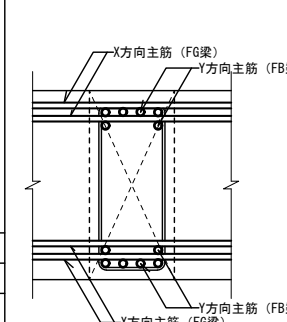


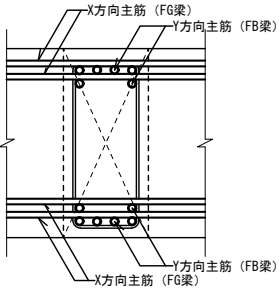
軸組図 (2) A1:1/100 A3:1/200

- 特記なき限り
- 鉄骨天端 = FL-150 とする
  - 通芯=柱芯とする
  - 鉄骨継手 柱芯より800mmとする
  - J 印は鉄骨継手を示す




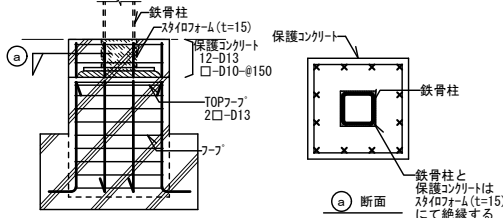
基礎梁リスト	A3:1/60	特記なき限り 1. コンクリート強度 Fc21 2. 鉄筋材質 SD295A (D10～D16) ,SD345 (D19～D25) 3. 巾止め筋 D10-@1,000
--------	---------	--

符 号	FG1			FG2		FB1		FB2			FB3		基礎梁主筋位置図
位 置	1 端・5 端	中 央	3 端	全 断 面		端 部	中 央	C 端	中 央	D 端	全 断 面		
断 面													
BxD	450x1,000			450x1,000		450x1,000		450x1,000			450x1,000		
上端筋	6-D25	3-D25	5-D25	3-D25		5-D25	3-D25	5-D25	3-D25	6-D25	3-D25		
下端筋	5-D25	3-D25	5-D25	3-D25		5-D25	3-D25	5-D25	3-D25	5-D25	3-D25		
スターラップ	□-D13-@200			□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@200			□-D13-@200		
腹 筋	4-D10			4-D10		4-D10		4-D10			4-D10		
備 考	カットオフ長さ2,800mm					カットオフ長さ2,200mm		カットオフ長さ2,500mm					



礎柱リスト	A3:1/60
-------	---------

特記なき限り  
1. コンクリート強度 Fc21  
2. 鉄筋材質 SD295A (D10～D16) ,SD345 (D19～D25)  
3. 巾止め筋 D10-@1,000

符 号	全て	保護コンクリート要領
礎柱形状		
	B x D	
	主 筋	
	フープ	
	備 考	
	700 x 700	
	12-D22	
	□-D13-@100	


床板リスト	
-------	--

特記なき限り  
1. コンクリート強度 Fc21 2. 鉄筋材質 SD295A (D10～D13)

符 号	版 厚	短辺方向	長辺方向
土間コンクリート	150	D10-@200	D10-@200

立上り壁リスト	A3:1/60
---------	---------

特記なき限り  
1. コンクリート強度 Fc21  
2. 鉄筋材質 SD295A (D10～D16)

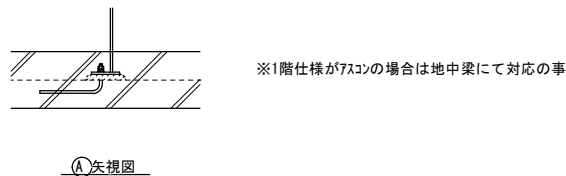
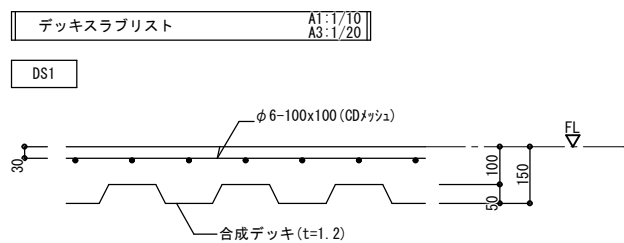
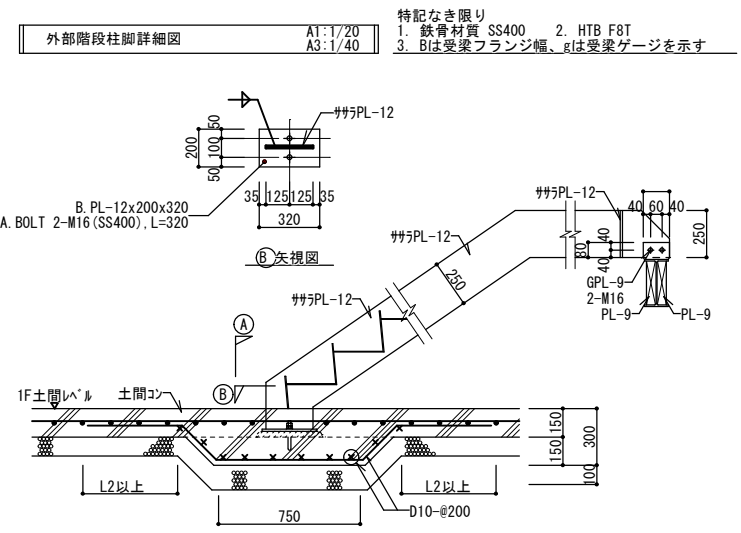
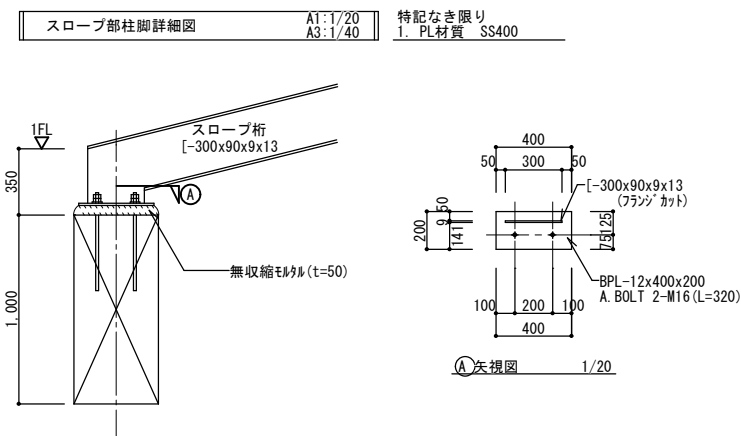
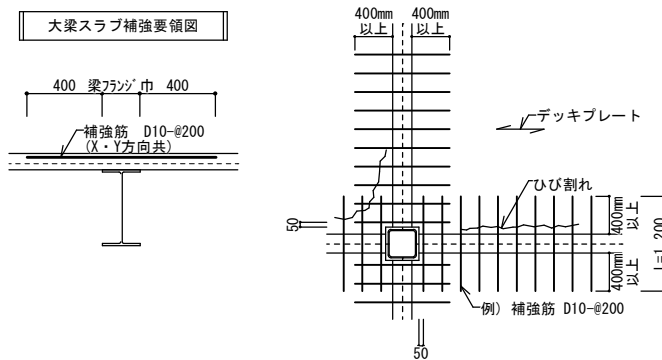
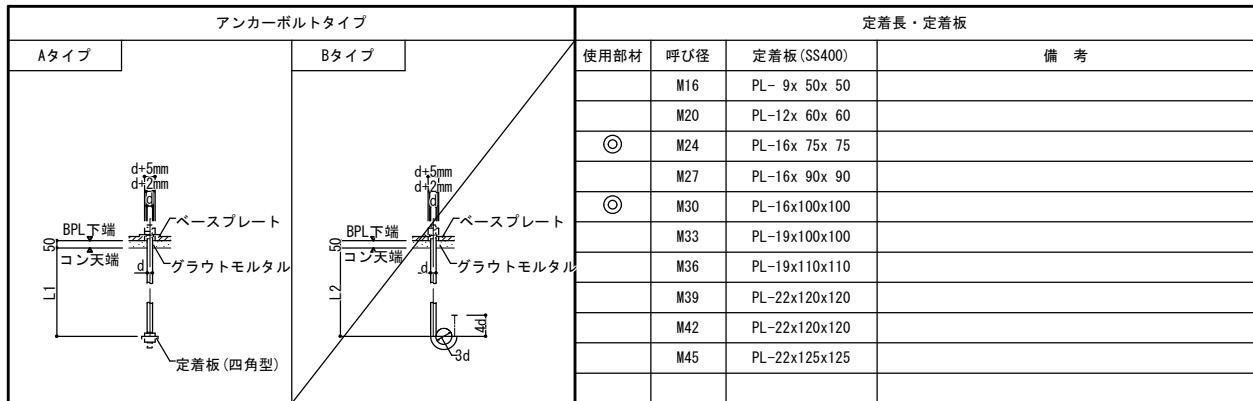
符 号	W15
断 面	
壁 厚	150
縦 筋	D13-@200
横 筋	D10-@200
備 考	

柱、柱脚リスト		A1:1/20 A3:1/40		特記なき限り 1. BCR295はTSC295に代替可能 2. 通シガワツはSN490Cとする	
符 号		C1		C2	
階	柱サイズ	材 質	柱サイズ	材 質	
2 階	□-250x250x 9	BCR295	□-200x200x 9	BCR295	
1 階	□-250x250x12	BCR295	□-200x200x12	BCR295	
柱脚形状					
BPL		BPL-32x550x550		SN490B	BPL-28x550x550
A. BOLT	Aタイプ	8-M30	L1=600	ABR490	Aタイプ
リブPL	—		—	—	—
備 考					

鉄骨部材リスト 特記なき限り 1. H, T, B F8T

符 号	部 材		材 質	接合部				継手No.	頭付スタッド	備 考
				位 置	接合No.	位 置	接合No.			
G1, B1	R 階	H-450x200x 9x14	SN400B	—	—	—	—	G450	—	デッキとの接合は焼抜栓溶接
	2 階	H-450x200x 9x14	SN400B	—	—	—	—	G450	—	デッキとの接合は焼抜栓溶接
G2	R 階	H-200x100x5. 5x 8	SN400B	両 端	P200	—	—	—	—	デッキとの接合は焼抜栓溶接
	2 階	H-200x100x5. 5x 8	SN400B	両 端	P200	—	—	—	—	デッキとの接合は焼抜栓溶接
G3	R 階	H-350x175x 7x11	SN400B	—	—	—	—	G350	—	
	2 階	H-350x175x 7x11	SN400B	—	—	—	—	G350	—	
B2 , B3	R 階	H-350x175x 7x11	SN400B	Y2端	P350	—	—	G350	—	デッキとの接合は焼抜栓溶接
	2 階	H-350x175x 7x11	SN400B	Y2端	P350	—	—	G350	—	デッキとの接合は焼抜栓溶接
B4	R 階	H-350x175x 7x11	SN400B	両 端	P350	—	—	—	—	斜面受け梁
	2 階	H-350x175x 7x11	SN400B	両 端	P350	—	—	—	—	斜面受け梁
b1		H-446x199x 8x12	SS400	両 端	P446A	—	—	—	1-φ19@300	
b2		H-248x124x 5x 8	SS400	大梁端	P248A	小梁端	P248	—	1-φ19@300	
b3		H-300x150x6. 5x 9	SS400	両 端	P300	—	—	—	—	スローブ桁受梁
b4		H-350x175x 7x11	SS400	両 端	P350					
b5		H-248x124x 5x 8	SS400	両 端	P248A					
CG1	R 階	H-248x124x 5x 8	SN400B	—	—	—	—	G248A	—	外部階段受梁
	2 階	H-450x200x 9x14	SN400B	—	—	—	—	G450	—	外部階段受梁
ckb1		H-248x124x 5x 8	SS400	—	—	小梁端	P248	G248A	—	外部階段受梁RCG 1 受梁
階段ササラ桁		PL-12x250	SS400	—	—	—	—	—	—	接続部はS-11参照
スローブ桁		[ -300x90x 9x13	SS400	—	—	—	—	—	—	接続部はS-11参照

アンカーボルト仕様

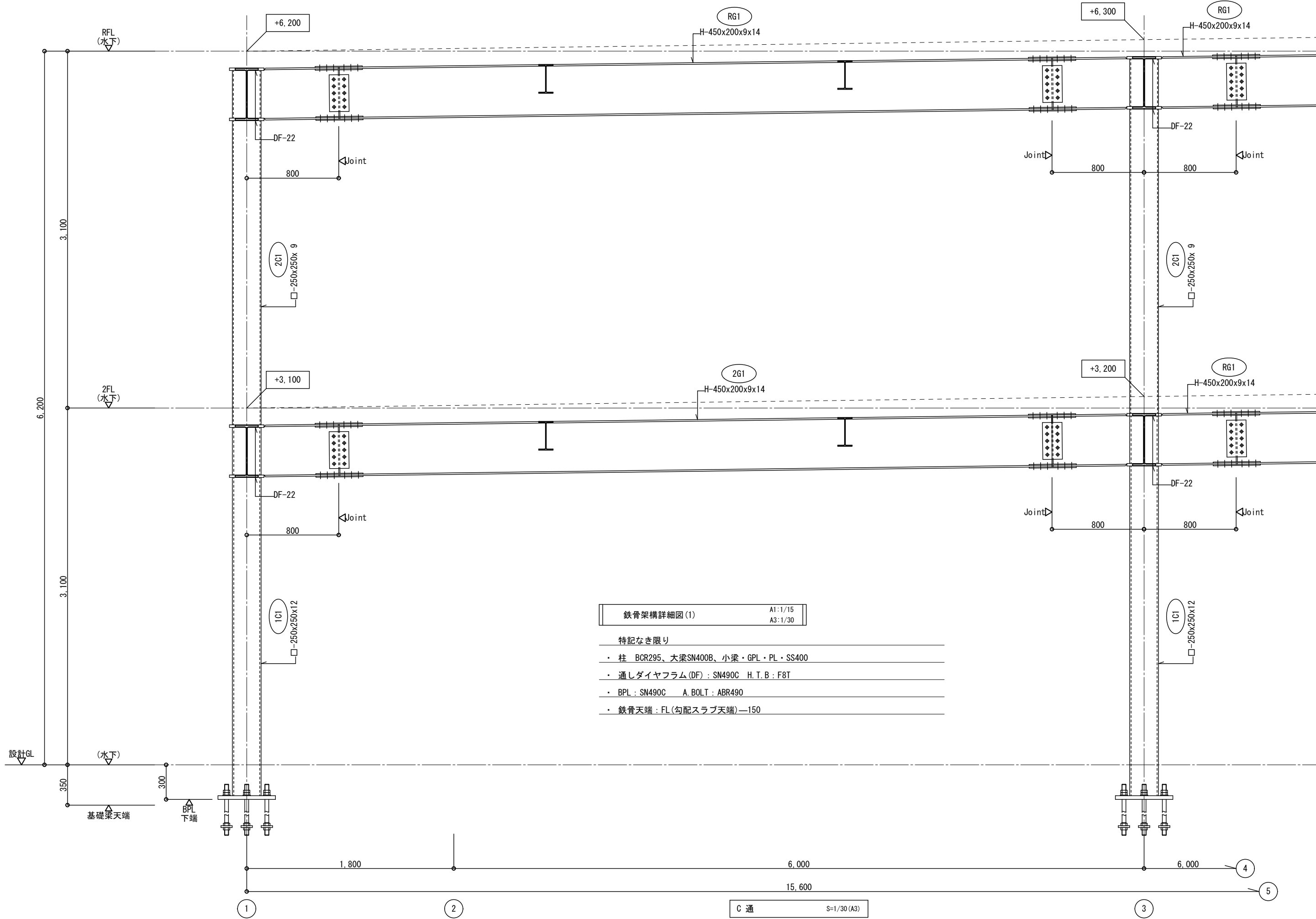


鉄骨継手リスト	特記なき限り 1. PL材質は母材と同材質とする 2. HTB F8T
---------	---

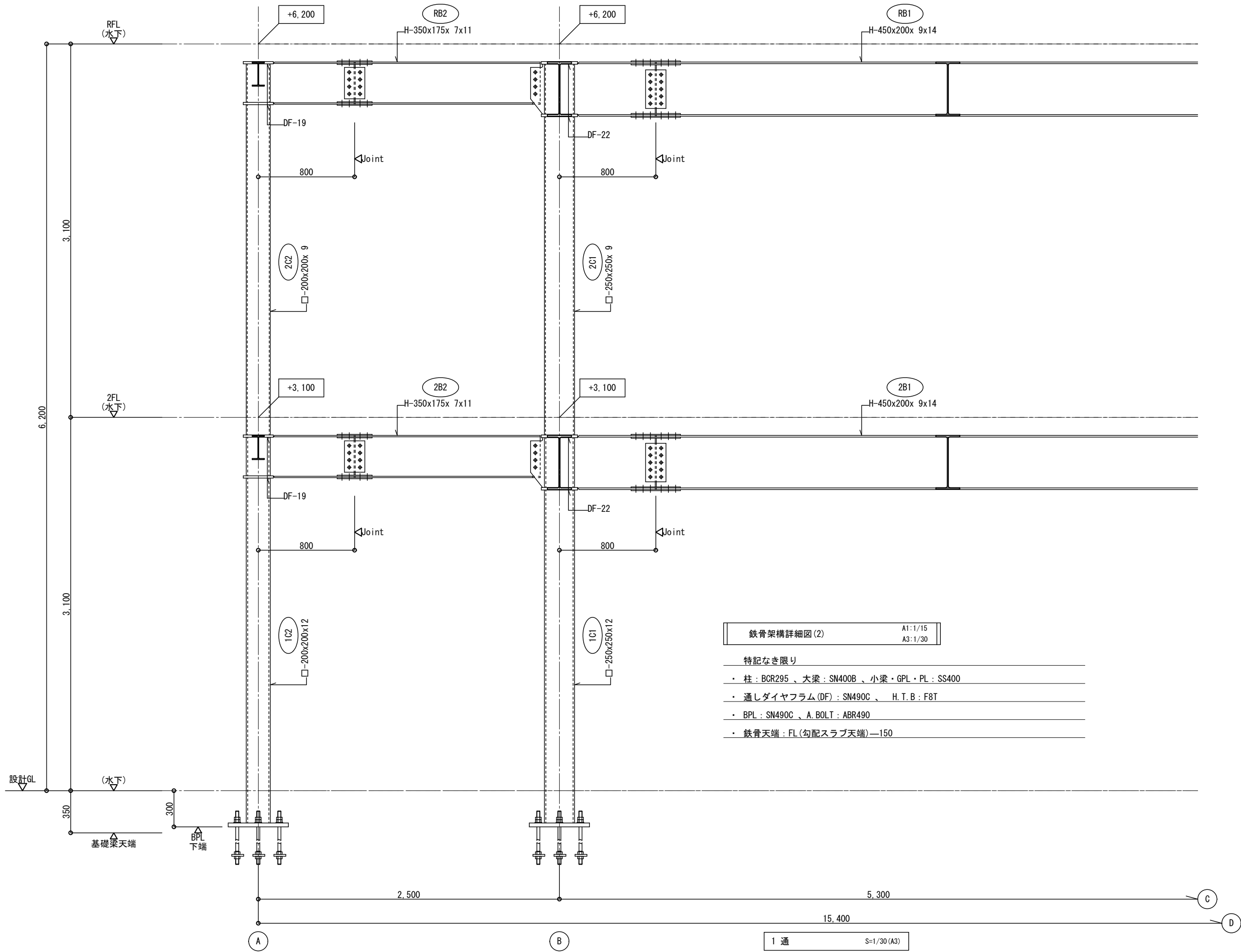
継手No.	G248				G350				G450				G248A			
部 材	端 部	H-248x124x 5x 8		SS400	全断面	H-350x175x 7x11		SN490B	端 部	H-450x200x 9x14		SN490B	端 部	H-248x124x 5x 8		SS400
形 状																
フランジ	HTB	4-M20	SPL	外 SPL-9 内 SPL- —	HTB	4-M20	SPL	外 SPL- 9 内 SPL- 9x 70	HTB	6-M20	SPL	外 SPL- 9 内 SPL- 9x 80	HTB	6-M16	SPL	外 SPL-9 内 SPL- —
ウェブ		2x2-M16		2SPL- 9	1x4-M20	2SPL- 9		1x5-M20	2SPL- 9	2x2-M16		2SPL- 9				
備 考													隅肉溶接サイズS =4			

鉄骨接合部リスト	A1:1/20 A3:1/40	特記なき限り 1. PL材質は母材と同材質とする 2. HTB F8T
----------	--------------------	---

接合No.		P200		P248		P250		P300		P350						
部 材		H-200x100x5.5x 8		SS400	H-248x124x 5x 8		SS400	H-250x125x 6x 9		SS400	H-300x150x6.5x 9		SS400	H-350x175x 7x11		SS400
形 状																
GPL	HTB	GPL- 9		1x2-M20	GPL- 9		1x3-M20	GPL- 9		1x3-M20	GPL- 9		1x3-M20	GPL- 9		1x4-M20
備 考																
接合No.		P248A			P446A											
部 材		H-248x124x 5x 8		SS400	H-446x199x 8x12		SS400									
形 状																
GPL	HTB	GPL- 9		2x3-M20	GPL- 9		2x4-M20									
備 考																







鉄骨架構詳細図(2) A1:1/15  
A3:1/30

- 特記なき限り
- ・ 柱 : BCR295、大梁 : SN400B、小梁・PL : SS400
  - ・ 通しダイヤフラム(DF) : SN490C、H.T.B : F8T
  - ・ BPL : SN490C、A.BOLT : ABR490
  - ・ 鉄骨天端 : FL(勾配スラブ天端)—150